



24



かもめ7440

夏の

陽射しは

とぶようにすぎてゆく

雲は

——キャンバス

…やわらかくてしろい

——消しゴム

(…トケル)

すずしいな——

雨…

「…朝」

——胸が痛い

、、、、、、、、、、、、、、、、、、
わたしもその名が好きだから

、、、、、、、、、、、、、、、、、、
はっきり分かるから

(雪解け水は さらさらと流れる)

(歌声は…)

(何もかも 願う)

…ただ なんとなく

—泳いでいけるよ—

どんな—どんな…どんな…**夢**—…

どんな—どんな…どんな…

こんぺいとう

—あまくてやわらかい

…うそのだいやもんど

—が—ながれて…

…おとなになる…

フルーツ…

かわきすぎてる ノウ

からっぽ—

「あなたが好きな海だから…」

……………会えた

あれは波動…気持ちよさそうな色にする—

(…トケル)

でもなんだかとっても

うれしそう

——だれもいない…12色のえんぴつで、

すこしの間、止まっている…

あれは魔法…夜の間流れていた、

ビー・ズィー・エム——

……………夏の海

、、、、、、、、、、
どんな歌が流れても

、、、、、、、、、、、、、、、、
人であふれた街に流れても

ビー・ズィー・エム——は…

君…

(klaxon) …

蝉が鳴く

しゅわ しゅわ と

—— (cider)

「会いたいけど——会えない…」

わたしは孤独で

..みじめであわれで

しずか..

しず か...

(青空に..小さな手を伸ばしてる...)

のばせないものは..切れていく——

切れないものは...壊れていく..

壊れないものは..長くて暗い夜の時間...

わたしは人魚..恋をして泡になる——

(...トケル)

ひとみをあけていても、みえない

ひとみがあるのかも、みえない

——届かない記憶が..産声をあげた

あいまいな、感情..

...ほしくて ほしくて

たまらなかった あなたの言葉

あれは魔法..夜の間の流れていた、

ビー・ズィー・エムー

1月14日

孤独な夜だ。1月14日、欧州宇宙機関の土星探査機“カッシーニ”から分離された小型探査機ホイヘンス・プローブが土星の衛星タイタンに突入し、その表面に着陸した。そのうてなから三島由紀夫に。おお、原口統三。前者は、風が色を重ね道にしるべを作る。後者は、書棚・天井ほのかに灯る。共通点は、文学の害悪、あるいは生者による死の発見。もし、何もせずにのうのうと生き残っていたって、雨降れば雨のしづくというリンチ上映会かもしれないだろう——人は相変わらず、何も変わらない。オペラ座の怪人も、ね。NASAの人工衛星から届いた、不思議な天体写真。オペラ座の怪人に見えるそう。写真を拝見したけど、確かにいい線いってる。話すべきことや、知りたいことは、詩ではないという、それだけのことなのかも知れない。だから僕は、三洋電機が販売する充電式ニッケル水素電池eneloopの話をしてしようと思う。八個で、二千円を超えてるすごい電池。ものすごい電池。答えはどうであれ、原口統三が、D・H・ローレンスみたいになれなかったことは残念さ。ともあれ、僕はもっと前向きに生きよう。焼肉を食べながら、引っ越し前の実家で、何故だかユニクロの話をし続けていた僕よ！・・・いや、服買いに行かなくちゃいけない、洗濯ものじゃぶじゃぶしなくちゃいけない。別に何も無いよ、お嫁さん欲しい、それだけさ。いまなら僕は、自分の値札を買い物かごに入れられる程度に設定することが出来る！と——ふざけまくっている、僕で

さえ、毎日少しずつ、何かをしなくちゃな、と思うのさ。難解な思想書を一行一行推理しながら読むことさえできる僕でさえ、毎日、少しずつ、何か違う試みをして人生の可能性を試みる他にない、この長い夜の中では、若い頑強な肉体などないようだ。知的資質によって形体上の影響を受けていないと見なされる場合だって、僕が工場で働き、僕が睡眠時間を削り、人生のフライングウィッシュにならん！とかね…、そういうのもいいかなあ。最低、僕には少しむずかしすぎる夢があり、お金だけじゃ解決せず、かといって、頭がよいだけでは駄目、人間としてもよくならなくてはいけない、というように、様々な声を多重放送させながら、現代の詩というものと向かい合っている。第一の声が、言う。詩を書くことと生活することの両面を充実させるべし。やれ、詩と思想、コールサック。潰れた後の面倒は見ない。保障制度という救済措置もなく、詩人と言う職業化も出来ずに、やれ平然。やれ、肉体と精神の調和。下らんよ、俺には魂がある。第二の言う、ビジネスマン！…ツイッターで俺のダイレクトメールを埋め尽くす、アフィリエイト？…天才のノウハウ？——しどろもどろになるぜ。物質主義の王国では！…第三の王国では知識偏重ならびに片頭痛。時限爆弾呑ませたガラガラヘビは強そう。第四の王国では、見え透いた人格的奉仕。俺の言う、本当の、奉仕なら、社会の不正と徹底的に戦いまくってやる。小熊秀雄の正当後継者？…在りし日の通り名さ。色んな名がある。そんな風に、僕の力はより一層高まるだろう。ああ、新しい生活。慣れれば、もっと力を発揮できるようになる。負荷をかけることによって筋肉量を増加させる、さ。狗尾草を、猫じゃらし、と可愛くする。しかし体育会系的な単細胞の意見をしてどうなるものでもない！——我々詩人は、最善を尽くすことだ。自分に勇気を持つことだ。この見え透いた嘘であふれきった真っ暗闇の時代を、どうすれば明るくすることが

できるか、いま、ひとりひとりが考えなきゃいけない所まできてる。ねえ、僕は正しい道を歩いてる。実際、いまはどんな人に何を言っても無駄だろうけど、そうさ、彼等は聞く耳を持たずにエロサイトへ行く、自分を騙しながらニュースを読む、愚か過ぎる人達だから、愛についてわざわざ言う必要もない。体制ではない未完成のシステムと、個人を安心させてくれる従来通りのシステム。結局みんな、自分が安っぽいと決め付けるのね。名指ししてよいなら、詩人会議も大分安っぽい。安っぽいニュースバリューしか持てないものが、今後また、政治的な意見をするのかという矛盾は僕にはどうしようもなく憂鬱だ。だが、自分を甘やかしてどうする！…自分のことしか考えられないでどうする。――いまの在り方は間違ってる、身体、感情、人格、個性もそう言ってる。スタンドプレーだとしたって、複雑な要素から構成された調和の取れた配列、秩序と言えるのか、と僕は思う。そういう表面上のことは、仕事だって一緒さ。友人関係だってね。たぶん、次の子たちも同じ轍を踏むだろう。何千人、何万人と話そうが、本当はこうしていきたい、という、正しいことが何なのかわからなくちゃいけない。いつかちゃんとわかるさ。意味のない人生なんてない。たとえうまくいなくても、神様はわかってくれる。無罪で裁かれたキリストのように、人というのは、本当に何も勉強しない生き物だからね、スポイルや、エゴに対する自覚もない。しかし、屈してはいけない。そこで、おいっちに、と屈伸するのさ。よくわからないけど、カモメ体操始まるぜ。小さな一步を大事にしなくてはいけない！…七十枚あるというこの便箋に、七十日書き綴っていくということにも一つの真実があるだろう。嘘と出任せとその場の思いつきの毎日の駆け引きの中、僕だって、もう駄目かも知れないと思う。どうすりゃいいんだ僕はもう二十七。ねえ、君はあの、サイトで繰り広げられた若い詩人と老いた詩人の争いを

見たかい。なおかつ、権威を装うこけおどしな連中を知っているかい。まだ、ある。でもそれらは、彼等自身のよくない行いとして、今後何十年も自らを苦しめることになるだろう。僕はそれに参加しない。納得しようがしまいが、これが生き方。よい行いを重ねていくことだ。しかし、自分の言葉でそれを理解し、表現していくのは何と難しいことだろう？..僕は、きゃりーぱみゅぱみゅ、が、宝くじのことだと本気で信じていたんだ。ひどい話だろ、いや、僕も社会も、自分を宝くじのようにするしかないのかねって溜息をつきたいのさ。

1月15日

今日、風呂に入った。この言葉は、一切の誇張なく、花より団子、冬には飯より風呂からきている。ところで、1月15日に、田中角栄総理大臣のインドネシア訪問に合わせ、ジャカルタで大規模な反日暴動が発生したことは知ってるかい？ ウィキペディア参照さ。ちなみに、メシ、フロ、ネルは、編集者の口数の少ない、亭主関白的父親像から広まっているらしいのだけど、本当かどうかは定かじゃない。キャプテン・ビーフハート・アンド・ヒズ・マジック・バンドのヴォーカルが、今日生まれたんだって、だから何？..ともあれ、捕り立ての鯛を、浜辺の塩がまで蒸し焼きにしたい僕である。目下最重要の確認事項は、ガスが使

えるかどうかという、ワトスン君初歩だよということではなく、自動でお湯が入るのかと、奴（もう、奴なんだ。ひとり暮らしという、永遠の生命をののしり、ただ食べて飲んだりの放蕩三昧の日を送る者よ！）と俺は飽くなき戦いを始めていたのだが、――僕は知った。

フラクチュエーション

そして、愕然とし、こんな綺麗な花の味を誰も知るまい、と思ったのだ。微変動…線香花火の化学変化。火球がジリジリ沸騰している間の絢爛の前の静寂。盛んに小さい炎を出しながら燃え上がる時、僕は蛇の赤い舌に恐怖する理由をそっと垣間見る。そうだ、ここには自動で一定量までお湯を注ぎ入れることなどできないのだ！…つまり、無駄遣いせよ、との御達しだ。いやそんなこと確認しなかった、てめえが悪いんじゃないか。まあいい、実家のことや、友達の家など次から次へと思い出しながら、トランクとTシャツだけの野獣死すべしというワイルド&いかれ野郎な格好をしつつ、僕は仕切りというジャングルの誇張表現を掻き分けて、浴槽に、あたたかい水を注いだ。“新しき啓示”である。科学万能主義者的理科教師の真理。化学の授業で、彼は言った。これはお湯ではないのだ。42℃のお水さ。風呂に水を入れながら、あわただしく動く。或る種のしおらしい、というか、おめでたい透明物質に包まれた変温動物。哺乳類。食事を与えられる。食事を与えよ！――チキンカツ弁当、おっと違った国産チキンカツ弁当に、カップヌードルさ。炊飯したい。実は、仕事の合間、コンロではふはふいいながらラーメン食べる光景を思い浮かべ、いや、僕はいまでも川辺で何故だかそんなことをしたい衝動に駆られるのだけど、近い将来、僕はコンロを買おう、と考えていた。目をくりくりさせながら、目の前は三千世界さ。コンロインスタントラーメン。これは登山にも海のひと場面にも、冬のひとり暮らし電車うるさいよにも、高速道路やっぱり車うるさいよにも、古代から今日まで、讚美の限りを尽されている事項である。何のこ

っちゃ。でもいいんだ。なにはともあれ、チキンカツわりといけるね。ああ、しかしわりとなんていうのは、その後何の知らせもないのが例で、わりと、とか、まあまあ、で、素っ気ない。ブルースにハーモニカがないようなものさ。料理批評家のせいなんだよ！ 飲んだくれが醜態を演じる度合いが猛烈であるなしにかかわらず、枝分かれした爆発的分裂。どんな時代にも、美食家と、ゲテモノ喰いと、三度の飯より口うるさい主婦がいるのだ。ああそんな手合いに接すると、悪魔的影響を受けて、美味しい、なんて言う素直な言葉は遠ざかる。これ、間抜けに思えて、言わないのである。本当はすごく美味しいなあ、舌なんか全然肥えてないんだよ、本当にオレ、安上がりなんだよ、一家に一台どうですか、と思いつつ、にこにこしていても、あの批評家のふてぶてしい、俺は美味しいもんしか食えないよ、実際そこらへんにある奴を食べてたら舌が腐ってちまう、まずい、なんていう類の暴言を聴いていると、グルメだよみたいな顔をね、してやりたくなるのね。さあ、社会福祉のための寄付金を公募しよう！…テレビ番組ってこわいのだ。知らず知らず影響をうけてる。何度も見てるうちに、僕はあんまり軽々しく美味しいと言えなくなった。たとえば、鮮かな緑で蔽われた、シャトー古城の白い塔はきれいだけど、美しきヨーロッパだけど、ジョージアのヨーロッパアンシカイメージできない貧困な僕ということさ。最低、美味しいじゃなく、美味しい。でも、本当に料理評論家って奴はみんなどうかしてると思うよ。単純素朴では満足せず、何やら複雑なる物言いで、折角の品質を落とし、あれ営業妨害にならないのかなあ、時間を無駄にし、勝手な推論と思惑とで上塗りをする。大体そんなテレビ番組に出たら、そんな料理しか出てこないに決まってんだよ。愛すべきオ馬鹿キャラ。おネエキャラに、オカマ。風流心のない、奥の細道へ行くでもないアーバンライフにはこのような肩書きの人が必要なのだろう。「牛乳を

飲んで…」という子供時代の場面みたいに、おう、とんぐんぐ飲んだ太っ腹、いやいや残飯
処理的な僕は帰らない。B級グルメリポーターみたいになれないのかね、と僕は思う。そ
うだ、そんな奴に限って、お茶漬はサケか、ウメにして下さいって言うんだよ。しかも、
高級料亭でね。極めつけは真夜中にちびちび酒飲んで、ああ、俺って可哀想だなあ、本当は
、俺っちはさあ、もっと違う生き方があるんだよね、とか言ってんだ。ごちゃごちゃうるさ
いんだよ。孔子に楯突く社会観人生観道徳観！..僕は、別にシスコンというわけじゃないけ
ど、姉は実際とても美味しそうに食べる。僕もあんな風に食べたい。いかの塩辛どうだい、
ああ、僕はまるで正岡子規！ 魔神子規殿なら、吾輩の頭の単純さに少し呆れてくれ、それ
でも踊り歌のひとつでもやってくれるかも知れない。さようなら、羽をつけて飛ばしてしま
うチリ領イースター島のモアイ。ああ、波紋。でも飯の話は大切だ。岩攀するべし、ステン
ドグラスの空の色——最低何食って、明日どう生きるかって発想は、グレートだ。占いだっ
て、作戦を練る参謀と考えるなら、グレートだぜ。運命の糸を紡ぐ女神クロトに、運命の糸
を断つ女神アトロポス。実は、こういう人間らしい考えって、僕に多く欠けている所でもあ
る。子供時代の憂鬱な夕飯的事情、いわゆるテレビも観れない、笑えない、という理由から
、妙に頭の冴えるような冷たい枕の頭なのさ。いろいろな物音が押し潰そうとしながら、ま
ったく別のことを考えるように仕向けられる——力強い波濤..中々興味深いテーマだが、環
境は確かに一つの食事スタイルを設計する。それでも、それゆえに、僕は胡坐を搔いて、テ
レビを見て、笑いながらご飯を食べるのが一生の食事時風景の憧れである。でも、と僕は思
う。でもさ、僕はラーメン屋、とあるラーメン屋[* 熊本豚骨ラーメン。中国で一番成功
している日本の外食チェーン“味千”]が大好きなんだけれど、これだけはやめられないね

。中毒なんだ。煙草もやめられない。生きるための哲学の一つだから。ともあれ、僕の父親が、熊本出身であることとはつゆほども関係ないけど、身体に悪いかもとは思うけど、365日ずっと食べ続けても飽きないくらい好きだ。から揚げにさ、サラダつけて、ご飯。近頃はキムチ添えてるけど、前はフクシンツケでさ。すごく好きだね、おいおい、また行きたくなっちゃうなあ。そうさ、身体に悪いからって、それを選んじゃいけないってことはないさ。食品偽装。誇張広告。過剰な反応の情報にやられて、あらゆる商品が汚染されているように見える。でも、ハンバーガー好きだぜ。オムライス。かつ丼。親子丼。カレーにハヤシライス。そばにうどん。思いつくままに適当に並べてみる庶民な僕だが、それでもやっぱり365日いけそうな気がする味千ラーメンは好きだよ。王将も好きだけどね。ああ、飯の話をし続けてしまいそうな僕であり。お菓子はコアラのマーチ、チョコパイ、という感じさ。ジュースはやっぱり、美味しいよね。子供時代ほど、ジュースってべらぼうに好きという感じはしないけど、だって砂糖とりすぎだよとは知っているからね、それでもいいさ、紅茶が好き。コーヒーも好き。ぐんぐん飲むほどに、僕の身体は腐っていく。やっぱり天然100%に限るよね。ほら通販のジュースが欲しくなってくるぞーかのように、むちゃくちゃうすっぺらである。嗜好や趣味なんてこんなものだ。精神的邪悪な日和見主義者の、毎日。ライフワークは、生きること。生きてさえいればそれでよいのだ。それでよいから、ぼくはうなぎは、こくさん、じゃないと、いやですー嫌です、と主張する。中国産と国産で差別する。ようは品質じゃなくて、その味の開きじゃなくて、きちんとした調理加工環境であるか、本当に僕等の健康は大丈夫なのか、ということなんだけど、何故だか、差別主義者めいてくるのが嫌だ。でもこういう、うすっぺらな揣摩臆測、デマってやつは枚挙にいとまがない

。もちろん、誇張広告じゃなけりゃ解釈の一としての、成功の喧伝例は、世の中にいつもあふれている。ありふれてる！…ああ、そんなことで僕は世の中を呪ったりはしないけど、薄っぺらであることは、偏狭であり、真理の普及を妨げるものであるということは指摘するよ。そんなわけで、お風呂は三日に一回、あとは、シャワーで済ませちまおうと今日僕は決めたのだった。え、そんな話してた？ 次は入浴剤買ってこよう。バスクリンにしよう、やっぱり語呂がいい。おいおい、君、いままでの話ぶち壊しにしてない？ そうかな、いやそうだよ、でも意外と新生活エンジョイしているということさ！…と、ちゃぷりしたあと、さて、再燃焼、いわゆる風呂をあたためる作業をしようとした時にまた気付いた。つまり奴には、五右衛門風呂でいうところの薪を入れることができないのだ。おう、わかった。お風呂は一週間に一回で、あとは、シャワーさ！…

日記の間奏 1

ウィークデイズ

平日。

ウォークデイズ

歩行日――

(ぷぷく――急速潜行さ、イエローサブマリンに、ハイジュードを口ずさみながら、僕は

、電気スタンドが沢山灯っている部屋のことを考えた。)

*

日記って、どういうものなんだろうか、と僕は考えてみる。

メモ帳?..ふと思い出した時に便利な道具?

それとも、日々の雑多な記録?..

願望..

「何でも書けて、どんどん消せる、

情報共有のツールみたいになればいい」

*

バレンタインデー、ひなまつり、母の日、父の日..

立春、春分、夏至...

月の満ち欠けと、今日の天気..

..パソコンが可能にした、

携帯が可能にした、

아이폰が可能にした、 ..

*

“あなただけのポストカードが見つかるかしら？”

“あなただけのボードとマーカーになれるかしら？”

おもて・うら

ハンガーやフック

マグネットにシールに

ポケット…

*

ウィークデイズ

平日。

ウォークデイズ

歩行日――

（ぷぷく――急速潜行さ、イエローサブマリンに、ヘイジュードを口ずさみながら、僕は、電気スタンドが沢山灯っている部屋のことを考えた。）

*

（町での発見）

「もう正月の飾り物が消えている…」

「今日、朝の踏切で、はじめて電車三本がきて、渡れなかった。

対向車線、いつも渋滞。こちらはいつも空いてる――

この先に、都会があるんだ、と僕は知ってる。」

「自転車で通学する男の子や女の子を見ながら、

そうだ——背伸びする季節だ…大学や高校などの受験シーズン、

入学、就職する人もいる——失敗して気弱な人もいるかも知れない…

人それぞれと言えるような社会じゃないけど、

もうすぐ春なんだな…」

「そういえば、小正月があって、夜店がずらりとしてたよ。

ベビーカステラに、焼きそばに…

いやあんまりよく見てなかったから、それ以上は適当に言いそうだけど、

活気があって、楽しそうだったな…」

*

《ON》——《OFF》

出力切替…

——ファミリーマートの大きなトラックを、

夜中に見た、

ルート配送だって、知ってる ——

*

インタビュー「どんな朝を過ごされているんですか？」

僕「目覚まし時計二つあります。前の携帯と、 아이폰があります。

四つ、目覚まし時計を鳴らします。全部で十六回鳴ります。」

インタビュー「朝、弱い？」

僕「心配症なんです。」

インタビュー「ご飯は？」

僕「おにぎり、前の日に二つ買います。パンにしようかとも計画中です。

食べないと集中力が違うってデータがあるらしくて、それを参考に、食べてます。

身体が資本です。それと、メガシャキ飲みます。まずいです。

ジンジャーとコーラ混ぜてカポエラしたような感じ。

A K Bのシール貼るのやめてほしい、とずっと思っています。

いろいろ試してみて、これがよかったから続けてるだけで、

別にCMがあるからとか、何とかの流れでとかいうわけじゃないです」

インタビュー「そうですか。ちなみに、私、A K B好きです。」

僕「そうですか。キムチラーメン」

インタビュー「……」

僕「たまに、面白いこと言いたくなるんです。

でも、あんまりウケないんです。そんなものです。

でも、好きだから、言います。僕、AKB好きじゃないです。

逆に、AKBが好きな人を見てるのが好きです。」

インタビュー「…と言うと？」

僕「前の会社で、違う所へ仕事へ行くことがあって、

上司と、仕事場の同僚と、車に乗ってたら、AKBの誰それが好きだって、

その上司が言うんです。確か、子供いたって話を聞いたことがあるから、

奥さんいるんだと思うんですけど、奥さんいて、子供いて、AKBが好き。

おもしろいですよ。僕だったら、社会的体裁で、そんなことを言えない。

そういうのが、許容されてる周囲の人たちってのも、僕には面白い。

たかだか話題というけど、イメージから、そういう人なんだと思いきまれる社会で、

僕は、そういうのをあんまり口に出来ない。でも実際、AKB、

好きとか嫌いとか、よくわからない。ブルースウィルス好きか？ 好きです。

映画好きか？ 好きです。でも、AKB好きか？ と聞かれたら、わかりません。

考えたこともないし、今後これからずっと、考えたくもありません。

ああいうのが当たり前の音楽だというなら、糞くらえだと思っし、聞きたくもない。

でも、アイドルの音楽だというなら、あったらいい。ただ、僕は聞かない。

何も感じないし、何も考えたくない。」

インタビュー「…はい」

僕「目の前に来たって、気持ち悪いだけですよ。

まず、差別しているんじゃないなくて、僕は、きちんと区別してるんですから。

僕は、彼女たちと知り合いでもない。だから好きなんて、気持ち悪いですよ。

だって、きれいな女の子が歌ってる、踊ってる、また頑張ってる。

えらいですよ、いやいや、すごいです。睡眠時間少ないと思う。

普通の生活できていない、と思う。恋だってしたいだろうな、と思う。

そこは、人間としてわかる。僕だってそうだから。

でも、アーティストじゃない。

アーティストって言うのは、流行に左右されるものじゃない。

耳に入った瞬間から、その人のよさとか、すごさとか、さびしさとか、

もろもろの感情でじわっとする。

そういうのを、知ってるから、とても評価できない。

A K Bをアーティストとして、評価できない、

だから俺の目の前でA K Bの話するな、と言ってるだけです。」

*

たとえば、かもめのポリゴンを作り、

彼に、かもちゃん、と名付けたとする。

繁殖・放牧中、という札が貼られてはいないが、

そこに人間が住んでいるのだが、どいつもこいつも、

なにか、人間ではないような不思議な感じがする、

当たり前だ、戸惑いはその姿だから、

行動が別の論理で規定されている…おお！——

かつてのありのままの子供時代があったとする、

感じることをすなわち行動すること、

蜂に襲われて逃げる、

スコップで穴を掘る、

花をもいで蜜を吸う——

君もそこに行って見たりすることができる、

その空想の地上においては、

全てのところとは、対象による発見であり、

それらは必ず思想的限定されている。

だが、同時に他者によってその思考を拡大し、

その同類で形作っているのが、空想ではあるが、

君の知っている幻の町であり、

なんらかの秩序による流れを意識した時、

働く人、動く人、考える人がいて、

図鑑や、百科事典、図書という名の小説、漫画、

ゲーム、アニメ、映画が見えてくる、

これを、ロールプレイングゲームの論理とでも言おうか、

人は歩くのではなく、探すために歩くのだ、

しかもただ歩くのではない、考えるために、歩くのだ、

そして、あなたに見えてくる、このアルカディア…

大きな大きな理想の街となる――

*

かもちゃんと一緒に、

冒険旅行に出かけてみるかい？

1月16日

今日のニュースは、ファブリーズを買ったことだ。急速殺菌&消臭。ああたとえば、カーテンを押し開けて中を覗いてから「失礼しました！ 閣下！」と言って出て行く客があったとする。どうして閣下かって？ ネタだよ――下着売り場をうろついでる、男性にかけたい、っていうシャレさ。まあ冗談ともかく、服にぷしゅぷしゅっ、とね。ねじの回転-思考の軋み。結論から言えば、多分衣服にかける用途のものではないんだろうね、そんなこと一言も表示されてない。誇張するなら、霧の立ち籠めた断崖を覗いたような不安。消臭剤が並ぶ棚

。目にとまるスプレータイプ。ああ、探せばちゃんとあるんだろうけど、面倒臭いよ。僕はこんな時、本当に面倒臭くなっちゃうんだよ。別に何だっていいよ、と思う。赤が、黒になったら困るけど、別に赤ならちょっとくらい違う赤でもいいじゃないか。まあ、他によさそうなやつ見当たらないし、僕が欲しかったのはまあファブリーズなのでそれほど違いはあるまい、と目をつむり決断。瞳の裏に踊ってた文字が逃げていく“いい加減”とか“きっちりしなさい”――母親のような役割をする言葉。教訓を垂れる一瞬間。少し耳の痛いことも手帳に本の名のように書き留めようぜ、しばきあげるぞ。そのようにして、メロン系の匂い――何か違う名前の匂いがついてはいたが、メロンだよ。君だって、この匂いを嗅いだら、絶対にメロンだ、って言いたくなる。ねえ、君さ、フローラルとか、アロマとか、イメージが湧くかい。僕は無理だな、だからこれはキャッチコピーの世界なんだよ。いっとくけど、テレビのグルメリポーターだって嘘八百なんだぜ。実際、彼や彼女が述べたような味だとして、それがどういうコードのものかってことが理解されてる瞬間に、君が理解しやすいように、嘘をついたってことだからね。理解を助けるものは、大抵嘘だ。最低、僕はそう解釈してる。たとえば、強い日光が葉越しに射して来て、敷き詰められた細かい砂利の上に、公園のベンチにも、点々と輝いた光斑を作っているようなものさ。君は、こういう描写の中で、ネコになれるはずだ。ああ、望遠鏡を覗いて待っているのが、ちょっと滑稽に思える夜空のようなものだね。人って、イメージで感情を作れてしまうものなんだよ。ここに自我があるし、情念がある。いかに幻想を見破って、その依存関係から離れるかだよ。もちろん、知ってようが知ってはいまいが、みんな、二本足で立ってるのはその嘘があるためだよ。車のシルバーと同じだ。何とかシルバーとか、シルバー何とかね。僕等はそれを、シルバーと言うん

だけど、..実際、シルバーは銀色でもあるけど、くすんだ白色、灰褐色も含む。でもこれだ
って、含むというのはやさしさで、シルバーは一つしかない。けれど、多くは、やさしさで
説明する。何故やさしさが必要かって言うと、多くの人困らないように、また僕がそこで
社会を認識して発言する-文章を書いているために起こってる。人は機械じゃないってことだ
。インプットされた情報だけでクリアできることばかりじゃない。人のイメージってそれ
ぐらい開きがある。恒星と遊星と衛星、全部別ものだけど、世の中ってのはさ、星っていう
ものでひとくくりにすることで、難しいものも易しく呑み込ませようとするものなんだよ。
世の中は学問が手助けするところじゃなくて、どれくらいの理解と反応ができるか、だと
時々思うよ。でも、君、こいつはシルバア！——だって、僕の記事だからね、シルバアに決
まってんだろこのすつとこどっこい、まあ、そこに読者がいるという前提で僕はおどけてる
のさ。それと同じように、メタリックシルバーも、購入者側の購買意欲を掻きたてるために
、少しオシャレな感じにしているんだと思うよ。分類としての見方をする人もいるだろうけ
ど、心理学がいかにかに広告に利用されてるかだよ。それは多分、会社を知らない人だと思うな
。商品ってのはさ、分かり易さ、とか、当たり前の見方よりも、僕はまず、イメージづくり
、だと思うからね。たとえば、僕がIQ200くらいある場合、僕は君に知識量を訴えかけ
、いかに君よりすごいかってことを植え付ける。僕はそれ文章なら出来るよ。これは、イメ
ージの駆け引きに長ければ誰でも出来る——実際、頭がよくなることよりも、いかに多くの
ことをきっちり考えたかで、文章はうまくなるものだし、知識量よりも、いかに時間をかけ
て、丁寧に作るかの方がずっと重要なはずだよ。まあ、一般論として。ところで、このメロ
ン！..ああ、めろめろさ——実に、病みつきな臭さ、失敬、パンチ、キック、ああ、めろめ

ろさ、これ、失敬、こりゃ失敬、ローリングソバット、延髄蹴り、おお！…めろめろさ。クワガタ虫もカブト虫もカミキリ虫もセバスチャン虫もやってきそうな甘熟南国臭気。最後いらなくない？—あ、無視した。こほん。えーと、今日はシャワーの後、風呂場（と言いつつ、トイレと洗面所がドッキングしている、シティーホテル状態）で、服を乾かしてみたんだ。といっても、洗濯をしたわけじゃなく、たんに、ぱたぱた代わりに、メロン系の匂いをさりげなくない勢いで充満させただけのことである。ちょっと、振り掛けたりもした。ところで、話突然変わるのは、リアリティーの追求だからなんだけど、子供時代から今に至るまで、メンチカツを僕が買うのは、これ買い食いの感覚からきている。いや、今日スーパーで買ったんだよ。九州産黒毛和牛のメンチカツ。かつ丼と、4種のサラダセット、クリームポテトに、ひじきに、スパゲティーに、あと、もう忘れたレタスっぽいやつ4種のサラダセット。違ってたらごめんよ。でも、そこが日記のリアリティーだと思って、僕もあえて、調べないで書いてるんだ。ああ、何処から何処までをコード化するかってことが、今現在の僕のテーマになってるんだけど、まあ、一週間後には忘れてるな。というわけで、3種でも可。三種の神器とはこのことである、と言っても、なるほどなあ、と肯いて見せるので可！

しかし、君サービス精神旺盛すぎないかい？ シャレさ、と言えはいいのに、君はスアレで、というおじさんを知ってるかい？ 何だい、そのアイスクリームな物言いは。君はスアレで毎日を過ごすのかね？ わからないな、と僕は言うと思う。毎日楽しく過ごすために、僕だって色々おもしろいことをやってるということだよ。圧倒的な内面の世界。老人の世界、と言ってもいい。僕はいつだってギャグばかり考えながら、真面目な顔をして、過ごしてるんだよ。でも、近頃、食生活について、霊的な考えを持ち込み始めて、肉食でいいのか

な、とは思ってる。だから、メンチカツとか、かつ丼とかはシャレで買ってるけど、一一何故シャレかっていうと、これは僕がこの日、たくさん詩を書きたいなあ、とっていたからなんだね。そこで、景気づけ。身の回りのことを変えることで状況が変わるか？ 変わらないよ、だから、シャレ。でも、気持ちは満たされる。小さな一歩は大切。心がけは大事。後はもうガッツ。けれども、サラダセットは生活面の僕の本気さが少しあらわれているような気もしないではない。近頃僕は本当に、サラダというか、緑黄色野菜、緑色のものを切に求めているような所があって、単純に、新生活への不安からきてるのかも知れない。病氣した小熊秀雄状態。けれど、優しくなり過ぎてしまう僕なので、僕は肉食する。女の子のお尻を見ても、ちっとも何も感じなくなってる僕は、少しさみしいと思うのだ。エロは嫌だけど、エロがまったくない世界はつまらない。卑猥や猥褻が、時々疲れた僕等の身体を本当に慰めてくれる瞬間がある限りは。ああ、その内、hiroyuki呼んで焼き肉だってするぞ。男の子、バッファロー化計画。しかし、毎日これでわりとやっていけそうな自分というのは、何処で発見するものなんだろうな、と思う。ちなみに、僕はそんなに几帳面ではないけれど、まだゴミを捨てたり、洗濯などしているわけじゃないが、ひと通りの生活というのが出来ている。一通り、人並み、普通・繰り返すたびに、よくわからなくなるよ。でも、生きていて困らない限りはそうだって信じるしかないんだな。ところで、俺さ、実は風呂の掃除だってしたんだぜ。え？ 何を大層な、って思うかい。みんなのポイントが何処にあるのかはわからないけど、僕の中では、これ高ランクのことなのである。自分に甘いということじゃなくて、僕が風呂掃除をするなんて、ほんの一週間前の僕なら拍手したと思う。男の子たるもの風呂の掃除すべからず、などとという家訓あるわけじゃないけどね。でも、現実的な視点に

おいては、僕が仕事場でグレーや黒のペンキで汚れてしまう事情から、なるべく風呂場を清潔に保つために、だって、毎日家に帰ってそれでいいや、家くらい気を抜いていたらいいや、じゃ、進歩がないからね。少しずつでも、変わりたいのさ。だから、どうしても必要だと思ったんだな。必要に迫られたことは、評価に値するものではないけど、一応プッシュ！

といっても、これは、目で見ないとわからないかも知れない。どういうレベルのもの言いかわからないと、伝わらない。それにしても、どうでもよいことばかり書いている僕だ。スーパーの女の子の額のほくろ可愛い。僕はライフとかいうスーパーを近頃気に入っていて、これ、ホームセンターコーナンと隣接してる。よもや、ホームセンター知らないわけじゃあるまい、と書いてしまうのは、シャレである。だって、本当に知らない人いると思うよ。君は、そういうのをコードだって知るべきだ。コード！..コード！——仕切りがあるんだけど、そこを警備員さんだろうな、開けてくれてるらしくて、ぶおおおって、突き抜けてくのね。コーナンにも用事があるので、そこすごく愉快的瞬間。しかし、あんまりこの感覚って人にはわからないかも知れない。ツボな人は、わかりますわかります、と言うんだけど、中々ね、僕のおもしろさって伝わらない。だからわかり易いギャグを求めちゃうんだ、きっと。でも、本当に些細なことの楽しさって、表現しづらいけど、たくさんあるものだよ。たとえば、ファブリーズをさ、服にぷしゅぷしゅっ、って、かけてるの、どうもすごく楽しいんだよ。もし、スプレーボトルを振り掛けるだけの男、という映画があるとしてさ、本当にただそれだけをやってるんだけど、ああ、こいつ楽しそうなことやってるな、と僕思うなあ。もちろん、芸術的な見方としては、退屈とはこのようなものである、と説明するだろうね。それが説明だよ。僕本人かいらない。嘘だけど、コードなんだよ。共通認識というね。そもそも

、峠道でバイクをぶおおおと走らせながら、ウサギいないかな、と探してしまう僕の気持ちは中々たぶんわからないと思う。日記なんて個人の記録に過ぎない。個人の内省の度合いとサービス精神の兼ね合いで、そこにリアリティーがあるかないかだけだ。僕は、どんなものにだって詩的価値を見出すように心掛ける。それだけのことさ。そんな、僕はスーパーでレジに並び、ひょいと店員の顔を見て、心の中で呟く。ねえ、どうして君はそんなにほくろ子さんなんだい。ああ、でも、コンプレックスだったらごめんよ。でも、そばかすみたいで素敵だよ。人と違うってことで、自分と違うってことで、好きになれるんだよ。まったく一緒だったら、人を好きにはなれないよ。いいなあ、と羨ましくはならないよ。それが、差別や暴力を助長してるとしてもね。ああ、言ってくれ、ほくろ子さん、君はどうしてそんなに素敵なんだい。それはあなたがほくろ太郎だからよ。素敵だね。そうよ素敵すぎるわ。

日記の間奏 2

せんたくをする。

ついに、うごかした。おー、うごいた。ぶるるっ、ときた。

――奴の話をしてみたい。

一か月くらい前からスタンバイしてた奴だ。俺は電源を入れる。

そこから選択メニューを選ぶ。そしてSTART。

…目の前にバナナがあったら、食べたと思う。

だれでもできるせんたく。だれでもできるせんたく。

I love youくらいなら誰でも言える。

しかし、奴が、じゃああああっ、と水を入れている時に、

そうだ、と、柔軟剤と洗剤のようなものを目分量で入れる。

すでにただよう、くささ！…

だれでもできるせんたく。だれでもできるせんたく。

——でも男の子は少くらい、臭い方がいいのよ。

中学でタバコ、高校でタバコ、おなかも真っ黒、灰も真っ黒！

そりゃそうだ、…

それにしても洗濯機ってどうして、ああどうして、

ごろごろばきばき、なんでしょうね？

町のごろつきさながら、どうしてああも、うるせえのざますでしょう？

うるせえざます、うるせえざます！

——もう、本当にうるせエ！

どびゅどびゅばんばん…消音装置とか…、

騒音低減とか、

ねえほら、あのドラム猫式…、ドラム猫…？——

どら猫…ドラム猫—ドラキヤット…何のことだ？…

うーん、うーん……、

いやもういいんざます、ざアます！

あたしが言いたいのは、いくらなんでもたこ！

たこはなんでもブツ切り！

…いいから。ふつうに。

へエ。へエ…、

三千より上って意の四の中、いくら難でも、遣り過ぎな尾戸！

へエ、貝醜斜！…開発者が、これをデ、ゲスね、へエ、

一向に疑問を覚えや柄ねえのかガラガーナというわけデ。

「ふむ。ガラガーとな」

「ガラガー、ガラパー、ガンパラピー！」

—男性社会っていうのはサ、どっか、日本灘、カトリーナ、

荒々しいものですよ！

…たとえるなら？

たとえるなら、たとえるなら、ジャングルでトラが目の前にやってきて、

うるせエですよ、と—言ッテ…

喰われるだケ、喰ッてケ、喰ッてケ、ケケケのケ…、

もう、ふつうに話せるか？

—あい。

…と、洗濯が終わって、ヴェランダの所で干した。

洗濯バサミ、ハンガーにおらおらとする。おらおらは、とめるに非ず！

おらおらは、オレオレに非ず！

……そういえば、オツ母さん、明日は冷えるって会社の人が言っておりやした、

腰の悪いオツ母さん、木枯しがブルル、ビュルルウと吹いテ…、

吹いテ、吹き矢しテ…、

オツ母さん、早く、くたばれヨ、早く、くたばれヨ、

浮かぶ瀬もなしああ砂漠！とくらあ…、

……と、そういえば、

昨日バイクに、シモが降りていて、少しビツクリ！

ヘッドライトの上部と、座席の中央部分に、何故か、

なにゆエか、シモが…、

季節は冬、お天気様もシモが好きねえ！とくらあ…、

温暖化——寒冷化…

向かっているのは超高齢化！

おあトはよろしくない、はやく、くたばれオツ母さん！

…何のこっちゃとチャチャいれリヤ、

ぽによぽによ、ぱにゃぱにゃ、やーっぱり、シモ！

だれでもできるせんたく。だれでもできるせんたく。

——サア、終わり！とくらあ…

1月17日

一日の朝が始まる *I wished him good - bye* …

寝ぐせついでてるよ、歯磨きしたかい。深い霧の中を歩いて行きながらの話し声。指を立てて数を問う。

*Good-morning...morning.....*ほら、街が動き出す。

おめざめの口付けはいかが？ *[winter days...]*

ねえ愛しい人！…夜の中から出ておいで、ほらもう、昨日は残骸…峰から沢へ行っちゃった。もう、怖がらなくていいよ…

チャコールー—細く軟らかい、陽炎が立昇る…。

入れ代り立ち代り、さっきと変りない人群れ…。

一日の朝が始まる *I wished him good - bye* …

きっと…見つけるよ、明日君が素晴らしく生きるために、みんなが胸を張って生きるために！…*[days gone by!]*

(*No...no...to advance step by step!*)

「ああ…みんなおんなじ—なんだ…」

(みんな—変わろうとしているんだ…)

朝へ—

でも声だけは、貪欲でまた獯猛な鋭さがあること、僕は、
知って—た…数歩どころか一步も進めない白い壁の前で、
じっと吸いよせられている。僕—僕が見えるよ…

ねえ、さわやかな朝—僕は君に、愛を贈るよ…。

淋しいだなんて、きっとすぐ忘れられる…。

笛があるよ…旋律が—そして、在りし日の思い出に…

どっと、嫌な眩暈に襲われたって—心配することないよ、

…朝、きっと、違う自分を見つけられ—る…

「昨日を…乗り越える—ために…」

(そうもつと—人を愛するために…)

I want you to sing this song...

I want to send this smell to you....

(人に負けないで…自分に嘘をついたりしないで…)

思い出のアルバムに映る、自分、振り返れなくなったら、

それは……君に葉がなかったってこと—

I want to send this song to you...

.....Love more for you!

——そして、町の表情が変わっていく！…消えていく…

………僕でさえ、君が、見えなくなっていく——

「愛が欲しいのに…」

(悲しみが…いまでも消えない——午前七時！)

1月17日 パート2

「SEIYUに行ってきた。」

いいですか？

いいですかって…えーっ、あの、いいですかって何が？

別にそれだけの話なんですけど——

「行って来た。」

文字変えてみた、ちょっと粋がってみようか、と思う。

ネタに詰まり出す。日記なんか別に書くことない。

でも書ける。鬼だから。ひねりだすこと、

便器の上のお尻の如し！

うーんうーんーあ。

「行って来た！」

(駐輪場に、とめた。キキッ、と停車した。

ー三十代のちょっとおしゃれそうな、おばさんが、
こっちに向かって歩いて来る。)

うん、おばさんと目が合う。

そして僕は思う。おばさん、それだけだ。

僕はバイクから降りる。鍵を押しながらスライドさせ、
ロックをかけて、抜く。

ヘルメットをつけたまま、歩く。

入口、目指して歩く。歩く道すがら、バーミヤンとかいう、

中華料理のお店がある。中華料理店ではなく、中華料理のお店、

というのが僕の印象なのだ。ちなみに中華料理店は、

中国人が働いている場合と、中華料理店っぽい店に限られ、

そうでなければ、我、中華料理店なりと看板していればそうである。

「バーミヤンとかいう店がある。」

たぶん、すごそう。ブーメランだったら、戻ってきそう。

たぶん、戻ってきそう。

戻ってこないブーメラン、弱そう。そんなわけで、入店。

たぶん、あなたは女子高生。化粧してて、眉毛そってりゃ、

あなたは仏様な女子高生。

「バーミヤンではなく、SEIYUに入ってる。」

左側に見えますのが、たこ焼き屋という風になっております。

右側は、きちんと見てないからよくわかりません。

SEIYUといっても、出店店舗が複数あり、デパートのようなもの。

ただ、デパートに非ず。デパートは百貨店であり、出店店舗数が違い、

基本、屋上に遊園地がなくてはいけない。

「嘘ですけどね。」

(でも、イメージをつかむのに、最低書き手としての僕には、

イメージとしての嘘は必要。)

それにしても、女子高生さん、なにやっとするのですか、と僕。

ははあ、買い食いですなあ。たこ焼き。

僕は、無視しつつ、店内へと。

本が置いてある。さすがSEIYUだ。

僕が知ってるいくつかのスーパーの中では、本の品ぞろえがダントツだ。

でも、ハーレクインはなかった。

けれど、レジ前にファッション雑誌を置くなんて中々すごい。

でも、ハーレクインはないので、三流だ。

ハーレクインがないと、世界平和できない。

赤毛のアン読まない奴に、想像力語る資格はない。

そんな奴は、三流だ。

「めちゃくちゃ一方的な決め付け。でも、

ニュアンスの中にある価値観の正常な理解がある。」

たとえば、ぼくは部下を持つ、部長のようなものである。

部長の言うこと絶対であるとは言わないが、

部長の話すことは、経験である。

それにしてもさすが、SEIYUである。

商品は安い。一昨日まで、こわそうな施設だなあ、

と、そったらとこ行かないべよ、あぶなかよ、と言ってたけど。

わざとらしい東北弁！

でもハーレクインはなかった。

秘書に悪いことをする、社長的設定は健在だった。

ともあれ、100円くらい値段が違う。

まあもちろん——閉店前の値引きをすれば、

つまりその時間にスーパーへ行けば、

大体どこでも似たり寄ったりだ。

それにしてもスーパーの袋くれないんだ。

そうか、どっかに書いてあったんだな。

僕には見えなかったな。そうか、時代だな。

「段ボール忘れた。」

とわざとらしく言ってから、両手でよいしょと持って、

運ぶ。バイクまで、運ぶ。

商品の一つが崩れてパックの中からチキン南蛮がすこしでて、

手袋につく。ふくしんづけ、とかいうやつが、飛び出た。

さすが、SEIYUだ。

ばんざーい！ ばんざーい！

愛すべき難癖、また来よう——絶対に行ってやる。

今度は、ボストンバックをきちんと持ってね！

はは、複雑すぎるネタですみません、ははは、

風呂場で、朝方、変なのこぎりの音がしていたらごめんよ。

スプラッタなショーをお届け！

今度は、スーパーの袋なり、買物袋なりを持って、来よう。

でも、ブルーになった。

ブルーになると、澱む。深海になる。

アクアリウムの中の熱帯魚になる。

まるで世界はずっと真っ暗闇の中のような。

幻視なんて知らない——原始なんて知らない…

「時間が、すれ違ってゆく——」

SEIYUへと行った。

嫌がらせみたいに書いているが、嫌がらせではない。

さすが、SEIYUだ。

明日も是非行きたい。行かないけど、是非そう言わせてくれ。

もう一度リベンジさせてくれ。

雑草魂でよろしくお願いします。

SEIYUへ行くと、みんな老人みたいに怒ります、

と書いても、もちろんいいのだろう。明るく怒ろう！

明るく怒るべし。下らないこと、些細なことで怒る。

怒る幸せ？—怒るたびに、あなたの人格が疑われて…

でも、幸せじゃないから怒る。

僕は？…幸せじゃないというふりをしてるから怒る。

嫌なことは、毎日それなりにある。

でも幸せって何処にあるのかなあ、とは思ったりする。

1月18日

いやあ、ようやくきました。

何が？

水道料金。

――自動振替の度重なる案内を越えて、最低でも三回は来た気がします、

まだ来ない、まだ来ない、まだ来ない、

そして、来ました。

コンビニで支払うことのできる振込票が。

ありがたいです。

ありがたや。

電気とガスと電話も、コンビニです。

そしてこれから、水道も加わりました。

…ええと。

洗濯、風呂掃除。

意外と楽しい。

福山雅治が何故結婚しないのか、という発見があります。

世のみじめで憐れな男のひとりとして、せめてもの強がり！

そうです。

このように言わねば女たちにブーイングを喰らいます。

さあ、男たち！

鍬や鋤の代わりに、洗濯と風呂掃除をするのだ。

…ええと。

――ぺらっ。…びらっ。

書類をめくってる。

それでね、僕はつくづく、一つ一つ思うのです、

草野心平さんの日記詩は価値があった、初期の方で、

つまらない話してるんですけどね、なんだか、よかった。

ゲーテの若きウェルテルの日記もいいけどね。

そういうのも。

あれはやっぱり、身うちよりも親切な感覚、個人が処理しきれない、

鬱屈した不満みたいなものを、そこで別のものに置き換えるからじゃないか。

と。思う。

と一一ところで。

明日は洗剤と、ハンガーと、服を少し買うつもりです。

本当に行くかはわからないんだけど、

明日は、ここに、姉が本だの、服だのを少し運んでくれる予定になっていて、

また来週でも実家に帰って、…本当は、こう臆病な気持ちになると嫌なので、

戻りたくないんですけどね。

実家に帰って、いろいろ見つくりってくるつもりです。

原付のバイクで運べる範囲内ですけどね。

また、会社の同僚のYさんに、ユニクロ[* G.U.]の場所を、

教えてもらいました。

そこへ行く予定です。

…そういえば、これ、書きたかったので、書いちゃうんだけど、

水道局に電話掛けて水入れたんですけどね、

その水道局の場所、この前、見付けたんですよ。

だから何？…って、ことなんだけど、

意外とデカイじゃないか、ほほう、立派な面構えで。

よくわからん。

いや、なんだか、はにかむのですよ。

こういうのってわりと嬉しいことですね。

…で、ええと。

明日。明日は、新生活を始めてからのようやくの休みです。

今日、会社でわりと自分はやっているのかな、という目で、

あたりを見回してみました。

会社、工場なんですけどね、水道管を作っています。

僕は、そこで塗装場という所にいます。

ウェスにシンナーをつけて、内側の汚れをごしごし、とるのです。

しかしこれは見ないことには、わからないので、省略します。

また、外側の塗料の溜まりを、やすりでこすって、スプレーかけます。

大体僕は、こんなことをやっているわけです。

これで、26、7万、残業いっぱいすると30万くらいあるわけです。

もちろん、そういうのって、よいのか悪いのかはわかりません。

みんな、こんな会社はない、いい会社だ、と言います。

でも、僕の人生の仕事が、こういうものだという認識は、
さみしいものです。でも、何言っただって始まらないものです。

——ある詩人が、僕を天才だと言う。

でもね、そのための努力を怠っているお前ごときに、
また、それがいかに侮蔑的表現であるかを介さないお前と、
話すようなことはひとつもない。失せろ。

こうなります。そんな奴は、人間としてダメです。

なめるな、しばきあげるぞ、になります。

…何故そういうかっていうと、これは明確なスポイルだからです。

まともじゃないからです。まともじゃないことには、
まともじゃない反応をするしかないのです。

人生経験。

…ええと。

まあ、ひとり暮らしを始めて、昼の弁当がかからないことや、
作る手間、買う手間が省けるのはいいことです。

また、洗濯をしているけど、洗濯だってやってくれるのですよ。

また、些細なことだけど、手洗い場にお湯が使えたり、

仕事終わりに風呂に入って帰れたりする。これ、いいことです。

でもね、納得していても、どんなに自分にとってよい条件であろうと、

それが最善だとわかっていても、

そこで心の底まで肯けるかどうかは別の話なのです。

ただ――みんな、この会社で働いてるわけでしょ？

そりゃ、みんな、嫌なことや、辛いこと、あるわけです。

でも働いているわけです。大人です。社会人です。

文句ばかり言っていたら、損をするのは自分です。

でも、僕は誇り高い詩人なんだ。

そこで飯を食うために、24時間ぶっ通しだって詩を書ける。

そのための努力ならいくらでも出来る。足りないことなら、すぐ手に入れる。

ダメでも、できるまでやり続ける。

そこらへんの、へっぽことはわけが違うのです。

けれど、そういう僕みたいな詩人が、職業化の話をして、法人化の話をして、

何処吹く風なのがこの国の詩人なのです。

僕はいいから、次の時代にはなんとかしようと言っても、

もう、わからなくなっちゃってるのです。

何が嫌って、いま、ひとりひとりが、駄目なものを、

たくさんかかえこんでいるのを、僕は知っていて、

しかも、そういう毒をみんなが毎日垂れ流してることです。

――三年間、いろんな人に言いました。

ツイッターやミクシイ、フェイスブック、出版社の人、詩人の人、

ビジネス…ふつうの会社で働いている人、みんな、です。

でも、情けないことに、僕の傍に残ったのは、

盟友葛原さんと、弟子のいずちゃんと、基本的にやる気まんまんのhiroyukiと、

wa!ひろさん、そしてピュアさんという子ですね。

みんな、人生に残りません。跡形もなく消えます。

ああ――

君たちは、本当に辛い一時期を過ごしたことがないから、

ろくでなしのことばかりするんだ。僕はそう思うよ。

理解ができていない馬鹿達と話す時間は、さみしい。

何が大切なことなのか、わからない人と何話したって無駄だ。

しかしそれでも、生きるための時間があるから、

スピリチュアリティや、輪廻転生というものの見方は避けられない。

手塚治虫的生と死のダイナミックなドラマツルギーも消えない。

蓋をあけてみれば、毎日そうさ。

僕は、詩人たちを心の底から軽蔑し、ネット詩人、雑誌詩人かわらず、

全員虐殺することを本気で考え、あらゆる詩の出版社を倒産へと追い込み、

ネットの詩のサイトをことごとく閉鎖へと追い込む。

できるか、できないかじゃない。正しいか、間違っているか、だ。

みんなが当たり前の権利、当然しなくてはならない主張がわかってさえいたら、

僕は、こんなこと言わずに、

ニコニコ笑ってるのと思う。全部僕が肩代わりし、全部、僕が受け容れる。

挙げ句が、馬鹿と話して嫌な気持ちになる僕さ。

それでも、何とか僕の時代で、

君のことを守ってあげられたらと思ってる。

何にもしてくれない大人になりたくはない。最低限でもいい、

いまより、明日を信じられる体制を作りたい。

ああ、そうさ、蓋をあけてみればそうさ。

ええと。

今日もよい一日。

1月20日

◆神よ、今朝舞踏会が終わったことを知りました…

SEIYUに行ってきました、見てきました、買物してきました、

るんるん。

今日は、青年実業家の若奥様でも何故か財布を忘れたサザエさんの主夫な僕にして、

SEIYU詩人なあたしだよ。アタシさね。わたしさ！

イン・コイトウ・インミナチオ

「交わりは光りを生む」

●STAFF-----

●CAST-----

(*しかし、一切記載されることはない。)

■激減したカモメ信者数

大元---大元からの脱退へ---

---革の質感を強調する---

私は後輩たちに「同じ失敗をするならとてつもない失敗をしろ」といつも言っている。初めからズルズルと後ろの方において練習の成果も出せず終わるよりは、20kmから独走で行きつくところまで行って敗れた方がタメになる。

谷口浩美（マラソン）

ちがうのよちがうのよ、恥じらう乙女なの、ポッ。

ああ、穴だらけの道があるわ。

いたるところ、マンホールのふたがあるわ。

ぐるぐると足踏みし始める、ライオンであった、虎であった、サファリパーク！

――下半身カット――

(*27歳にして、まだこんなことを言ってる)

(*27歳、169-171センチで55-60キロな僕)

――でも、ポーズを変えて、――

……イメージ通りに！

でも、ゲイにはなれない27歳。ゲイとかレズとかに、差別はない、

レントゲン、留守番電話、種々な教訓！

いわば、スローモーション・シャブ！

じゃむおじさん、じゃなくて？ ジャブでもなくて、ハブ！

無味乾燥な答弁、画一的な所信表明。アーウー首相！

あーうー、ばぶー！

僕がこわいのは、いつでもゲイに力づくで後ろから犯されることだ。

奴は、アメリカ的マッチョなんだ。で、大概ビーチク出したがりで、

タンクトップ派で、もっこの所にパットいれてるのね。

やーん。とリングネーム、ローキック吉田？

吉田じゃなきゃ、ファティング神岡、なんてどうだろう。

なんて、レイプなんだけど、別に受け容れてるわけじゃないんだけど、

どうせ、このままやられてしまうなら、とりあえず、って思うんだ。前向きに。

それに、もしかしたら案外気持ちよくて、方向転換できるって可能性もあるよね。

いや、前向きに。

もちろん、一番はこの世からレイプがなくなり、合意のもとで行われたらいいと思う。

(*でも、たとえば女性の部屋に入って、襲っちゃうのはレイプか、という問題)

(*の部屋に入って時点で、合意、あるいは了解と見なす場合もあるからだ。)

(*でも、夜這いの風習で、レイプと判断された事例がある。)

まあ、意外と冷静ね。そんなことを考えながら、ちんこの大きさを確認したい。

そこはソツなく、めりはりに欠けてもいいから、ちょっと見ておきたい。

というのも、ゲイの方々が大きいというのは、有名な話だからね。

巨大なソーセージみたいだったら、ガブヒー、ガン、

それはさすがに無理だ、と言おうと思う。うんうん。

いいだろいいだろ。いきり立つ、そそり立つ、毛までむしり出す。

イエス

耶蘇だろって言う。

■時代の変化と運動の衰退

新たな時代——新市民のための鎮魂歌——

つまり、何事も失敗して覚えるということなのだ。

小出義雄（女子陸上競技

監督）

やめてえ。うああん。うああん。うああん。

(*27歳のおどけ、どうですか?)

(*近頃の27歳、本当にすごいです。)

そんなことになったら、お婿にゆけない!

僕は牧場の娘さんに、プロポーズして、牛をなでなでしながら、

詩を書き、365日のせめて何日かは藁のベッドで眠るのです。

そしてお祭りの雑踏で、やっぱり所詮テニスではないか、と呟くのだ。

SEIYUに飽くなき情熱を燃やす!

ハオッ! ヒョーッ!

――白いスクリーンに、――

……稲妻が走った!

ところで、朝、姉と弟がアパートに来て、服とCDを持ってきてくれた。

改めて見てみると、必要のないゴミに見えるから不思議だ。

(*日によってリサイクル品に思えたりするかも知れない)

(*でもやっぱり、生きるってゴミを増やすことだ。)

(*詩は最たるゴミかも知れない、と言っちゃあいけない人が、マジ顔で言う)

僕はこんな時、母親や父親のことを思う。ひとり暮らしをしてみても思うのは、結局、

[東大→大蔵省→大臣]という政治家のエリートコースのようなもので、

自分がこうしたい、ああしたいということの時間を作り、

パイオニアの光と影!

そこで反対者がいない状況を作る、ということだ。ワンマン、ゴウマン、ゴウワン！

けれど、コオモン様！…人が我がままになったり、

自分のことしか考えない原因は、両親に甘やかされたか、あるいは、

ひとり暮らしでエゴを強くしたか、もしくは結婚して亭主関白、もしくは、

旦那を尻に敷くとかいうカカア天下してるかだ！

■時代の変化と運動の衰退

新たな時代——新市民のための鎮魂歌——

目に見えない電波が、俺の脳に、

体や頭を動かすように指示を送った。

そのアンテナが働いてくれる限り、俺は大丈夫だ。

ジョージ・フォアマン（ボ

クシング）

ともあれ、反対者でありながら、身の回りの世話をしてくれる人が、

いなくなるということは、その代わりに、洗濯したり、飯つくったり、

（*ジェット噴流を浴槽に仕込もうとしたり、熱帯魚や亀泳がせたり）

（*パンツの写真壁に貼り付けたり、その横に、ブラジャー貼ったり）

……… [沈黙する、我々。]

…………… [沈黙とは、都市の一日の終わり]

——走るジャガーのように——

……吸殻を投げつける！

あるいは、部屋の掃除。

足りないものがあれば、何か買いに行かなくてはいけない。

墜落事故があっても、ボーイング747に乗るかどうかは君が決めるのだ。

地下鉄サリン事件があっても、電車に乗りますか？

またあらゆる文句は、自分に返ってくる。サービス過剰の代償は、道化精神の発育。

エンパイアステートビルディング飛び降り自殺！

面倒臭いことも、面倒臭いままにしておく、結局、自分が困る。

困ることは、ウラを返せば、カリフォルニア・ハイウェイ・パトロール。

そしてこういうのは詩でも同じものなのかも知れないなあ、と思う。

やがて僕はこのアパートを自分の家と認識し、そこでの暮らしに、

もっと慣れていくだろう。そして一体何が正しいか、間違っているかを、

そできちんと考えていくだろう。

ようやく一週間が過ぎた。これから何をすべきか、

また改めてじっくりと考えてみる。

日記の間奏 3

伝言板 *NEW FACE* 2013年1月24日

下記URLのコメントよりお申し込みできます。

また、無料掲載の条件等も確認できます。

個人メッセージ

掲載します。

[\[http://plaza.rakuten.co.jp/showshowshow/\]](http://plaza.rakuten.co.jp/showshowshow/)

検索はこちらから～

■まぶしさやわらげ視界くっきり

おしゃれな人生を演出する驚きのPRICE

スケジュール（同ブログにて開催）

1/26（土） 1/27（日）

☆～5パーセントオフで驚きの100000円を切ります。

☆～コストパフォーマンスを抑えるからの29800円

☆～業界最安値を更新！

「どなたでも参加できます。

たくさんのカラーバリエーション！

言葉の祭典」

*

深井北町 価格3,980万円

新築一戸建て

☆完成済、即入居可
☆外壁パワーボード、前面道路6メートル
☆スーパーまで5分
☆駅徒歩7分

- 堺市深井北町 ●土地/134, 92m²
- 建築番号257-7440 ●新築（完成済）

*

堺初上陸！

君はこの衝撃を体感したか！

幼稚園×[かもちゃんレンジャー](#) コラボイベント

ところで、かもちゃんって…？

海に飛んでいる、
かもめのかもちゃんです。
大きい鳥ですよ。
でもある日、かもちゃんは、
二本足で立ち、
日本語をしゃべれることを、知り、
人間世界に混じってゆくことを決意したのです。

●かもめという鳥とかけはなれた愛嬌のある動きで、
新しいゆるキャラとして注目を集めています。

●当日は流行を意識したメニューや季節の料理を用意。

★予約可能時間拡大★全日昼11:00～21:00

*

掲載料は

かもめカードで！

郵便局や銀行、コンビニ、
クレジットカードも嫌！
そんな人のために、
心の中にかもめカード！

毎日発行
優しさの10%割引！

*

■引越の親方だけ貸します¥9800

「かもめ工事塚支部」

■毎日のカラオケを変えよう

月9800円～！

プロの講師が、感じよく伝える熱血技術指導！
見る見るうちに上達、演歌OK、ロックOK
シャンソンも教えています

「かもめカラオケ教室」

■東大？ スタンフォードどうですか？

英語？ 何ヶ国語も喋れなくちゃ、
真のワールドレベルと言えない！
あのIQ200の教授が、ヴェールを脱ぐ。
すべてを知り尽くした男、満を持して登場！
教材費・入会金無！ なんだったら、月々の費用も。

「私について来るなら、
ノープロヴェーレムです。」

「かもめ教授の天才育成マックス」

*

大仙公園-

大仙陵古墳（仁徳陵）へと行こう！

point 1

あの人気の企画がまた戻ってきた！

point 2

ムーンウォークが得意な金髪のバス運転手！

point 3

水商売で人生の大半を過ごした老いたバスガイドによる、
含蓄にみちた人生指南、手相占い！

yeah! ナウオンセエル！

大安売り！パントマイムのたたき売り…

…ってどういうこと？

(映画を見ればわかるさ！—————)

宮崎駿の遠い親戚から大絶賛をもらった！

あの映画監督の問題作再び！

というか、既に問題な書き方してるよね、はは、
そうさ我等がシュワッチ、カモトラマン！

タッタターン！

ジュワッ！

★絶賛映画上映中～！

部屋の掃除と言うのはなあ

風呂の掃除と一緒になあ

人間やる気がなくちゃ駄目だなあ

そういうことだなあ！

*

人間はトイレ掃除に始まり終わる

夏の蝉はもういないのだなあ

いないので争うこともやめて

本や服をきちんと整理してから

トイレ掃除を始めるのだ！

*

ポットの下に紙敷きをし

布巾の下に手洗い場がある

シャワーに琵琶湖があり

おれの中に御飯がある

*

やりたいなら風俗へ行けばいいのだ

女の裸が見たいなら金を稼げばいいのだ

でも無駄遣いは

金を稼ぐのとまったく一緒なのだなあ

でも夜の女たちは笑う

スケジュールを詰め過ぎて

モグラたたきに苦しむお前なんかに

やさしい時間をくれる

*

だらだらするよりも

イキイキしている方がいい

ちょっとしたことよりも

色んなことの方がいい

*

変わっていくかとおたくさんは聞か

変わらなくたって毎日は捲れるさ

メモ帳 ノート

カレンダー

あんまりそんなこと

真面目ぶって考えるもんじゃないがな

ゴミは捨てる

生ゴミはきちんとくくれ

*

捨てることも拾うことも

プライヴァシーかも知れぬなあ

朝おれが目覚めると

目覚ましが暖房を入れる

*

自分のエゴをどうすることもできない輩が

欲求を語るのだなあ

生活のさりげない知恵など

お前にはひとつも必要ない

ドライヤーがなければ髪は乾かないと言い

いや乾かなくてもいいではないか

夜に濡れたままだと凍死するとお前はいい

じゃあその寸前まで我慢してみろ

おれの家には炊飯器がない

電子レンジもない

でも本当に必要ならきちんと計画を立てて

買いに行こうとするだろう

おれはストレスを知らない

お前だって本当は知らない

でも目の前にあるかのように

おれやお前は話し続けるのだなあ

日記の間奏 4

6 : 5 0 起床

洗顔・歯磨き

朝食・着替え

(昨日スーパーで買ってきたおにぎりを、がりり、もそそ。

メガシャキを飲み、カフェイン摂れば眠くない、粉末どさどさ、
一杯の熱いコーヒーをいただく。)

7 : 1 0 出社

(ヘルメットをかむり、手袋を装着。

ロッカー・自宅・バイクの失くしたら本当に困る鍵を手に持ち、
自宅を閉め、バイクにキーを差す。

右手に古墳見ながら左折、右手に駅、周囲に歯科医院、クリニック、
ぐぐぐっと左折ぶおお踏切右折。直進、

ガソリンスタンドまで直進して右折、ふたたび直進。会社-工場)

7 : 3 0 3階のロッカーに荷物を入れ、

ガムと水とタオルを入れたスーパーの袋を持ち、一服。

8 : 0 0 仕事開始

(12時ごろに、弁当をいただきます。11:30から12:30
までの間で、それぞれ食事へ行き、45分。

なお、弁当と言っても、おかずが入っています。

味噌汁とご飯が別にあり、大体この三種。

たまにラーメンとかいうことがあります。味噌汁は食堂の奥にあり、

味噌汁茶碗に入れ、ご飯は、食堂入り口付近の飯の名前、保温器に、
入っています。

16:45が定時です。)

17:45 仕事終了

18:00 SEIYU

(西の友、とかく、大体半分くらいは東の仲間のわるいスーパー。

安さを売りにして、スーパーの袋を渡さない！

詩人かもめは、SEIYUに来ると、SEIYU詩人になり、

マイバッグを持って、最初からこのスタイルであったかのように、

振舞われる。ひとつ、SEIYU詩人は、

SEIYUの悪口をいわない。ふた一つ、SEIYU詩人は、

基本的に、他のスーパーへと浮気してもOK。

み一つ、でも基本的に、SEIYUへに行く)

18:20 帰宅

洗濯・洗濯ものの取り入れ・風呂

夕食

就寝

(洗濯は多くて二回。作業着と、それ以外のものと分けています。

夕食後、目覚ましのセットをします。朝、十六回鳴りますが、

朝、鳴るのはどんなに多くても四回です。これは時計二つ、

前の使用不可携帯目覚ましと、 아이폰目覚ましの四つから。

また明日の準備として、 タオル二つ、 着替えを用意する。)

1月22日

——三十代の女性的口調

相変わらず、寒くなってきたわねえー

手袋、ニット帽。

陽が落ちるのも早いし～ィ…

ほら、朝の息も白い！—————

*

——古き良き時代…

真夜中に——おお、何という静けさ！

陽が昏れやすい、

ガアトオ・フレエ

いや日は暮れよ、冷菓子を平らげろ。

あとの祭はとにもあれ、斯蠡はうら若く。

*

——地上は…

一同大儀であった…

ふっ…ふふっ…！

面白いことになっているようだな…フッ、フハハ…

…だが——おまえほどの男が人間如きをえらく高く買ったものよ！

*

——朝の哲学

何処に行こうとしているのだ

弱い力 強い力

踊るとき、交わる時、重なる…

——ごらん、よく聞こえるように…

*

——学校の教室

「狂ったか…！！？」

(なんだか、

怖そうな先生だな…………。)

節度のあることを聞くように！…

*

—とある詩人の日記への問いかけ。

書くべきことはあるのかという問いを、

多くの人は少し真面目に考え過ぎているのではないか。

生活に根付いたペルソナというマスク的加工。客観視。

表現方法の見え方がすなわち作り方となり、言葉は他者となる。

*

—機械から変な音がする…

……ウオオオオッ！！！！

…ピー————！！！！

……あれ？？？

…あれれ??????

*

—プレゼントの場面と第三者…

『キャンディー』をプレゼントした！

え…これは…

『ロールケーキ』

……。何の話をしているんだ？

*

——スポイル社会

人間のしんのやりきれなさは

夜や墓にある

知恵はかつて、嵐の後悔を夢見た・・

しかしま、死だけがその結論となる——

*

——記憶の再構成・・

呆然とする。何が起きているのかわからないままに、

新しい体験とは、それを語ることばがない——

目の前の世界を見つめる。それから記憶にすがって現実を描写する、

やがて明確になるにしたがい、不思議な嘘にとらわれはじめる・・

*

——宙を睨んでいる少女・・

――あ――

あたしも――

時計――――――

ねえ――

*

――携帯電話で恋人と喋っている若い男。

おい、なんだったら、キスの雨でも降らせてやろうか？

はは、尊大の鼻、憎き鼻、鼻血、鼻血――！

愛してる…。バーカ。冗談だよ、恥ずかしいだろ、照れるだろ、

バーカ、言えないだろ…。ま、本気にしてもいいけど――。

*

――煮え切らない。

あのう…………あの…………道を…………ええ、探してるんですけど…………

そ…………それが…………その…………何と…………

いえ…………このメモの…………はい…………住所…………

ええ…………は…………い…………はい…………

*

—女子大生。

ムカツク！ ゴイ少ないだって、ムカツク！

ゴイって何だ、あーう、モーッ、牛じゃないけど、マジで、

ムカツク！！ 頭ちょっといいと思って、どうせネクラなんだから、

あー、ベッカムみたいな男に頭撫でられながら、死にたい！

*

—時間に対する耐性—

たとえば、面白い時って、三キロ先にガソスタがあるっていうだけで、

面白いんだ—

ほらゲーテが言うように、人それぞれの時間を知る魔法、

車でも、バイクでも、自転車でも、歩いているだけでも…

*

—ニュアンス・アンソロジー。

アメリカ的とか、ヨーロッパ的とかあるでしょ、

ドイツ的とか、フランス的とか、

ニュアンスの向こう側で、伝わるのは違う情報だから

言葉はすなわち一つのエッセイアートなのだ！

*

—信じる者は救われる。

ところで、あなた、不運がお続きでは、ええ、必然です、

夜、寝苦しくありませんか？ 実はそれは前世の—悪縁、宿業、

業界では、ディオニソスタイプのニヒリズムと呼ばれるもので、

ええ！…この教祖様の壺を買えば、薔薇色の未来が！…

1月23日

緑の大草原をさっそうと走り、

夕焼けの空はとてもきれいだった。色彩の壁は、

ベールイエロオと、コットンのオフホワイト、

そして—————

メタルアイテム…

チャイムの音………

ほら、早く来いよ。わかってるだろ。

なにか外の者にたいして弁護するような語調だった。

不気味な流言もまま飛んでいた。

早く来いよ。

服装を見ると、まばゆい感じがする。

少しはなれたところにヴァイオリン弾きがいて、

——艱難辛苦の芸術家人生——

出来たぞ。火の消えた如く消滅するもの。

ナチュラルすぎて、ぼやけていたもの。

ついに手も足も出せずに終わったもの。

が、そんな個人感情など、みじん胸にもないかのごとく、

とうとう、出来たぞ。半透明のガラスブロック。

…工場・市場・史跡…
動植物の飼育・栽培……

—ゆるりとお目にかかりたいものだ。さらば、ごめん

…街角に看板がある。

おはよう、の看板だ。

そこで、山田太郎ですと偽名を使う人もいる。

早く来いよ—さあ走れ！…力の限り！…

—ふところにした書面の名宛には、

「灯台が光を出すのは二十秒おき…

瞬きより—

長いんだ—ぜ…」

—近い将来

ここに《昨日》とか

ここに《明日》が含まれ

二十四時間経過後も

何かで中断するということがない――

何のこだわりもない。ひきとっていることなども、忘れていた。

しかし、同時におもしろくもなかった。

文が切れても、

その意味や気持ちが続いていたからだ。

…諦めて、眺めて、読めば

楽にしてください。

「どうした？」

「……」

「どうした。何故、――

黙っているんだ…」

……少ない、言わない、勿体ない。

辛かったでしょう？…

明日は、雨が降りそうだ

白い、嬉しいが、いっぱいだったら、

キャンディだ――対談・パネルディスカッション・

グループディスカッション・会議・

シンポジウム・座談会

(書く) —— (落ちる) —— (飛ぶ) ——

… (は、) どんなだ。

…… (は、) どんなんだ。

朝の六時に 母の好きな 花
よく晴れて 真っ白な 波のような 花

風向きがとてもいいことは

「カメラでも買おうか」と言わせた

白い雲

ぽっかりと浮かんでいるのにも似て——

寝つかれぬまま、またも、枕の位置など変え——

せぐりあげている、人びとの泣き声…

折り紙を折るのにも似て

モンシロチョウが

花から鼻へと…

何と迅い移ろいか。

人の変り方か。

天井が高いとイメージが広がり、

低いと圧迫感が増える。

そうだ、部屋の広さと天井の高さはリンクしているのだ。

日が陰っている時、

気温が低い——記憶の描写・・

[H駅の傍にマンションが建っていた]

(平和だ、複雑だ)

——それでも・・何かに、熱中するということを

やめない——

朝の六時に 母の好きな 花

よく晴れて 真っ白な 波のような 花

まるで白い雪のようだ。

Aさんが、道を尋ねておられる・・

はい、そうです、その通りです——

(書く) —— (落ちる) —— (飛ぶ) ——

・・・ (は、) どんなんだ。

………… (は、) どんなんなんだ。

1月24日

ひとりでもいい

うしろめたさ

ああ、人間は、なんて、

ぞっとするほど

孤独なんだろう――

あれやこれやと言う人もいて

そんな馬鹿の話を聞いてられない

狭い街路に狭い部屋

それ以上に、狭い良識――

人は自由なんだから、

気まぐれにため息をこぼすこともありゃあ

涙をポロリと

おのれを憐れむために

こぼすこともあるでしょう

——でも自分の欲望を満たすほどに

大事なことは、

うんと、大切にしなくちゃいけなかったことは

日常生活の霧んなかに

隠れちまう

そういう時は大変だ

すべて真理そのもの

まがいもんになる

——見えなくていいんです

わからなくていいんです

知らなくてもいいんです

長生きしてる地球だって

たとえばこの宇宙というやつだって

何があろうがなかろうが

動かないし

中々動けないのも本当なんですから——

底の見えない深淵に

舞いあがっていくことはできない

でも違う世界では何かがいつも運ばれていくのだ

たとえいまの僕が

あてどなく何かを探すような遠くを見る眼つきをして

時間を、人の心を

どんなにうまく見透かしたとしたって

どんなに僕がすごかろうかとんでもなかろうが

人それぞれ限界があります

どんなに知恵をもっている

僕は自分の身体を浮かすことはできない

賭けてもいい！

——それが仮に出来たとしたって

本質はひとつまみも変わることはないだろう

増えたり減ったりするものではないからだ

あらわれたり消えたりするものではないからだ

そして幸せとかいうやつも

いまじゃ不幸せな冷気に浸ることを喜ぶ

でも目が醒めればお前の声が聞こえる

常になにかと比べて

相対的な

右往左往した自分が――

たとえば芸術だって哲学だって！

それと同じ心構えと意気込みがあれば

ビジネスや

平凡な人生のひとつコマにもあるものです

おさい銭をあげるとか

アーメンとか

したって、しなかつたって

大事なことや、うんと大切なこと、

見失っていない人だっているんですよ…

地位や名誉にツバを吐いてみる僕を

痩せ我慢というのは勝手です

お可哀そうにということも勝手です

でもね、

人生はひとつだけ

あなたも僕もひとつだけ

いまの世界が殺伐としてる

人が信じられないという時代で

それでも

いやそうでなくても

誠実に向かい合う人の心

その人の心の前で

あなたは地図を開く

故郷の風景を思い出す

僕には、

そちらの方が、

価値があるように思えただけだ

人に従って、既存の組織に従って

スポイルを認めず、口先の言葉を重ねてゆく人達

ツールだというビジネスマン

愛だと言いながら自分をコントロールできない

マンにウーマン！

もし、人が人であるなら

心から愛や平和を望んでほしい

行動することを忘れず

そしていかなる状況でも

きちんとした人であろうとしてほしい――

でも、僕等、知ってきたのだなあ

そうだ、僕等、わかってしまってるのだなあ

社会とかいうやつが

よわいものを切り捨てていってしまうこと

どこにでもある光景なのだなあ

知ったかぶって言い訳や愚痴をこぼしたって

本当にお前は情けない奴なのだなあ

見下げ果てた奴なのだなあ

――嘘をついてしまうほどに、

色んなことを誤魔化してゆくほどに、

人って魅力がなくなってゆくのです

戸惑いや嘆きが増える

嫉妬に狂って悩み尽きない

わかいからだ

その、きれいなからだ

やましいことのない良心を装う人

立派な人をたじろがせる…

本物とか偽物とか

嘘とか真とか

知った口に聞いた口に

おちょぼ口！――

でも、ひとつずつやっていくだけでいいんだな

そうやって愛を着実な生活にして

つまずいて、ころんで

色んな人にめぐり逢えて

はじめて、

――永遠の単調を知る

これ道なのだ

口を開ける、

心の中の濁っていた水に宝石が見える

魚が泳ぐ

ほんとうのせせらぎ…

ただ、ふたりでもいい

さんにんでもいい

ケースバイケースさ

ああ、人間は、なんて、

ぞっとするほど

移ろいやすいんだろうー

でも、生きるべきなんだなあ

とりあえず、生きてみるべきなんだなあ

人間、何歳になっても子供さ

祈りは続くし

酔っていた黄昏は相変わらず胸を打つ

そして僕ね…ふっと、

みんなに会うためにここへ来た、

ここに何かを見つけに来た

そんな人生の答えに思い当たるような

朝もあり、

昼もあり、

ねえ、夜もあり、

ねえ、もうそれ以上なく——永遠に··

彷徨い続けてゆく

死までの短い間

1月25日

言葉は

——その働きをやめることがある

働かない言葉は、生活に吞まれている

……そんな時、僕はカントやヘーデルの純粹にして形なき神に祈

る。舞わば舞え！ おお··飛び去りたくば、ひしひしと胸に湧け！··

——自分を、鳥を、獣を、他の何物でもない心を、肉体を、魂を··

a life of debauchery!...uum.....

身を辱めるもの。涙が熱砂のように在りし日のパピルスとなる。

薄く削られてしまう、紙の中の文字の

い…の…ち……

(痺れているのだ…痺れている——)

振り向いて苦しげに何かをたしかめる、

『…言葉では、もう伝わらなくて』

《記号》が……

……とまれ！ 季節がゆっくりと降りてくるまで…

ああ！ なつかしい知り合いのふり！…

風景は！…カンガルウのポケットさ……

(ポケットの中のガラスの破片でなくて？…)

「怪我でもしたのかい？」

相対速度とのずれに軋む！…ああ軋むんだ、軋め！…軋みやがるんだ、

セックス、フェラチオ、それで後はおまんこの味！

——そうさ、21世紀のフロアスタンド！——

「それにしてもよく眠っているな。真っ青だ。」

…真っ青で——血が通っていない……

——君は死者だ…

こ、こ、こ、言葉……—

月だが、月は乱れ雲にみだれて、月のかたちもない。

わからないよ、世のことや、先のことは——

モーションをかける！ ローションをかける！…

雀の赤子が一羽、寒そうにふるえている。モーションをかける

ぽかんとしていた。なんのわけも知るでもなく、写真を撮ったとき

きみは消えてしまう——

そのあと。a poetical life…ああ…

a poetical life!

——（言葉は、途切れます。）

どうして、途切れるのですか、電話のように？…

どうして、千切れるのですか、沈黙………

——僕は待ちぼうけているゼウス、全能への憧れ。また、その機能。

●メイン講師/1コマ（50分） 1, 000円～!!

●看護師募集/月収40万以上 *病棟経験5年相当（当直5回含む、賞与別支給）

——チラシ…求人広告…

仕事………プライベート………

軽量衝撃吸収材筋肉疲労軽減！..

美姿勢重心移動歩行補佐！..

「たとえば、広告の言葉って、実際の君がいないんだ。

..これは国家でも、政治でも同じことなんだ。たとえば、

きれいな家は広い、何もないアパートはよく見える、

それだけだよ——それだけ..」

《空白》が.....

.....とまれ！ 絵を照らすリミット！..

ああ！ フォーカスエネルギーの充実..

風景は！..カンガルウのポケットさ.....

(ピンポン..と、インターフォンが鳴る)

「困るなあ土手の巔でも崩れたような顔をして？」

なんだか君の顔、ひし形だね！..いや、ホームベースみたいだ..

待てよ、なんだか、おにぎり..の——ような...

——そうさ、30世紀のスピリチュアルフェイス！ ——

「どうせ、みんな、オッ死んでリヤ！」

...カタコト——文化政策なしの日本の行く末.....

(でも、町は漆黒の記憶をやめた——よ..)

(踊るよ——ごらん！…)

——世界まるごと、核兵器で全滅…

造形からせり出した時軸、置時計、

目覚まし時計——長々とうねる道のカーブのように時間は滞り、

(その、記号が用いられている理由…)

(リフォーム時にコンセントを増やしておきたい理由…)

……世界は砂嵐、そんな摩擦音をさせて、

あえてその道を辿るべき——

あえて、かつて地上に落ちた星の光の再燃となるべき…

…君は"ガラガラヘビ"だって言う、でも、アナコンダの租借音かも知れぬ、

——いま現在の何か、確かに、遠ざかって行ったのだ

…… (イマジナリー・ライン) はこの時、

ソメイヨシノの葉の裏側で、やや白色を帯びた緑色で、

…まばらに毛があって、尖端は少しとがって、縁は鋸歯で、

——それで、何となく、よかった…よかったんだ——

1月26日

あの、そろそろ、

どうですか、

と、チョコレートブラウンの友人に誘われて、

悪の僕：しかし腑に落ちないな。呼んだ覚えもないんだから、

呼ばれる覚えなんか絶対に、あるまい。

善の僕：誰だって孤独だ。みな、孤独だ。追い込まれた迷路の中で、

人は、本当の友情について考えるものだ！

…しかし、おお！——まだ独身の僕は、

たちまち車に衝突されたような気持ちになり、

怠けものと天の邪鬼の密会-握手-賄賂

オーケオーケエ、じゃあ、今週末に予定が合えば…

…あの、予定が合えばマイホーム野郎、ああ、舌が回らない、

つくづく塔だ、糞、舌、でも冗談じゃない！

野郎を、ひとつ斬首で！

屈折的愛情表現——

羊朶や雑草の若莖を打ちすえる！さ…おお！

長く呼べども帰らざる幸福な世界、永遠の——世界…

胸にかじかまる心が一つの青い炎となる…

どうせ小さい家なんだろう

円盤型なんたら、

おいどうせシェイクスピアの眼も灰色なんだろう、

と、ひねくれまくる僕、勝鬨をあげそうだった僕が、

——何を血迷ったか、この男！——驚く———本当に驚く…

——瞬のコンクリート、ガラスのようにきらめく

「やあ、待ってたよ」

安物の埃っぽい喪服姿な僕と、お洒落でちょっと派手かも知れない男、

たとえば僕ならビール、でも彼ならウィスキーにブランデー！

でも、たちまち人形のような眼を前後にうごかして、

嬉しげに、僕はにたにた笑ったのさ！

駅まで車で出迎えてくれるフレンドリーさ！——のため…

少し大袈裟だが、でも大体いつも誇張法だが、

それがたとえ天地開闢の始原のカオスというダンディズム、

あるいはマイホームでハッピーホームの罨でも、いい！…いいのだ、

ただ、スーパーで買ったお土産のせんべいを渡しながら

——「気を遣わなくてもよかったのに」と言われた時、

——「いや、ほんとに安物だから」と、両手あげて、撃たないで！さ…

(スーパーのせんべい、なんてお土産に、

すべきじゃない、と思ったりもした。)

そして彼の自宅まで、少し林道を抜ける

痲痺持ちの逆恨み、さよならあばよラバイ——おお！ママよ…

とばっちりはやめろよ自業自得！とか、…いろいろ、

考えてきた台詞も、猿轡かまされたように、すっかり無駄になり、

食後のケーキくらい、無からの創造はない

僕は始終、よい子となり、缶コーヒーを買い、

いい人に思われるよう丁寧な話を心がけた

ふつうだったら煙草を吸って、ぷかぷかやる男！

タバコなんて見たこともない顔をしていた！…どうだ！

というのは、文章上の御都合主義的な展開なのですが、

「スーパーがちょっと遠いのが不便です。」と彼

「いやいや、車があれば何のその、ですよ、はい」と僕…

ああ！と思う、木蔭だな、——と…

ああ、あの感情に身を委ねているのだ！…

——おお、孤独でわがままな生活のリズムに揺れているのだ！

……前に聞いたことがあるのかい、

……鳥の歌——

ほの暗い木立に隠れている、痩せた貧弱な樹のような、

僕の魂が、少しあらわになる…この、亡命の地

そこではきっとコップの水はこぼれることはなく――で…

自分の目に入るものすべてを温かく包んでしまう、作用、愛、

縁遠い、寛大さにあふれる裁量

ああ、この過去から未来に架かる自由な時間――

BGM：モーターボートの腹を叩く水音…

あるいは、ひそひそと風に揺れながら

道に波型の線が出来ていく…

木の葉模様の、岸部を知らない、波の音…

絵は細密画風、ひぐらしがないモザイク！…

ピイス

かれこれ二十分走ったぐらいで、到着――平和！

しかしこれがまた新築で、控え目に見積もっても様々な文字を刻する眼球の裏側の夜

7000万はしそうな家。

こういうのを世間では、豪邸と言うのだけれど、

友人なので、おおこれは立派な家ということになる――

おお、あなたのちからづよい音楽…愛のある音楽、慰め合って、愛になった

そんな日々の轍。沈黙の時間にあふれている時、ダイヤモンドと同じ硬さを感じる、

それが人々の孤独や絶望から、立ち直らせる、勇気をくれる…

(ちなみに、彼は株とか、ネット事業をやっている。

よくわからないのは詩人的独白だから伝記的事実だが、興味がいまはわからないので、

あんまり詳しくは知らない――)

…銭ようさんもってまっせ!

と、一発ギャグを言いたかったけれど、真面目にとられたら、

空気が凍るので、いい家ですね、と無難に言うことにした。

おい、と頭の中で誰かが僕に言う!…

おい、お前に、誇らしくて強大な名称が思い浮かんだぞ、

――二人の主人を持つ召使い!

「家内が料理作って待ってると思います。どうぞどうぞ」

NHKニュースは多分もっともクラシックだ!

実を言うと、ついていけない!とか、あれを認めてやしないか、

とドキドキハラハラなんだけど、使い魔かな、ゲーテの魔王かな、

さあ――と、混じり合う声声…

でもこれがいまの崖っ縁で眺めている、国家的問題なのさ!

ふくれた水死体と。ショットガンで蜂の巣。

それは問うべきじゃない、死体は死体さ!

でも、何となく死んでいる、でも、表面上は美しい。

それが“空無”だと威嚇した所で、KYになるだけだ、

あるいは精神病院へ連れていかれてしまう、

お医者さんは言う、はい、あなたは突発性暴力症です!

おめでとーございまーす、通院してくださーい、

何の話だ？…でも、それは

クリップを外したネクタイのようなものだ、

でもネクタイはネクタイだ、

些細な所までこだわりました、という家だ。

滴り、流れ、凝結し――まるで大空に描かれた、

輝く薔薇色の想像図のように、種子を、発芽を、茎を、樹液を…

アーチと直方体を交互に並べた天上の構造…

――蜘蛛の巣にかかってもだえる虫…

ああ、いかなる幸福がそこにあるか！

道ばたの痩せ地に生えた青い樹木のように、

疲れはあるか！

それは見せないと、ほっと息をしても、

隠せば、遠い魔は近づく――

スリッパをはくと、リビングまで案内される

がちゃっ、とドアを開けると、

すうっと――した、開放感だ…

ここにあるのは、夏のけだるい夕暮れまで本当に後もう少しという部屋、

そこにとどまる堇色の花だ、芝生に椅子があり、

折角荷造りしたトランクも、もう必要ない！しかし、まずいサイダーだ、

我々は、気の抜けたものの味を知らながら、湿っぽい草地を物憂げに、

ぴょんぴょんと飛ぶ蛙だ、みどり色でなく、枯れ草色の蛙を、

われわれは眺めていた、おおきくて、さみしい蛙を眺めていた…

途端に、虐殺が始まる、

雨のジャズ、美しい手で考察するドラムス

(を、) しづかにしづかになだめてくれ! ..Hey you!

ピアノでもあったらいいな、そうだな、オルガンでもいいな、

チェロもいいな、と思った——すさんでいて、みじめで、あわれな、

明日の嘘だ! ..健康で幸福な音楽の嘘だ——

床材のメインは畳ではなく、もうフローリングだ、

そこにカーペットを敷いたりして、

またそこにウィンドウトリートメント!

まったく、獅子鼻のノッカーと言い、あの檜材の扉といい、

洒落た表札と言い——孕んでる、としか言いようがない..孕んでる、

女が孕む、雌猫が孕む、..孕んでる、身をよじるたび、

子供数十人分に匹敵するローン!

おい、と頭の中で誰かが僕に言う! ..

おい、シャツの下の脇腹は大丈夫か、頬は、脛は?

——二人の主人を持つ召使い!

ぱっと目に留まったのは

本棚、百科事典がきれいに収納されている、あの赤毛でそばかすで、

痩せっぽっちの少女なら、

泣いて喜んだに違いない光景だ！

世界中にバラバラに飛び散った言語・コード、情報、十二時半だ

本を、目にすると突然饒舌になる、僕は言う、かがやかしい午後、永遠の真昼・

「置き家具——は・選びやすいけど、

無駄なスペースができがちなんだよね、

オーダーメイドと比べて——でも、思うに、

家具配置と収納、そして人の生活の習慣と、

最後にインテリアだよね、——うん・

いい部屋だね 」と、僕は褒める・

気位ならぬ傲慢気味の金持ちだったら、

こんなことを聞いたら、知ってるよと言うのだが、

彼は、うんうん、と話を聞いている——

そんな彼を見ながら、ふっと、考える、

駅前の道を、アイルランド的音楽に曲がりくねりながら聖書し、

ようは！うつくしすぎて、何かもう王位は皆に与えられた、

すこし寒かったけどね、ロシア的低い声はもういいよ——

風向きが変わってゆくのを見ていた その日

コードレスの電動ドライバーや

携帯充電ラジオライトもある――

「（しかし、いちばん気になるのは、――

やはり、工具だな、本と工具の取り合わせは、

インテリアとしても面白い。）」

――重い電車が

けたたましく警笛を鳴らしながら方向を変える・・

いつも忙しく、あわただしく、不満の苛だたしさを感している、

人生の疲労を反映するもの達――

思い出はずっと思い出、

冬の空は今日も青空で――

荒涼として、灰褐色に見えた雲、

曇り日を思い出すから嫌いだった・・

青い海から浮かび上がろうとしている、

あるいは塩が凝るように

コーケンの新型ソネットレンチシリーズ

好奇心をそそるね

鍵を持っているか？

・・・吹きっさらしのやつがね、

“Z-EAL（ジール）”は、たまたま知っているだけだが、その色になりたい

APスーパーフィル、フライヤー、ラチエットドライバー、

メガネレンチなどの小型展示場――

少し汚れているのが、格好いいと言えば、

格好いい…というか、シブい――

生活と工具…

インテリアと工具――

…奥さん、優しいなあ――と・

思ったのは言うまでもない――

よろしい、それで？

[嘘発見機にかけられても、まだ、

信憑性を疑う、…]

よろしいよろしい、それで？

――「証言する耳」

場所-時刻-主要人物…

その横に、壁面用ラック

単行本に漫画、フェイクグリーンが飾られている――

その横に、風景写真とカレンダー、額縁ミラー

まあ、青と黄色という反対色の中間色を

合わせてカジュアルにしているのを見ると…

――トーン配色の話…空に浮かべる島と船…

部屋の広さは二十畳ほど。かなり広い応接間だ

スツールにシェルフ、リビングテーブル

その傍にはマガジン&携帯ラック

雑誌や新聞が収納され、エアコン、テレビなどのリモコンが

その真上に置かれている

足下を見ると、レザー調のランチョンマット

コンパクトでスタイリッシュな

ステンレスボディのコーヒーマーカー

——ここでコーヒを飲むのだろうか？

仕切り付き皿に地中海風の料理

加湿&空気清浄機。浄水器。シーリングライト。

革張りのアームモーションソファ。そして観葉植物。

ゴールドデンリーフツリー。薄型スリッパラック。

1月27日

ぼくは眠っていた。石頭でもトウヘンボクでも、夢の中だった。ココロの弱さ・もろさ、

この災害が起きてまだ日にちがたっていないわけですから、それはたいへんに、夢の中である。ぶはって嘔き出してしまっ、目覚めて、でもすぐに急速な潜行。でも我に返って、意識あやふやで、パンプキンってあれ、なふきん、の、ことだっけ？――と言って…違う、パンプキンは、なふたりん、のことさ！――と、間違っ、病的な妄想。狂おしい朝までの時間。なんでこんなに孤独なのか意味不明で、でも、闇を見つめていたら、きれいだといった影絵と同じで、てのひらも違うものの形になって、ほらすぐに、政府になる。非常に冷静さ。メリーゴーランドは回転しているけれど、メッセージの送受信はできない、夢の中のはなしをすると――むくむく、と浮かんだ。とって、身体がむくんでいるわけじゃなく、そいつがむくんでいるんだ。アナコンダ、百歩譲ってもニシキヘビ。太い蛇だった。べとべと、として、なまあたたかい、うらぶれた湿地だった。がさごそ、と音を立てながら水辺へと急いだのは、夜の酒場の長い歴史の怖ろしい秘密の穴のせいである。風に吹かれる葦は、こおろぎとなった。あえぐような片脚をもがれた生き物を、こうして見ていると、あたたかみのあるものに白い手をあてているような気がする。こうした感じは、人の話からは決してうかがえない。だが、夕方ごろ、そこへと行くなれば暗雲に錨を下ろす夕べの静かなる無言の沈鬱がうかがえるだろう。水辺には蛙がいた。やさしい友だち！――そうだね、もちろんそれはやさしい友だち、蛙をクオウ！としているのだった。クオウ。全国で一時間に五十ミリメートル以上の雨が記録された回数、二〇〇四年の三五四回。一九九四年の三一八回。おおっと、そこで、蛇が――鞭、無知となった！…原始的な衝動、わけても貧しい絶望のすりきれた模様をしていた蛇、蛇のことですから！――ああと、大多数の予想を覆して、いきなり、蛇、レッサーパンダのようにそそり立ったア、デカイ、エッフエルだ、東京タワーだ。立

ったアー、仁王立ちだアー！…おおっと、これは予想外、予想外デス。蛇は、にわか、にんげんになって、指をパチンを鳴らしましたあー。遠くの方で、いずちゃんうさぎが、見ているぞお。耳をびよこびよこ動かしている。タキシード、薔薇の花束、そして深紅の絨毯。

その先には、馬車が！ 忍者葛原さんがア！…蛙、どうする、蛙どうする、——おおっと、ありえない、蛙、次の瞬間、ピュアさんが「まあ、なんですって？…」——と言った——

「まあ、なんですって？…」——しかしまあ、今は言及しないでおきましょう。それより水辺に、羽根も生え揃っていないかもちゃんが、いるぞ。いつもながら、愛嬌のある顔をして、ほっぺたふくらまして、——ふくらましているけれど、どうも、散髪に失敗したらしく、むくれているらしい。ショックだったのか、顔色がどことなく、茶色である。あるいは、緑色である。もしくは、むらさき色である。あるいは、酸っぱそうな土気色である。これ、西原理恵子による漫画の基本的にエキゾチックジャパンな特徴である。ねえ、君さア、カモメなんだから、どうしてさあ、鷗のくせに、散髪したのさ。というのは、ナンセンスだった。どうして、思い立ったか。ファッションなのか？…わからない、かもちゃんは、水辺で自分の身体を金髪にしようとしていた。体質によりカブレ。歌舞伎じゃなくて？ かぶれ、かぶーれ、さーおや、かぶるだけー！とコンドームの宣伝をするとか？…毛髪を傷める。しかし、誰の言うこともきかない、不良なかもちゃんのことですから、シャンティゴールドとかいう金髪を選択。最近何故だかどこでも圏外。アヒルのつもりか？…わからない——ええーい、かもちゃんが、ぐえぐえ、いったら、どうなるというのだ。その時は、アヒちゃん、と呼べばよいのではないか。アヒちゃん、シャンティゴールドいかしてるつもり。アヒちゃん、シャンティゴールド——その頃、蛇ならぬ、あり得ない。無駄に繰り返します。ありえない

いリッチ・アァーンド・セクスウィ。ボディ・ウァァーン・ボヨヨーンと化した男性を前に、蛙は、ワンピースの似合う女になっていた。化粧直しが必要だったので、池で身を清められ、すっぽんぽんになり、寒いのでがたがたふるえ、あやうく三途の川いきそうになりながら、焚き火にあたって、とりあえずSEIYUに買い物。とりあえず、SEIYUでよく顔を会わせる詩人に電話。トイレでSEIYUで買っただけのトイレットペーパー。このように、三点、SEIYU詩人となっております。お会計しますか？ ファイナルアンサーですか？——そして彼女は、永遠に、永遠に、神秘的な意味を解こうとし、困るわ、わたしは鬱なの。蛇を前にされたら、鬱になるそうでしょ？..とは言わずに、鬱なの、と言った。そんなの困るわ、自分は何も持っていないから、と言いだした。あなたは蛇で、わたしは蛙。天敵同士だもの、という、もっともらしい断り方、というより、生物的な問題は、口に出されなかった。というより、そちらの方がいまは夢だった。それははるか昔に、忘れられていた。彼等は進化し、古い肉体や、価値習慣を棄てたのだ。スピリチュアリティー。我々は忘れられていた——そして既に、存在自体忘れられていた、かもちゃん、池をおそろおそろ覗いては、全身まっきっきの自分が、スーパーサイヤ人になったような気がして、ちょっと喜んでた。アヒちゃん。アヒちゃん——髪を逆立て...あのね、ちょっとボリューム足りないけどね、でも、そんなナレーションにもマケズ、風にもマケズ、夏の暑さにはアイスクリームを食べ、北に病人がいたら一枚の羽根をおいてそんなのいらねえよといわれたからしげき、南で揉め事があれば最終的にふたりとも、ぼこり、仲裁する気なんてさらさらなく、かもちゃんは、かもちゃんは、夢のように過ごしては、——池を覗いては、そろそろ、空を飛ぶかと思ったりしている。空を飛ぶ、まっきっきのかもちゃん、ジパングの池のあたり。..

眠っていた、十八時間も、眠っていた。――

1月28日

オールドル

秩序の戦ぐ洪水も引いて了ってからは、緘黙の墓室だ、

アルメ

いかなる霊妙な均斉？ 感覚器官も 埃及舞踊 か？……

紫電一閃！…神の言の葉に *Veil* を纏へる誘惑者の純粹の景觀！…

憤怒に採鉱するほとんど驚愕に近い比喩の円みを擦りながら――

アブサンス

ハム

召喚する不在の霸王！…燻製肉のご馳走をくれないか？…

《通れ (*pass*) 》――

よみがへれ、餓ゑ渴へた記憶よ…汗や血や涙の雫よ！

…それを熟視する人々よ！…と、もしも突然に天使が沈黙――し…

イヴを！…おお神の名を犯すマリアを――基督に変容せしむるなら…

、、、、、、

よみがへれ、悪臭野草、毒に蒸された蛆虫よ…凶しき奥処にもてる涕涙、

ひま

無為の隙の浪間に、やがて沈むるごとし！…底知れない印象――に…

けもの

みづから しろ

獣類めく讃仰！…智慧なき《白》の『白』の発見！

――そして俺は！…咲く花の美わしき脊髓、青蠅の生ける陶醉の焦がれ！

ているい

半ば口あけし石榴をまのあたりにした硝子の理性の浪費を汐風へとかへながら、

ひびき とは

響充ちれば、永久に愛撫仄かに酔ひ癡れてゆくも瞼ふたぎて、

さち

いよいよに、そぶりつれなく！…祝福多いたなごころ…

さま

さすらひ

髪は黄に燃え熾り、昂然として馬を駈る状——さはれさはれ、放浪の、

ノスタルジイ

ルビーたま

郷愁！…白くて蒼い去年の雪ひらの、弱々しく見えるが、紅玉珠玉なす Wine

ウッパンチュウル

後に続く表象！——冒 険、千の蔓、…おお、唯一の代価を！

——労役に甘んじて服従する！

——海の群島の無数の島々のうへの人びとに帰依する！

——魂の廃墟の大伽藍！…圓形の薄暗い幕の包み…

と と むご

かかる時、冷けき汗に濡れ、迅く、駛くと、酷く忌まわしい灯火——

いな みなわ うてな

ろうあ

よろこび

否、泡沫の台にて懐胎する聾啞のごとき歓喜に向かう！…

かくてわが天性は魔術的想念を凝らし、永劫の縛めの魍魎を！…

そこはかたなく漾はしめ、われはわが忌まわしき告りし天の投射か？と…

否、長口舌、われはわが眼の鏡、顛顛にうごめく——

神の霊の果漿の脈動ほこりに…心は氷るか？と…

夜更けて輝やきながらも艶めかしげに死に合ふ小虫の群団！…供物？…と——

ハネムン

永劫因？…と——すべては灼かれ、瑕瑾となった蜜月…

…吹き流され、裸となり、無恥となれ！…呪はれていながらも解体せよ、斥けよ！

エキسس

俺は神に蛇の皮を投げつける！…奇を好む悔恨の疑惑の精となれ——

アマアジュ

しるし あかし

終焉の映像、払ってこそその徴、證…

1月29日

今日は寒いので、ブルブルーでした。

ぶるうな一日は、大体レッドが必要です。

たとえば、太陽とかがいいでしょう。

太陽は大体、そんな風に増えていき、

空には、何千個、何万個も太陽があるのです。

よかったですね。

よかったよ。

太陽の朝――

*

炊飯器と、電子レンジと、冷蔵庫を買うつもりです。

「炊飯するつもりか君は！」

いえいえ…

「飯を炊くつもりなのだ、僕は！」

「弁当に飽きたか君は！」

まさしくまさしく！…

「飽きてしまったのだよ、僕は！」

*

洗濯機を回すのにもすっかり慣れてしまった僕は、

干すのにもすっかり慣れてしまったということであり、

これはつまり、主夫になれる、ということです。

いつでもお嬢さんに行けます。

あらやだわ、大根刻まないと。ピーンポーン、あらやだわ、

もう！――ぱたぱた、スリッパの音。

あなた、待ってね、ご飯にする、お風呂にする、

それとも――食べようか？

*

SEIYU詩人と言いながら、

本当にこの人、SEIYUに行っているのか疑惑をかけられた、

SEIYU詩人は、

その時点で、生粋モノホンの、

SEIYU 詩人です。

*

お総菜コーナーで、調理しているおばさんが、

また来たかという顔をしたら、常連です。

レジのおばさんの顔を覚えてしまったら、

これはもう危機にひんしているティラノザウルス的。

そして、もし、レジ袋を使わずに、

マイバッグなるものを持っていたら、

地球に優しいDNAでし、――でしって何だでし、・・

*

仕事へ行く前の晩に、タオル二つを用意し、

ペットボトル二つに水を入れ鞆にしまいます。

一つのタオルは、ヘルメットをかぶる用途でもちいられ、

もう一つのタオルは、目に埃が入った時にもちいられます。

けれど、一つのペットボトルは飲み残され、

さらに、もう一つのペットボトルは手つかずで、

ここらへん、よくわからないのだなあ。

心配症なのだなあ。クロウ症なのだなあ。

——クロウというアメリカの映画があるのだけれど、
死者がよみがえるってやつ、鴉人間になるってやつ、
時々、ぼくは仕事でくだらないことを考えるのだけれど、
宇宙刑事ギャバンの主題歌ってどんなだったかなあ・・

*

たまに、ふりよお、な、ぼくは、
しごとちゅう、に、
はあれくいん、のこと、を、かんがえ、
ほお、がゆるみそうになります。

きけんです！

ちかづかないで！

あぶない！ あぶない！

たいへんにきけん！

*

友達のwa!ひろさんにメールを打ちながら、
ぼくはよく考えるのだけれど、
ぼくは、彼女に、

寒いので毛布が必要だと思います、とか、

というようなことを言うのだけれど、

メーカーの皆さま、みなみな様、ぺこりぺこり、

そろそろ、毛布ファッションはやらせてください、

冬は寒いので、

コートではいけません。

最終的に、毛布をはおる人達は、

布団が恋しい、

まぶしがりやです。

*

服をたたみながら、自分をたたんでいるのだ、

というのは、適当に作った言葉です――

服をたたむように、おのれをたたまなければ、

とでも書けば、何かすごそうな気がする――

うむ、とコップにコーヒーの粉末をさらさすれば、

今日もなんだか、よかったような気がする――

*

ところで、ももの芳香剤、

ベリーグッドです、

これはSEIYU詩人の憎むべきライフで買った芳香剤です、

けれど、ナイスなまんとうひひ、です、

すてきなサブマリンです、

なんだか、夜の迷子になってしまいそうな、

オードリーヘップヴァーンです。

*

じつは、スクラッチで、

一万円あたりでした。

その瞬間――

スクラッチ狂いになろうと決意し、

朝から晩まで、スクラッチ、

あなた、子供がいるの、

やめて、質屋にもっていかないで、

ああ、もうやめて、

スクラッチなんて、やらないで――

*

100円ショップで、

一番よい買い物をしたと思っているのは、

洗濯バサミです。

ありがとうございました。

まいどあり。

さようなら――へえへえ、お客さん、

あの洗濯バサミですかい、

手からカニでもするつもりですかい、

お客さん、洗濯バサミですかい、

それ本当に、ナニに使うんですかい、

へえへえお客さん、

うへえうへえお客さん――

*

ぼくの知っている

コンビニには、

無印良品があって、

そこにトランクスがあるのを見るたびに、

ああ、買っちゃったんだよ、

マイスイートハート！…

買ったら、こういう時代のことを、

少しは愛せそうな気が、

したんだよー

服屋行けよ！

いや、せめてホームセンターコーナンに行けよ、

ドラえもん発言いらないよ！

ドラえもん発言？

おっほん、説明しよう、

ドラえもん発言とは、四次元ポケット的な解釈のことであり、

のび太が、ジャイアンやスネオにいじめられて、

あるいは、ラジコンを自慢された時に、

ドラえもん、ぴいちくばあちく、するとー

あのタヌキが、こんな道具があるよ、

ということである…

マイスイートハート！…

君が出て行ってしまってから、ぼくの股間には、

無印良品しかないよ！

1月30日

押しあえる乗客の蒼い顔、カステーラ。

とっぴな——埃・・挨拶はいつも不自然な油断、

抛り投げやがった黒い線、接合のあとを追うフリスビー、——

サイダーの栓をふっ飛ばしたような爽快さ、

スラッシュが必要な、区切られてゆくプライベート！

やさしい包帯にも似た、拋物線は白い！

(外光は今暮れてゆく……)

「さあ、港へ——」

レプトン ルブナン リフレイン

(微細な) —— (亡霊) .. (繰り返し) ...

五線譜の上の垂直な和音に——近付く、長期にわたって保存する時計を分解する、

羽音寂しく飛翔する鳥たちの見つからない羽根..

うっかり相手に笑いかける、ポーズも、ままならない、変な気分、

並はずれてばかりでかい足、青い影…

(卵を割ろうとするような、遠くの川が燃えている…)

時間——概念…

いや、僕は、もしかするとそれ以上だったかも——知れない…

パントマイム？…すでに一時間ほどが経っていた。

——慕っていた漆の液が逝ってしまった…

[なのに、甲虫は相も変わらず羽根を広げようとしている、

カフカ、孤独な昆虫を探す夜明けは、僕が作る——よ…]

驢馬に乗って、驢馬になる、

ミイラとりはミイラー——でも…煙草を棄てた、

吸いがら——

コットン……コットン……。

粘質の細い糸状で、大型の海藻に着生する、

貝類のようなヴェールムースにすっかり、酔わされ——て…

(Der Weg zurueck)

[帰り行く道]

僕は焼けるような沙漠の上で、表現としては存在しない。

赤と青にくるまれながら、咲いて実がなってようやく種子になったばかりの僕は、

ひまわりの裸体を演じてる、午後の陽、鉛臭さ

スプーンの反射をかじるように、どうぞ、と、

若い身体を欲しがら、女に――

（考えちゃいけない――のに…顎が上がる…くれてやった！

僕の熱は、お金欲しさに、女に抱かせてやった僕のひと夜の苦悩から来てる）

ひきつり

――いらだたしき一夜を哀れむほど――長い痙攣。

さびた包丁と、犬の吠え声のコントラスト！…

女は、手れん手くだを使った、舌を使い、胸を使い、

そして狂ったように、若い男の身体を求め――た…

「私が…あなたの最初の女になるのよ、――

うぶな子、いいわ、弱くて、先がわからなくて、目の前のものが正しいと、

すぐに頑なになる子。でもぼうや、男になるの――よ、

男は、一度抱いた女のことを絶対に忘れ――ない…

この指遣い、それに、この舌遣い、忘れられなくなるわ」

マダム――

仰る通りでした…あれから六、七人と、浮き名を流しましたけれど、

マッチの箱からにじみ出る、うすっぺらな浄い火…どころか、影形ないような、

ありさま――ああ、僕などというものは、いまでも、

あなたの長い舌が、胸や肩に触れ、そうでなければ、あなたの指が、

股間や、お尻にあたるのが、それはもう――ああ、それはもう…

蜘蛛、この世のものではない――

まぶたの膨らんだような蠅さえも、瞬く間に…

コットン……コットン……。

あなたは、タロットカードを見せつけ、数枚、順繰りに指差しました、

眠りが深いときに現れる、急速眼球運動——きれいな掃除…

あれは死神のカード、吊るされた男、そして、戦車…

「あなたの人生は、長い旅になるわ、…

場合によっては、十代で命を落とすことにもなる——

本当に辛い人生になる——霊的な誓約…得がたい人生の経験…」

あれは、——忘れもしない十五歳の夜、綺麗にみがいたガラスの表面に、

実は目に見えない黴菌があると知ったような、大人たちとの衝突、

ねえ、やりきれなくなった僕は、どうしても、家出をしたかったんです、

ねえ、——和音が世界を作り上げ、リボンが夢をあしらう。

冬の日には静かなる大路を照らし、コーヒーカップを返しにゆく。

ねえ、ナウマン象は何処へ？…

ううん、違う——違うはずだ…永遠の愛は、いつ、

僕の指から——滑り落ちてしまったんですか…

「羊毛、皮革、小麦…ううん、違う——ねえ、

それは何ですか——濁った瞳の、下腹の突き出たおばさん、

ねえ、その醜さ、でも、醜いほどに、美しいものに憧れるマダム…

僕はそんなにセクシーなんですか、ねえ——溺れそうなほど…」

篩の目のような模様に見えた水彩画のびろうど、

青い山が冷たく写るし—おまけに、..おまえに滴るような、

羞恥—

(僕の時間が壊れていく..宇宙が、目覚めた瞬間、

聞いたこともないくらい、痲高い声が聞こえる、

Ecstasy さ—恋..)

エロティックなエモーションに酔い続け—た..挙げ句、

初めて嗅いだように迫る女の薫り、..甘酸っぱい、尚おも引く、

—快く物ほしき音を鳴らす...腹に沁む、美しい純白な華々。

《意味》を求めている—強く..ねえ、もっと強く、

抱いて—くれ、他にそうすることが出来ないみたいに、

《孤独》を求めている—突放したら、二度とは触れない—よ..ねえ、

声を洩らすことも出来ないくらい強く、僕だけに、

その顔、うずめてくれ—胸の白い手の上に降る薔薇、

猫の眼のような月、

揺れる..揺レル—

絵の具がまだ湿っている、蛇が匍匐前進をする、湿地のようになまあたたかい美、

—凍ってしまう吸取紙..涙も、その純粋な心の作用さえ..も...

(無意味な肉体の*Game* ...

淋しくはないかい、ねえ、一千万人!..一億人!...

くさ

艸を、びっしょりと濡らして――

射程距離が長く、銃床を付けて小銃のようにしたモーゼルみたいに、

のぞきからくり…

ああ今度ね、ドイツへ行くんだ、ドイツだよ、

海外へね、旅行で――

（ゲーテ、君は少し、女を酔わせる心が足りない――女はリアリストだよ、

だからこそ、驚かしてあげなくちゃ駄目だ――よ…

胸を叩くように、声をかけた――ら…嫌われてしまうよ、優しく、低く、

そして――いつでも去る準備をしながら、迎え入れる準備を…)

ねえ、恋をして――る…

ひとり泣きたいのを堪えている君の切ない顔が、…胸に残る――

僕が、誰にも心を許さないのを…知っている、その瞳の奥の本能に、

――僕は、骨を軋ませ、…その血を踊らせ、

執拗に、何度も、何度も、果ててしまいたくなる――)

レムニスケート、連珠形…通り名は、死霊、

レムレース、治療薬はない――

「人生に後悔するのは、ルール違反…

降りられない飛行機も、一度走り出したら止まらない列車も、

何一つ、ねえ、何一つ、僕と一緒に、

何処まで行けるのかと僕は真摯に問い、それは恋でも、

「ねえ、学問でも、宗教でも…神に願う、僕の誠実な祈り…」

(地雷をずっと避け続けてきたよう——な…

ひどい夜が続いてね、階段の踊り場で、ほたるのひかり、

わかるか——な…口ずさんでいるような、悲しさ——)

雨によどんだ灰色の空、いっそう暗いバス停で、ポカリスエットを飲む、

十九歳、死ぬほど走り込んだ、

無意味に掘り当ててしまった肉体の限界も、

髪を梳かしてくれる、女たちの手も、

——森の中…さまよって——るみたいに、ぬるぬるして、

そうだ、奥に、——もっと、美しいものがあるんだって、

信じていた、在りし日の呪文も、ねえ、魔法も、すっかり、

キノコやコケモモ、それも、落ち葉に埋もれてね、一枚一枚よどんでいる、

芭蕉のさみしさ——かな、…味気ない、

でも心は老いる、肉体はまだ若い、永遠だけが僕の憧れ、

そんな風に、顔を見合せているらしい僕を取り囲む秩序、

忘れて——しまっていた…

「港へ——」

(涼しそうに風に吹かれている、夏も、

ねえ、寒くて、水じゃないお湯なんかに震えている冬…)

つくづく——

人間って不調和——だ…

普通って、いいことだよ——誰かをきちんと愛せる、

嘘の中でね、ああ、嘘の中で——奥行きが深い玄関のドアベルに、

そっとキスする、舌を入れてね、やさしく丸める——

窓の下に立ちどまり、背伸びして…川底みたいだ、と気付く、

でも、咲いている、人の貧しさ——

どの庭も、どの庭も、本当の花を、見付けられないでいる、

孤独な都会！…看護婦にいじめられ、教習所の先生に、

どこ住んでいるの、と聞かれる——

「——僕は、もう、最悪の形で何度も知っちゃったんだよ、

ああもう、腫れあがるほどにね、淋しくて使い物にならない、

賞味期限の切れた女の肉体でも、人の心は——ある…

そして——僕は、あれほど憧れていた運命の女の裸体に唾を吐いたんだ、

ああ、いかに使い物にならない役立たずの玩具か、

その胸も、お臍も、ねえ、ありとあらゆる君の美しさ——に…」

宿命なんて所詮、戯言にすぎず…すべて、神の意のままだということをね、

[恐ろしい行為のひずみ…]

コトン……コトン……。

皮膚に感ずる——なつかしい、甘い汗。

おお、曼珠沙華、彼岸花…マンドラゴラ——

短い言葉を交わすたびに、黒い煙があがーる…

憂愁の曳航ー人生なんて、どれほどの値うちだって言う？

たかだか造花、さもなければ、野花。

ああ体内のエネルギー代謝を調整する、ホルモン物質の一つじゃないかな、

そう思う、ああそう想ってしまう、天才過ぎる僕は！

口惜しいほどーおお、神よ…あなたはまだ、満足していない、トリップ、

あなたはまだ、…まだ、僕の生き血を啜ろうとしている、

懺悔も、まだ聞きたいーのだ…あなたのいる真昼…

「きたるべき悲しい午後。……」

すべてのものの内側で生き。脈動し。硬い黒砂を選ぶように、

死の線が延び続けていたーしなやかに夜気が蒸れる、

美しい人達は、青信号だと言って、何も気づかずに、ピラミッドへと向かい、

それが黄色となり、赤ーとなって、もまだ、エゴを捨てられず、

二匹の糞虫の構図。互いに邪魔し合いながらしがみついている、

足を引っ張り合っている、マイイマインド！

（ねえ、あの臆病な人を見たかい、自分の話しかしないんだ…

ねえ、知ってるかい、本当に傷付いたことがある人なんてー稀なんだ…）

ミナレット

軽蔑するように笑いだした尖塔…

風景の印象が弱くなるーそして、

人の面影がすぐに強くなーる…

コットン……コットン……。

また、——だ…

多孔質のスポンジのような、人の感覚の世界、

——澱がおりたよ…内省に充ちた飛躍おおき瞬間…
とき

(声にならない激情が、何度も宇宙の開闢を——告げた…

さあ始まりだ——世界を呪え、…そしてその呪いの分だけ、愛せ——)

…始まりのない、始まりの——ない、朝、

終わりのない、終わりの——ない、朝…

透過する饒舌！…足を伸ばせば、汝の胸に手が当たる…いそいでゆけば、

急げば、ゆらゆら——が続く *Lonely* …

彼方に想いは沈む。ライト——ライト…黒い魅惑、

おお、加速のなかに女は——暗鬱な女は…限りない大空に憧れ——る…

たとえ、黒い雨が降ろうと、…蛙蟪が降ろうと…

(君が来るとは信じてはいなかった。——)

くだのようなからだを引きずって這入つて来た、何かが、俺をおかしくする、

私にする——絶対とは、不幸すぎる、ということ…

偽物なんだから、

本当に欲しいものは、もっと別のものなんだから、

おかしいほど、——亀裂！…

——夜でも、昼でも、ヘヴンズゲエエトをくぐる、…

悲しいほどに、まとう *Gender* ...

そして君はまた違う誰かになる！ 何か輝かしいもの——おお・・

消しゴムを並べていく、ハードカバーの小説みたいに、

——駄目だったのか？・・一日は、カタ カタ カタ・・・

捕虜となってしまった、愛に・・ええ、——そう、愛の夢に——

溺れ続けることが、泳ぎ続けることが、・・*Smile* と——

1月31日

1

最後の瞬間に思い浮かべたもの、見たものは、自分のその部屋だった。

そこで、不規則に渦巻きながら、方向のない移動を始めたりしている。

そんな風に！——にわか雨が止んだ・・。

オールにしみ込んだ夜に黒い炎を煽る。

冷めた花びらから、恐ろしく単純に、

金属がなんらかの操作で別の金属に相互変換する、

――熱い香りのコーヒーカップ。

なんの仕掛けも芝居気もなく街灯が

一斉に点る。産卵期の初夏、

集団で水上に飛び上がることで知られるレン魚のように。

2

記憶の部屋である。そこで、僕は焦点を失い、呼吸もひきつり、

ほとんど、止まりかけていた。睫毛の先に、――おお、戸惑いの瞳の奥に、

秘めたざわめきが伝わる。コンビニの帰り、

パトカーは狭まった両側の壁に挟まって、

つぶれるように停止した。僕は振り返ることもなく、

狭い路地の先に見えた光に向かって跳躍する。

通りは見渡す限りその果てまで磨かれたようにつやつやしていた。

すでにパトカーの姿はなく、ぱちゃんと靴底が水たまりを踏み、

雫が舞い上がる。でなければ、これから凍る。

見よ！ 粗大ゴミの日は月曜日と木曜日――。

我々の一生では何かが終わっても、すべてが消えるのではない。

ただ、自分たちが止まる。交通事故で、救急車がサイレンを鳴らす。

警察官が現場検証をする。夜は、長く、そして、淋しい…

茂みをかき分けて葦辺まで、おお、まるで――

皮膚にはり付いた砂のように、振り払えずにいる。

時折には、気付けずにいる。

しかし、同じリードの一節を繰返し練習するように、

胸にこみあげた感情をふり切るように、

僕は紙コップをさし出す。

そこにどんな飲み物があるかなんて知らない――

ただ、意味があると思っている。

それだけだ、それが美味しいとか、熱いとかぬるいとか、

冷たいとか、それすらも、考えていない。

しっとり濡れた白樺の褐色の木立が、

すぐそばまで、近づいてきている。血管のなかで、

勝手に増えていく情感のように、まっすぐ。

5～6センチの蓮華状の花をつける。落葉低木がそこにある。

鉛筆の線から、陽光がつくられる。

それが偽物でも、僕は、陽光と言っただろ――う…

変動・影響などの範囲。窓・戸・欄間などに、縦または横に一定間隔を置いて
はめこんだ竹の透かし格子。

5

思いがけずほろ酔い気分になるような羽目はずしたため、

僕はすっかり、愚かさを催促するマゾヒストだ。

酔いは、ゆすったり、裏返したり、いろんなことを試している。

すると、まるで挑まれてもしたように、

そいつは蛇で、急に身体をくねらせて近づいてくる。

頭が、大きい。目の前で、一切の形を否定する恐怖。

水の性質にしたがったような強制的な圧迫感。

しかし、その飴玉を、ぬき取れば口の中はがらん洞になる。お菓子。

ざらざらのオレンジがかった、いや黄色。舌。

うすあかい、ざらざらの庭に、発声器官や聴覚は、

最初に覚える感じのような、春の印象、空気。

その渦捲くような感じが、滑る。冷たい。

足が何故、垂れてゆく。若く張通る響きの強い声音。

なまはんなかな知的操作を拒絶するもの。

搜索願も、新聞広告もない。

ただ、ひどく手がかりのつかみにくいものとして、

殺虫剤や、虫取り網がある。

6

それはなぜか。そのあとに

恥ずかしいという感情がやってくる、まる一日、

休みなく続いているのに、夜寝て朝起きると知りながら、

何度も近づいては遠ざかると知りながら、無駄な努力は去らない、

固定観念から自由になれない。それでも、熱は、

だぶだぶのズボンを履いた道化。笑えばいいさ、ああ——そうさ、

笑うがいい。ふだん隠している、くたびれた自分を憐れむがいい！

這う君、歩く君、——走る君！

7

そのあとで色とりどりのぬかるみの真ただ中に出ていき、

水筒が下車する。エディプス・コンプレックスにとり憑かれた。

トタンぶきの建物。際限もなく突然、視界がひらけた目的の海でさえも、

地図を間違えたようにくだかれた貝殻と、家畜のにおいとに、

あわてて眼を逸らす砂の色、魚の網。

リアルな現実に触れることができない、逸脱や暴走に、

そう——無へと入っていく。水晶細工のように浮き上がっている、

眼の呼吸器とでもいえそうなものが、無意識に知覚している幾本もの姿は、
何か太古のさまを思わせるような、美しさで、――薔薇色に染まった・・

秋の末からまた白くなり始め、唐突にやってくる冬の前触れ！

ぞっとするようなお祭り気分の街路をぶらつけば、ああ、眼を閉じる、
ねばりけのある唾液。瞼の興奮と苛立ち。

8

虚空をつかむような遠い遠い思い

人混みの中にいると、割り箸を割るようなたやすさで、

その人が、どんな人物であるかわかることもある。

さあ、遠慮しないでもっと愛撫して！

偽りの愛撫。ブレーキを掛けた車の上を飛び越え、反対側の歩道へ渡る。

煉瓦の壁にもたれ、呼吸を整えながら通りの様子をうかがう。

ロビンソン・クルーソー！

あるいは、無表情がさらさらとこぼれおちてゆきそうな、

孤独。焼けた砂に、痛みさえ見せなさそうな仮面の群衆。

分析。都市の一考察。人間というものは、砂糖をまぶされなくなると、

ドーナツになれなくなる。

真中に穴があいている、というのは、誰でもそうだが、

皆、嘘や、あやまちにそそのかされて、

不気味なくらい、はげかかっている。無論、頭のことではない。

みすぼらしく、目立たない、人だ。

道の上からとりのぞいても、――かげろうのように、

また人があらわれ、しかしそれもなぜか、確信のもてない、

人らしくて人ではないけれど、やっぱり人。

抵抗という無意味さを教え、何の役にもたちはしない、人。

9

覆い被さった楓葉の陰りのしたに、意味のある言葉のように、

仕草と沈黙が来る。はじらいのない、肌を刺すことのない、

みじめな失敗が、せきを切ったように、わめき出す。

――そして、僕と君という、僕等という世界の中で、

卑屈な関係を保っていた。この最高度の健康が、わめき出す！…

わざわざ登るほどの山はない、

高い火の見櫓はない、塔もない、

――そこでは、人影ばかり…

見通しが悪いだけだ。砂の斜面に、蠅の仲間。

花粉をまぶされたように、呼吸が苦しくなる、

ああ、雨降らぬ季節の乾涸らびた脳髄――

さながら遺骨をビニール袋に納め、ポケットに入れて旅にでも出るようだ、

旅に出よう、書を捨てて！

そうだ、恋人すらも棄てて！

10

柔らかな胸に腕を組んで立っているのは誰だろう？

肩と、腕と、脇腹と、腰なんだろうと思う。

その姿を見るとたちまち僕の中に、不意に、すさまじい響きが起こって、

運勢図のようなものを透視してしまう。ああ、もし、

コントロール・タワーのようなものがあれば、空気を清浄にするのと、

同じくらい、麻痺して、世界は静止する。

11

前方に、時刻が移っても少しも衰えない日射しと灼ける野が見え

清らかな暗黒に浸され、洗われた。

ああ、誰か面倒をみてるだろうか。

この骨、近くと遠くが交錯する。待ってくれ、と言ったところで、

誰も聞く耳など持たない。おびただしいノイズ。

くらい顔をうつむけて歩いている人の多くが、虚弱で、わがままで、

――部屋の中でベッドに平らに横たわった人が、そうであるように、

身じろぎもせず横たわったまま、夕闇。風化や水の浸蝕による土の分解を、意識する。遠ざかっていく足跡を満たすまばゆい水のその眸ざし。

いとわしい競争が、片隅にまどろむ。生存に適していない、墮落おおき人の心に、年中しがみついている蛭。おお、ふるいわけられた3パターン。

淋しい人と、普通の人と、淋しくない人。淋しくて仕方のない人間には、余計な心配をすることがない。レンダリング。現実のうっとうしさなどを、想い描いている人は、さながら散水の燦々たる滑降台。弱いもの、脆いもの、

と言っている、たかだか街頭の大型ディスプレイの緊急速報。

神経の衝撃が石榴や桃の実に触れるまでにはいたらない。せき込んでも、充血した目のふちでも、どちらも深いほら穴ではない。崖際でもない。

ただたんに、ひっそりと沈んだ牡蠣。ひっそりと微妙に危険な均衡を、

皮肉や、あるいは愛の言葉が通り過ぎてゆく。ゆるやかな斜面を、降りてゆくように、息をはずませながら、ざわつく手を落ち着かせながら、

抜け殻のようにそれは硬くなっていた。厚い陶器のように。

そして口から垂れるにまかせていた涎れ、さからえるはずもないのに、

ただひとり、自分がそこに力を入れないだけで絹の動くときの、

結ばれるときの、なまめかしい、やわらかい音。レンダリング！

――鈍重な草根。公園はひからびた球根のように、隠れ場もない、

枯れ木が、細い道に植えられている。笑い声もきこえない。でも、

老人は通る。淡い疲労の眼の奥で、痩せこけた頬の奥、痰の絡まった、

咽喉の奥に、淡い光の点となって、少しも人間らしくない、虫となる。

都合の良いように解釈し、困れば怒り、人がよさそうだとわかれば微笑する。

別に悪い人じゃない。でも、老人だ。それだけのことだ。

1 2

チクタクと時を刻む音は、

人はそれぞれ、人から何らかの影響を受けている証だ。

そのうち、うとうとすると、僕は十本もの手にひっくり返される。

何らかのものに。たとえば目覚ましをあらわすものに。

あるいは、ステンレスの冷たい感じに。

1 3

できるなら駅のベンチに坐って、一日中行き交う人を眺めていたい。

ああ、わかっている――僕はピーラーで、芋の皮を剥きたい。

それだけのことだ。キッチンマットも、ミニシェルフも、水切りも、

ペットボトルワゴンもいらない。カップツリーもね。

僕はピーラーで、芋の皮を剥きたい。

そして、家に帰りたい。

1 4

洪水の川を流れる巨大な樹、家、ピアノ、車のように、

シーツと毛布を丸いピロウドの天井のように引っかぶって、洞窟のようにした――

シャーマンの呪術。感受性の美しさ、その音楽の美しさは、

光学的な滅びの後で見る夢。

15

そのようにして、白いオイルがポタポタと漏れていた。思いあがった感傷主義なら、

汚れた犬の眼とでも、ノミの大群とでもいって、

君を不愉快にさせるかも知れない――ああ、僕だ！ 僕です…

しかし、やりきれない、

湿っぽさをくすぐり返すのは、まだ、花が咲くからだ。

かたくなならないうちに冷蔵庫にいれるご飯にくらぶれば、

ずっと、自然。夜が明けて、かたい飯をもそもそ食っているうちに、

滝みたいに流れだした一週間にようやく夜が明けて、ライン作業も何のその、

俺たち、指ではじいた火の粉みたいに一瞬にしてすぐまた明るく燃えだす。

無知によって冒涇されかけていた昨日までの日々の乾燥が、

流動する。黙って部屋の隅をあるくパジャマ姿の女に、おはよう、と、

いたわるようにささやくのは、けして、リッピササビスではない。

お嬢さん、子供がほしいかい。それにしても、随分変わったやり口で、

しゃぶりますね。これ、大切。女性を褒める時は、頭をきちんと、
撫でましょう。そしてどんな時でも、うーうー、と呻きましょう。

この人って馬鹿ね、そうですよ、どうすれば、相手が、

馬鹿だなあ、と油断してくれるかばかり、考えているのですよ。

リラックスって、必要。みんな、こわばっているのは、不器用すぎる、

あの笑いからわかります。別に、そうさ、絶対に、一か所に、

とどまってなんかいやしない。悲しみが、積もる前に、

雪かきするよ。毎日、ふいにランプの火が消えかかる、四つん這いで、

おっとごめんよ、あっしのおっとせいが、あたっちゃいました、アウアウ。

ともすりゃ、のたうちまわりそんな俺は身体をのばす。そして首をかしげて、

新しいタバコに一本火をつけりゃ、オート三輪らしいエンジンの音も、

きこえてくるぜ。そして、すえなからうが、女にすすめてやんな。

空には、まだ、星がずっしりと垂れこめている。

あわよくば、公園。コーヒーくらい、いれるから、馬鹿みたいな顔して、

隣で呆けていてくれ。人生に、苦しむのは馬鹿な俺くらいでいい。

ねえ朝くらい、こんなゾンビだらけの緊張を破って、芽を出してほしい。

そう思う、僕のスコップがそれを大きな公園へと植え替えるまで――

部屋の隅で明るく電灯に照らされた自分の寢床に向かって、

お前は、まだ機密性が高いな、と言う。ときおり咳払いをしながら、

レモンの果汁に砂糖また炭酸水を加えた水を飲む。

そして、甘えてはふざけ、こびては離れる猫とか犬のようにはなれない、

人の難しさを、ひとつの詩にでもしよう。

色々な過去を背負って、次の世に生きるより、

インテリゲンチヤの幻滅、不正や圧迫に対する抵抗をし、

自由への憧れをうたう方がいい。そして、熱くなる方がいい。

自分の魂が他人の魂の中に入り込むように――

キリストを抱く悲しみのマリア像、入れ子状。

ああ、恋している女を抱きしめに行こう。自分を見つめ直そう。

生きている時間を大切に過ごしながら、本当とは何かと問う君よ、

心はいつも、ちゃんと君の中にある。

どんな夜も、昼も、声が聞こえる。

それは、良心の場合と、邪悪なものへといざなおうとする囁きだ。

しかし、人生はすべて正しい！ 君も正しい！

でも、多分、僕の方がずっと正しい！

――だって僕の声に、抗おうとする人が大多数だが、

というより、まず、僕以外できもしないようなありさまだが、

それでいて、それが一番正しいことをみんな知っている。

だからそれは正しい。そしてそれでいいのだ！..

君が従う必要はない。好きなだけ墮落し、人生を楽しめ！

言葉が悪いと思うなら、よく生きろ！

するとどうだろう、突然、世界の照明ががらっと変わり、

俗っぽい家具の並んだとても小さな部屋で、薄暗く、埃もある部屋に、

僕はいた。そこで、瞳を青い月の色に変え、閉じかけた抽斗に、

いつかどこかで見た鳥が止まる一一よ..

たちまち傾けた。淡い光の手紙一一

僕は、本当に眼を瞑り、何度も首を振った。

そこには、こう書かれてあったんだよ。

「一一僕が僕を信じているように、

君も自由への熱い闘いを始めるといい。」

一一長い夜は、こうして、締めくくられ、

誰も、こぼすことのできなかった、嘘や過ちを、

僕はただ、魂の通過儀礼として受け入れ、

僕は名実ともに、詩人の魂となる一一う..

人の弱さを強さを持って受け容れる、それでいて、

それは違うときちんと言える、本当の優しさを持った、

孤独な人でいよ一一う..愛はいつも傍にある、

そして、世界はいつでも、心を開いた人の向こう側にある..

そして、一度たりとも、僕は屈さなかった。

僕が負けないと言え、一度も、負けることはないのだ。

僕が勝ったと言え、どんな瞬間も、勝ち続けたのだ。

次の子たちよ、僕はいつでも、僕のあまりにも高い理想に、

いつでも近付いてほしいと思っている。この国で、

このあり得ない人びとに、勇気を絶やさないことが、

どんなに大切かわかる時がやがて君にも来る――朝は、

明日は、そういう君の涙をぬぐうためにある…そして、その時、

ここまでおいで、本当の人生が知りたくなると思うから…

その時のために、僕は、全部準備しておくつもりだよ、

君が、生きている時代は、僕がすべて支えてみせる――

もう、誰ひとり、こんな苦しみを抱かせたりしないと…

何度も誓ったんだ、夜も、昼も、おお、そして、すべての朝に――

ノイシュヴァンシュタイン城を案内するガイド

ロマンチック街道の終点、

ディズニーランド-シンデレラ城のモデルにもなっている、

ノイシュヴァンシュタイン城――

ところで、皆さん、このお城は実際には、

森の中の崖の上にひっそりと建っているだけなので、

その全体像を麓から見ることはできません。

シャトルバスか、馬車、あるいは徒歩で登ります。

ちなみに、ペラート峡谷にかかるマリエン橋がもっとも美しいと言われています。

そこから見たい方は、麓からのシャトルバスで移動するのが一番の近道です。

城へ行きたいんだという方は、馬車か、徒歩で。

ちなみに徒歩で行かれる場合は、山登りであることを頭に入れておいて下さい。

次の日、筋肉痛になること必至です。

ところで、ノイシュヴァンシュタイン城は

ドイツ南部のバイエルン州バイエルン・シュヴァーベン地方にあります。

城を中心として、右側には心が洗われるようなアルプ湖を隔てて、

アルプスの岩山が連なり、

左側にはシュヴァンガウ地方の景色が広がっています。

それではガイドツアー、本館二階の赤の廊下から――

ここには使用人の部屋が五部屋あり、

一つの部屋を二人の使用人が使っていました。

…廊下の窓がもし開いていたら、これは幸運、疲れた身体に、

素晴らしい風が吹き込んでくるでしょう。…

ところで、どうしてこう、隠れ賭博のような雰囲気があるのでしょうか。

使用人たちが、夜な夜なカードゲームに興じていたさまが、

ふっと甦るのは、何故なのでしょう。

さて、赤の廊下の先には、上の階に続く一一王の階段があります。

これは高さ六八メートルの北の塔の内部にあります。

この螺旋階段を四階まで上ると、

控えの間があります。控えの間の壁を飾る絵画は、

全三九歌章からなる『ニーベルンゲンの歌』の古い形である、

エッダのジークルト伝説の第一部を描いています。

リヒャルト・ワーグナーはエッダのジークルト伝説を基に

『ニーベルンゲンの指輪』を書きました。

こういう風に、歴史がさまざまな形で取り入れられているのです。

続いて、玉座の間。よく見て下さい、…何かおかしくありませんか？

そうです、ここには王座がありません。

据えられる直前に、湖で亡くなったので玉座がないのです。

メルヘン王、狂王の異名で知られる彼一一…

ルートヴィヒ二世はベルク城に送られ、シュタルンベルク湖で、

医師のフォン・グッデンと共に水死体となって発見されています。

エリーザベト皇后は「彼は決して精神病ではありません。

ただ夢を見ていただけでした」と述べたようです。

…この人は様々な城や宮殿を、欲望として？…あるいは美として？

一一具現化したいと願っていた人で、

シュタルンベルク湖は何かさみしすぎます。

さて！…玉座の間の一番の見所はシャンデリア。

シャンデリアはビザンチン様式の王冠の形をしています。

金メッキを施した真鍮製で、ボヘミアの色石とイミテーションの象牙が嵌め込まれ、

九六本の蝋燭が立ちます。重さは九〇〇キロ。一本の鎖に固定され、

鎖は玉座の間の屋根裏にあるウインチで上下できるようになっています。

続いて、食堂。窓からはペラート峡谷と、落差四五メートルの瀑布が一望できます。

続いて、寝室。寝室には多くの檜の木の彫刻が見られます。

これらの彫刻は、十四人の木彫り職人が四年半もの歳月をかけて完成させました。

では続いて、礼拝堂。建築家ユリウス・ホフマンが一八八〇年に設計しました。

礼拝堂はゴシック様式。

祭壇画は、聖人に列せられたフランスのルイ九世で、

ルートヴィヒ二世の名前はこのフランス王の名前に由来します。

続いて、更衣室。唯一天井が木張りとなっていない部屋です。

部屋の絵画は、ワーグナーのオペラ『ニュルンベルクのマイスタージンガー』

と吟遊詩人ヴァルター・フォン・デア・フォーゲルヴァイデが、

モチーフとなっています。

ヴァルター・フォン・デア・フォーゲルヴァイデといえば、

政治の詩で有名な人です。宗教的で教訓的な詩。・・

と、その話はそろそろにして、

続いて、居間。部屋は客を迎えるサロンと王専用の小部屋『白鳥の間』に、

分かれています。白鳥の間は、

王が好んで読書をして過ごした場所だと言われています。

次は、冬園。白鳥をエッチングした一枚ガラスの扉が嵌められています。

ここにある噴水は、本来三階の『ムーア人の広間』用に納入されたものですが、

王の死により、三階の建設は中止となったために冬園に置かれたようです。

続いて洞窟。居間と執務室の間にロマンチックな時代趣味に沿った、

人工鍾乳洞を造らせました。

洞窟の窪みには効果的に照明を配し、滝も設置されていました。

続いて執務室。執務室は、この城のモデルとなった、

ヴァルトブルク城と同じロマネスク様式になっています。

ヴァルトブルク城といえば、中世の伝説であるタンホイザー伝承で、

歌合戦の舞台となった場所。歌合戦とは、

一二世紀のテューリンゲン方伯ヘルマン一世の時代に、

城の広間で盛んに行われた歌による合戦で、

後に一三世紀に入って『ヴァルトブルクの歌合戦』の題で歌集が編纂されています。

ところで木部はすべて樫の木を使い、照明器具は金メッキの真鍮製です。

部屋の絵画は、そういうわけで、

ワーグナーのオペラ『タンホイザー』の場面が描かれています。

続いて、副官の部屋。王の副官・侍従武官であったデュルクハイム伯爵は、
王の死後、逮捕・懲戒転任にもめげず、医師の主張する王の精神病に対し、
常に異論を唱えた硬骨漢！…

…でもたとえば、裏面には何も書いていないけれど、表だけ書いてある、
名刺のようなもの、と考えればよいのかも知れません。

真実は、陳列箱の宝石のようにあるのではない、ということですね。

さて、それでは、五階控えの間へ――

室内は色彩豊かな模様で飾られ、

ロマネスク様式十字穹窿の丸天井でおおわれています。

丸天井の助が交差する所にシュヴァンガウト、

バイエルンとヴィッテルスバッハ家の紋章が飾られています。

続いて、歌人の広間。王はワーグナーのオペラ

『タンホイザー』の舞台となったヴァルトブルク城を訪れ、

この城の『祝宴の広間』を見て感動し、

自分でもこのような広間を持つ城を建設したい、と思い、

その結果、本家ヴァルトブルク城の祝宴の広間を上回る豪華な、

歌人の広間が完成しました。

しかし、彼はここでワーグナーを聴くことは出来ませんでした。

何しろ、わずかに一〇二日間で、

王はベルク城に軟禁されてしまったからですね、はい。

それでは一階の台所-厨房へ。

台所は、厨房とその奥に食器洗い場があります。

厨房は一八八〇年代当時、最新設備を揃えたもので、

温水が出る給水設備、鹿肉や鳥肉をローストするために大小自動回転グリル、

薪のパン焼き竈、プレートウォーマー、保冷库も完備されていました。

そして最後に、食器洗い場。

厨房の隣には料理長の執務室があり、そこから食器洗い場を覗くことができます。

この部屋は一八八六年当時のまま保存してあります。

いかがだったでしょう、絢爛豪華で、時にはちょっと悪趣味な、

ノイシュバンシュタイン城――

王のルートヴィヒ二世は一般に精神病のために廃位されたとされていますが、

実情はバイエルンの恐慌にその原因があったとされています。

あるいは、普仏戦争で弟オットーが精神に異常をきたしたことも、

遠因としてあるのかも知れません。

バイエルンは、一八六六年の普墺戦争におけるプロイセンとの講和条約のために、

多額の賠償金の支払義務があり、

さらにルートヴィヒ二世の相次ぐ城の建設、政情不安などによる恐慌が起きていました。

これを危惧したバイエルン首相ルッツらが、

グッテンら四人の医師に王を精神病と認定させ、

禁治産者にすることを決定したとされています。

少なくとも四人の医師が実際にルートヴィヒを鑑定した記録はなく、

証言者の信頼性に乏しい証言、観察をもとに診断書を作成したことだけは、

事実であるといわれています――

夏の公園

町はずれの夏の陽射し――

蒸し暑い文明の都会から、群衆は離れて、

大概是、雑踏のうわっ滑りに・・

壊廃的な、滅びる前の孤独――

蝉時雨――・・

産卵場所を求めアゲハチョウはゆらゆら飛び、

蜂の巣は・・

残忍な――抜け目のない顔・・

四囲の青葉が遮ってくれている公園では、

大きな欠伸と共に、昼寝・・

つながらぬ携帯電話は、

ネズミを取り損ねた猫。

大都会ではミュージカル・コメディが催され、

映画館では、肺病だって、

ねえ、心臓病だって、高血圧・・

モヤっとした何かを渦巻かせる、蜘蛛の糸。

きゅっきゅっとう鳴る靴、

高飛び、

すばやい逃走、

そして共犯者はい——ない…

不安と、懐疑と、好奇——は…

ふいに世界を振り返り、

果物のように、詩を忘れている…

ハイボールの中の檸檬の細片。

ダイヤの首飾り。

汗は…敏捷な指！

汗は——巧妙きわまる破廉恥な手口！

陰翳は、嚙喰と鳴る——

とりとめもないさみしさが、

木立や灌木の植込みの中を、

風は——ゆっくりと通過し、

公園の向こうの歩道へと、

呼び鈴のボタンのように、

背を押される——…

行くよ って…

――やせほそる 月…

心にくくいみじき例に――とつおいつ…
ためし

さのみこそ――気の毒なほど迷っ…て…

(装われた馬…)

―― (若く盛りなるその姿)

行くよ って…

…浮いた感傷、

膜――

行くよ って…

、、、 かたち
心ふとも――みめ、容貌、もてなしを求め…

善き方へ… (猶いやまさる恋の淵…)

深き方へ―― (せかるれば猶つのもる恋の闇…)

――しづごころなく…

あなた は――…

綺麗な、言葉ば――かり…

(欲しい――なら、亡びをきわめ――)

きたな

餓えの…穢醜い夢——…)

存在を許されていない影に、

…ウェルテル——ロミア…トリスタン…

はてしない夜を探し…

どこまでも遠い——眠り…

[闇は——拡がり…]

いとおしきは乱れのうち…

思いとどこおらむ内に世に隔てらむ——

ふれ

愛撫——胸は焦がれても死なぬもの…

弁えざるもの、——思いやりも皆無なもの…

こうぜつ

憾み口説…契りし中にもありて、つれなき仲の隔てにも、

、、、

語として——あるもの…

行くよ って…

——何処へ曳きずるその影を…

(ねえ…触っても？…)

唇に——眼に…

身体に——…

(ねえ…眠れ——ない…)

制なく…

察しなく——…

…痴愚にして噪狂…

憐れな…

心臓——

(空に——忘れて…)

…恋は——はかなかりし…征服…

僕は跪く——…欲は人の常、分別と恋は水と油、

——しづごころなく…

…しづ——ごころなく…

短い夏の一夜さと…

…ウェルテル——ロミア…トリスタン…

やさしく…女の髪を撫で——

頬を寄せ——眠る…

あなた は——…

あなた は——…

綺麗な、言葉ば——かり…

…女を酔わせる手管ばかり——…

ひどすぎる話

ハート型のネックレスの蓋に埋め込まれている小さな写真・・・

夏、君にあげたものだ――・・・

でも彼女は少し馬鹿で、うすっぺらな調子でペラペラとまくしたてる・・・

(女の子って馬鹿な方が可愛い――)

、、、、、、、、、、

でも時間って非情だ、――段々色んなことが嫌いになる・・・

この関係は、・・・断たれる――

胸が傷んだけれど、目の前でおしゃべりするだけで片頭痛がする、

毎日ディズニーランド状態のうるささには耐えられない。

もう、いまなんて、電話に出るのさえ億劫。

時折吐き気がすると正直に言うよりは――いい・・・

人を変えたいなんて――思わない・・・

(見た目はおしとやかに見えるので、

そういうギャップも一時期は楽しんでいた――けれど・・・

完全な性格の不一致、・・・気付くと、誤魔化しようがなくなる)

人は認めるものだ、・・・必要がなくなれば、

別れるしかない、何も言わず・・・

きれいに、お互いをたたえ合い、甲子園の砂とでもいう、

――野球好きだからね、そういう表現になるけど、

僕等は若い。君は十七だし、僕は十八。

今度はメジャーリーグという名の結婚。いい思い出を思い出のアルバムに詰め込んで、

悪い思い出を、今後の人生の糧にして。..

でも冷たいよな——..

三年間付き合ってきたんだ..そう思うと、悪あがきしなくなった。

いや、悪あがきというより、誠意か？..

(一応は、そういう所も無理して好きになろうとしてみたんだ..

女に絶望したわけじゃ——ない..ましてや、一度は好きになった女だ、

——でも、駄目だった。心より肉体が反応するってこともあるじゃないかと、

無理も重ねてみたけれど、..段々、勃ちが悪くなってきたんだ。

まあ、それは僕の武士道的精神の貧弱さだけど、ねえ、

真っ直ぐ見つめられるだけで、殴りたくなってくる..ごめん、本当にごめん、

蹴り飛ばしたくなる。刀があったらきつと斬ってすててしまいたくなる。)

Oh...人生ってこんなことの連続！

そんなわけで、喫茶店。そして、ひと目につかなさそうな奥の席。

僕はコーヒーではなく、オレンジジュース。咽喉渴いた時のためにだ。

がぶがぶ飲めなきゃまずい、と思ったのだ。

何も知らぬ彼女は、デートだと勝手に思ってる。

(デートするなら、犬の散歩に行きたいよ、俺は！..)

おっと、つい、本音が——..

、、、、、、

でも打ち明けた、..別れたい、と切り出した！..

その時の彼女の、口のあいた間抜けな顔は生涯忘れ難い。

そしてすぐに、冗談でしょ、ウッフ、あなたの冗談好き、マイケルジョーダン、

と言った時、回し蹴りかましたくなった。

パイプ椅子を持って、ガンガン頭にたたきつけたくなった。

客席にブンブン振りまわして、ブン投げたくなった！

テーブルひっくり返して、帰りたいのだよ、僕は！..

などと、本気でそんなことをやったら人でなしなので、僕は、繕った！..

えらかった！..

「ねえ、君は素晴らしいんだ、美人だし、..」

あと、変なぬいぐるみ、飾ってるでしょ。

あれ、どうも好きになれない。グロカワ？..いや、気持ち悪いだろ、それ。

と、脱線しそうになるのを、グググッ、とこらえながら、シリアスに続けた。

「..僕には勿体ないって気付いたんだ！..

好きだけど、愛しているけれど、君が、

美しすぎて、周囲がみんな君を見ると、僕は嫉妬してしまんだ。

ごめんね、もう、耐えられないんだ！」

と、卑怯な論法だな、最終的にお前が悪いから別れるんだという感じだったけど、

とりあえず褒めることにした——褒めちぎり..グッドバイしようと思った...

でも、そうしたら、わあ、と泣く..

正直、毛虫が服の上についた時のようなリアクションをしそうになる。

グッと、堪えて…

「泣かないでくれ、泣かないでくれ…」

「うわあああん！」

おいおい、やめてくれよ！

デリケートなのだぞ、僕は、一年間くらいお前の悪夢見そうさ。

…周囲の客が、僕等の席を見る。店員が、通路をUターンしてくれる。

サンキュ、今度、いちばん高い料理注文しちやる。

「ねえ、僕はロクデナシなんだ。

きっとダザイオサアアアムの生まれ変わりなんだ」

おどけて——みたけれど…太宰死ね、としか言えない。

太宰好きな奴死ね、としか言えない。

——どちらも、いずれ、死んでいる、というね…ハハ——

おっと…脱線してしまった…

「浮気したの？」

両手で顔をおさえながら、言う。

おまえ、浮気するような相手と思って付き合ってたのか？

おっと…つい、辛口批評が。

「してないよ——…僕は浮気はしない、

ただ、色んなことを真面目に考えた末の結果なんだ」

つまり、お前が必要ないってことだよ、わかるだろ、..わからないか？

女は四の五の言わず、わかりました、と引き下がるのが筋だろ、馬鹿野郎。

いっとくけど、俺、亭主関白だからな、お前みたいな我がまま女と付き合えるか。

おっと、つい、将来設計が一一..

「あたしを弄んだのね！」

「弄ぶだなんて、そんな！..」

(弄ばれるような、いい女のつもりなのか、お前？)

一一おっと、いかん、本音が..

「..とりあえず、これで。」

財布から一万を出し、これで何でも注文しろ、というつもりで、テーブルに置く。

グッ、と、手首引っ張られた。

「お願い、許して..捨てないで！」

「捨てないでって、そんな..」

というか、お前何、悪いドラマ観てるんだ。

捨てるとか捨てないとかの話じゃなくて、

まあ、表現は異なるけど、最低でも、別れるか別れないかの話だろ。

そういう所がすでにブス、と言いきりになったけれど、待て待て、

喧嘩別れして何のプラスがある？..

「肉奴隷でもいいの！」

僕は一一蒼ざめた..こいつ、どういうエロ本、あるいはA Vみてるんだ。

途端、ハッと、した。店員が、がっちゃん、とコップを落としたのだ。

やめてください…もう、この店に来れないじゃないか、この野郎。

「あたし、あなたの身体のことなら知り尽くしてるのよ！」

…僕は、彼女の頭を鷲掴みにし、テーブルにガンガン打ちつけたくなった。

最低でも、ドロップキックしたくなる！…

「…やめるんだ、自分を落としちゃいけない。

自分を大切にするんだ—そうだろう、世の中には、

両親の借金で、ソープに落ちる奴もいる。

友達に騙されて、A Vに出演する奴もいる。

恥ずかしいことを、言っちゃいけない—い…」

と、裏を返せば、なにか、僕はそういう業界の人みたいになっていて、

いや、違うんですと弁解したかったけれど、

喫茶店は、異様に静まり返り、さっきまでの笑い声がひとつも聞こえない。

やっぱり、肉奴隷はインパクトがあった、うん。

「ストーカーしてやる！」

「しないで下さい！」

つい、言ってしまった。

「あたし達、前世からの仲なのよ。

きっと、死んだら…」

「死なないで下さい！」

「じゃあ…」

「じゃあってなんだよ、お前、自殺するとか、しないとかで、
他人の人生を狂わせるつもりなのか！」

つい、説教口調になってしまう。

「お前、そんなことで、俺が気にするとでも思ってるのか！」

ロクデナシ？…いや、違うね、他人の人生を平気で壊そうとする奴なんかに、
俺は一秒でも屈したりしないっていう決意だ！」

と、なんだか、カッコいいことを言ってしまうよ、俺…

「立派な人間なら、振り向かせてやろう、と自分を磨くのが筋だろ、馬鹿野郎。

お前のたるみきった考えを叩き直すために、襦ぎでもして来い、馬鹿野郎。」

テーブルをがつん、と叩いた！…

瞬間湯沸かし器の異名とる僕の必殺技！

「自分に自信がない奴ほどみじめなもんはない！…俺は帰る！」

うわああん、と泣き声が聞こえたけれど、知らぬ顔した。

——店員に頭を下げ、眼が合った客には、目礼する…そもそも、

こんなこと好きじゃないんだ。というか、

誰もいなさそうな公園とかで、別ればよかった、と思った。

しかし、喫茶店のドアを開けようとした瞬間、怒り狂った彼女が言う。

さあ、男達、人生の覚悟はできてるかい？…

「呪ってやる！」

ノックの音

コン…

コン…

[ドアを叩いている]

——ノックして…いる…

コン

コン

《そのリズムは、…》

RHYTHM (は、)

——律動…

「死ぬなようう…

うう…うううううっ——」

距離感覚を、要求する——

反射光のように、しづかなる的——よ…

静謐なものから動的な騒がしさ…

コンコンコン

コン…

ふ～～～

ふ～～～

…荒い息を、なだめる気配——…

——ほら一世一代の大ばくち！

…ネタだろ？…玄関カメラから見る、

——なんでおまえ、ドヤ顔？

「金魚のピイちゃんが…死んだの——

それで――葬式がね…」

――そうね、さっき殺したのよ…

コロシタア！…コロシタア！…

…嘘さないでくれたまえ、幻聴よ！

(そんな生き物はじめからいないけど、

――嘘も方便、殺したのよ！)

こ… コッ… こ――ココん…

…抑揚の、――蠱惑的な風姿…

しだいに形を失っていく、ねずみ…

ここはチェス盤だから…黒と白だから――

毛細血管を行き来する――最小単位だから…

…ミニチュアの個人という町――

マウスは――唇の…マウス…

どこかに繋がったのか…？

――繋がった…繋がった…

…若かりし日の妙なる陶酔を語って――

コン… コン…

[ドアを叩いている]

――ノックして…いる…

コン コン

《そのリズムは、…》

いや変わってしまったのはもう少し前..

とくんとくん (は、)

——とお・く・ううん..

意味のないリズムに物静かな横やり..

ザアツアアー、..キュツ..

食べ終わった食器の片付け...

(不幸せが勢いよく自分を押しつぶし、

いたずらな風が通り抜けて——いく..)

「浮気しちゃうから...

などと..軽く——」

バーカ！バーカ！バーカ！

——てか、何で急にチューガクセー？

うなりをあげて飛び込む、剛速球..

いま、——野球中継..

そろそろ..馬鹿やっているのにも飽きてきたな、

——ソファは、寝室は..この家は、澱...

色彩の——澱..

よわい蛍光灯の下——ごりっ..

かよわい乙女が、タバコをふかしだす..

「シティーホテルがある！」

(そうね、ハンターもいる?)

——ハンターハンター——

ごりっ——と…胸の奥のしこりをまさぐる…

…本当に…くだらない……

——大切な何かを失った時に空く心の隙間。

(そろそろ…) と、思って——みる…

そろそろ、意地悪をやめ——て…

玄関の扉を、僕は開けなくては——…

「音を聞く」のではない〈形〉はすでに〈意味〉

…見るって?…触るって?—

それが人間性だし—

[繊細ちぎって豚となれ…]

、、、

感じる—スネアがあるから叩く…ギターがあるから鳴らす…

…グッド…オールド…デイズ…シネマ…スチール…

ああ、いよいよだ—…

闇に馴れた眼は…手術を終えた後みたいにいかれてる…

—みもふたもない…ガソリンスタンド…小さな店のある通り、

心がこすれる度に…回転数を低下させて—…

—遅くなる…おそ—く…なる

どしゃ降りの雨…

[異常な症例の一つで…]

でもドキドキしてた、ものすごく胸がワクワクして—た…

やっぱり明日もこんな日が続くんだろうな—って思ってたけど…

…絵をむちゃくちゃにしよう…

マンガースが逃げて—く…

—都心のマクドで買ったハンバーガーの袋は、

僕等の制服…不穏なムード漂う警官と、

鎖ひきちぎったらしい犬眺めてる――

(ねえ、眺めてる…)

ピース！ピース！ピース！…

壁に向かって話しているみたいに、拍子ぬけた、

情けなくて手ごたえのない僕が、なんか嫌だった――…

惑星を破壊したい！

(後頭部が痛んだ…)

今夜は、できたら、境界を跨ぐ…素晴らしく本当に新しい、

思春期！…

…奴らは逃げちゃう…

心の重ねにくい言葉だけが告げてた…

「何を考えてるの？」 「別に…」

(「違う――俺は思う…ローリングストーンズってさ…」)

……あの聖杯を飲み干せ……

それはまるで揺らめいてきらきらとして――夏です…

そしてこの田舎ではすべてがまったく静かで平和な秩序――…

<バランスゲーム…>

…千年の朝！ ジェームス・ディーンみたいな朝…

やりきれないほどの殺意――…

…ねえ、…世紀末からまた世紀末へゆく、

ココ・シャネル――…

「いま——お前に…くれてやる…」

彼女は振り向いて彼を見る…

あたしは——いやらしい娘…

それでも——さあ！…

さあ！…触れてくれない——か…

…観念の密室から脱出したい…

バンジーをキメたい！

——エレベーター、エレベーター、

あっけらかんとロン中から自然に、

飛び出す、シャレにならないスロウカーヴ——

(ねえ、反抗期なんかじゃな——い…)

ピース！ピース！ピース！…

さあおわかりかな？…気取った猿に、

シャーロックホームズ的閃き…なんか——ない…

「どうでもいいよ！」

それが…死を意味するエレガントな舞踏でもいい、

…山のふもとから仰ぎ見た、糞みたいなユニバース——

——必ずしも…ねえ…

…水準に達していない、

…でも、音を鳴らせ——

—感情移入できない、訳分らない衝動を刻め—

ギュオン、ギュオン、ギギギギギ・・

般若心経、エレクトリック吊られながら、・・

ミュージカルの準備・・

ビイ、あう、ビイ・・アウッ！

…デトロイト、ボストン、ニューヨークー

.....ロング...タイム...ノーシー...

コートの下はすっぽんぽん！・・離陸！

腹が出ても気にするな、ジャパーニズフルチン！・・ゲイバーは気にするな、

朝から晩までクルージング！

ズバツと行け！・・・（oh...パッキン女とハナモゲラ　）

ズバツ！　グワッ！　（Oh...高速ピストン、本気で電気ミシン　　）

・・・ビバ！　（Oh...本気汁だしながら、焼きそば食べたい　　）

dabadabadabadadaba.....

ーホワイ・ベイビー・ホワイ？

Hey 自動筆記的ディスクジョッキーが言う、グッドモーニング、

・・・この前、六本木で、えー、お〇んこですね、なんというか、羊水が〇ってる、

テオコですか、テオコ、・・telephonenumber　・・・ぽるぽる君？

やっぱり隠すのよくないよ、嘘つきだ、勃〇したら、しゃぶらせなさい、

いわばーそういうのって、ブレイクビーツ植民地政府な、な、なんですねー、

…ズキズキドキュン！ ズバコキュン！

…股間についでるヌンチャクを振り回せ！

——シェーツ！

放送禁止で、タコ殴り…アイム・ア・マン——

ホワイト・ルーム…

苦情殺到、——社会問題…日本の汚点…

papapa-paaaaa……

ガスも水道も電気も止められ——ても一た…

そんで、ピーのピーのピー！ ゲリピーが止まらへん！…

どないしよ——もなけりゃ、こりゃ、あきまへん！

(それでも、暗黒ダンサーズ…！)

…頭の中は、蜂の巣！

——肺は真っ黒！…

喜怒哀楽の初期衝動——全裸で！…

(感電…する——)

公園で水浴び、…ホームレスと肩組んで演歌…！

アサヒのお世話になる、落ちてるエロ雑誌に、クラブ・ウェア！

…汗、涙、寝小便、ゲロ、ウンコ、鼻毛、脇毛、振り落とす！

商店街を全力疾走しながら乾かした！

「ほんま、汚いおっさん！」

――出せればいーや！

朝から 晩までクルージング！

カンチョー、カンチョー、（oh...俺はまだ本気出してない）

ハクチョー！（oh...ビーチクが痒い、毛が、絡む）

…ハクシュン

…勝手にやりすぎた、ツケを払うのは――わし自身…切腹でもするかな、

――でも痛いしな――支那って、…どこの国やったっけ？…

帝国陸軍こんにちは！

――マッカーサー！

俺の刀の錆び落とし…！

…アイルヒットラー！

papapa-paaaaa……

Hey ゲーマー！ 犬とカクカクのあやしい仲…

「添い遂げような！」…小便かけられ、絶望――

…ほんまなんかおかしいんちゃいまっか！ チン○コも痒い――し…血液も、

ドロドロやし――…ほら、言っちゃイナ！…無職！

このまま無人島で暮らすつもりか？ 日本国民！

――共産党で戦争する！

dabadabadabadabadaba……

ズバッと行け！（Oh…麻雀、競馬、パチンコ…）

ズバッ！ グワッ！（Oh…置引、掏摸…ああ、ひったくり！）

…ビバ！ （Oh…今日さえ生きれば、あとはなんでも構わん！）

—ヌラッと行け！

—プログレッシヴ・クラスト・コア

ドウワ！

—レイヴ・カルチャー…

さすらいのカウボーイ

煙草の吸殻が散らばってる、

ひどい時は、ビールの空き缶も転がってる、

スポーツ・カー…

本人がついぞ目にする事のなかった…分身…

ガールフレンドと渚へ…

ロマンチズムと、ちょっとセンチなテイスト…

単純きわまる俺は…中学生…

ディスコ、ヒップホップハウス、etc…

(カフェ、レストラン…)

雪がしんと降り積もる…俺の身体に…。

想像の埒外のキス、眼で…追う、

歴史が潜在している…スナック…

…愛した痕跡のすべては、まやかし…

「何…見てるの?…」

(最高…さ…)

彼女の見開かれた瞳…から、フェロモンがただよう、

肌と……

髪…

そして俺が射抜かれる、数十秒…むしり取って床に叩きつけ…

たい——やるせなさ…

俺は、ぼんやりしそうなのを押しとどめて、

波のように甘やかな愁いを打ち寄せる背中に、手を当て、

身の程知らずの …キス …

どうやら、俺は微睡んでいるら——しい…

明らかにいままでと違う、女がそこにいる感覚…

そいつがいるだけで、まったく…違う風景——

こじつけ——られたような…関係…

眩暈から逃れられな——い…

奢りとわかったらリミッター解除するような、クサイ、

シモネタも、話題も、気も合うフレンドとは違う——

蒸し暑いのに、背中に脂汗と違うものが伝う…

——ある種の感覚…

やたらいい匂いがする女…

歯がきれいな女…

二の腕が魅力的な女——…

…牡が疼く

俺は多分、こいつに振られる…無意識に根ざした、

——複雑で豊かな、恋のサンプルが通用しな…い…

異常にけだるく、間延びした …午後 …

プレイリストが一周して——真昼の立ちくらみにも似た…

バレエの感覚——白鳥の感覚…明白に見える、音と色彩の、

コントラスト…

溜息が出る、競争 …ビーチハウスで …

(気取った話題ばかりする、

そして俺はこいつが…好きなくせに、

一言も一言言えない…)

、、、、、、

ガールフレンド—そのままそしらぬフリで平静を装う。

そして俺の心はまだ …カオス …

…普段の何気ないシチュエーションまで大袈裟になる、

俺の…世界—俺の世界！…

—全部が映画みたいになる…

She drew her gun and said.....

サウンドスケープ的に溶けこむ—…

I believed if time passes, everything turns into beauty

「ふられ…でもいい—」

(最高—さ…)

宇宙で一番魅力的だと信じられる女と、黄昏時、

二つの影が一つにな—る…

顔と……

額—

居心地の悪い感覚も、雑多な建物の感覚も、

(消え—て…ゆく…)

—ある種の感覚—

溺れそう—だ..

世界が段々どうでもよくなる..

今日という一日—..

—この暗闇の中に誰かいるんだったら..

シャツをかえなくては—..

濡れてしまった—から..熱いシャワーを浴びたい..

あいつがいた通り雨に—打たれ..たい..

分割 $10 = 5 + 4 + 1$ のヤング図形を見ながら

番号づけられて並んでいるものを入れ替える、ということに、

僕は詩を・・・感じた——感じた・・・

と
歯車が——停止まると・・・雨があがるという想像・・・

ドイツ観光でお世話になったガイドさんのいたバスの車中、

また、教会での演奏を聴き終わった後、

あるいは、太っ腹の社長の旅行の前ふりみたいなものを聞いた後にも、

感じた——拍手・・・拍手——・・・

傍にいたから——声がしない・・・

(近頃になって、つくづく思うのは——・・・

0の0乗みたいなこと——・・・)

不自由を強制した——鎖はもうない・・・手錠もない・・・

コンビニの前に設置されたゴミ箱に棄てる・・・

ペットボトル・・・空き缶——燃えるゴミ・・・

瞳に秘められ——た・・・揺れる囁き・・・

天体の出没の関係と・・・球体の性質と運動・・・

罪について言えることは、闇はそれに打ち勝たなかったということ。

たとえば回転が弱くなると・・・輪郭が透ける・・・！

むやみに欲しがる自由は、神の義をもたらさない——・・・

ぼくらのかみさまは…かみさまって…まだ…いってるらしい…

ぼくらのかみさまは…かみさまって…まだ…いってるらしい…

——跳躍しよう…ねえ、熱を探そう…

日ごと…化け物になっていく僕等——だから…

ねえ…どうすりゃいい——…

何千年も前から、こんな考え——

——振りきれないで…いる…いる…

「欲望の埋立地…ブラックホールみたいなものを想像しながら…

E…escape……B…back space……」

…エロスが減じる沈黙は老いるということ——だし…

…淫らな自由はあまりにも優柔不断——…

E…escape……B…back space……

E…escape……B…back space……

誰かが言う…栄光を受け入れないのは、何故か？…と…

僕が——僕が…僕が…

公正な裁きを求め——るのは…、群衆の呪いを知っているから…だ…

何が正しいかを自分で判断しな——い限り…

…見つからな——い…答え——…

自分では…自分では…自分では——…

E…escape……B…back space……

E…escape……B…back space……

——風に吹かれて喜んでいる・・・魂・・・

僕は何処にいても・・・愛のことばかり考えて——る・・・

どうすれば人が幸せになれるのかって・・・

そんなことばかり——・・・

[だれもない部屋で饒舌な説明をするメタファー・・・

火は消されない——蛆が死なない内は・・・

その膿みが——洗われない内は・・・]

カーテンを閉め忘れた——ウォークマン・・・

トラック一杯に詰め込んだ・・・リアル・・・

でもさあ・・・考えられないほど鼻が曲がりそうな消毒液に・・・

アルコールに身を浸して——もう一度考えよう・・・

E...escape.....B...back space.....

E...escape.....B...back space.....

・・・僕等は一切、何を失ったのか？——・・・

——そして一体何を・・・求めていたのか？・・・

さまよえる者

しおれた葉よ

—そのお皿はなんのお皿？

.....★

(ながれぼし)

ああ ほりがふかくて くちびるはあつくて おおきいみずうみ

あしもとからとりがたつ こうふんして きょうきして

きずあとをつけて もようをえがいて あくせさりーをして

☆.....

ウウウウウウウ

ウウウウ

(けものだ、けものだ、けだものだ)

ヒュウ...ヒュヒュウ...ブウウウ...

ビュウウウウ...ビュンビュン...

うぬぬ

☆.....

<浅い眠りの繰り返しに誘われた 甘い記憶>

たまらない、ああ、もうたまらないフラストレーションの爆発！

<マグマが、マグマが——押し寄せてきた——>

浮かばれない、ああ、しんきくさいレッツゴーの醸し出し！

タタラタン！…重力デス！

チュドンチュドンチュドン…ビビビビビビ…

<命を 無駄遣いする人達に 無言の警告>

タタラタン！…ピエロです！

ゴゴゴゴゴゴゴ---

ゴゴゴゴ-----

(うくひとで)

Φ 目です § 耳です Δ 鼻です ㄣ眉毛です

Ω パックマンです ● それを食った何かしらです

キュインキュインキュイイイイン…あ…

(なんだそれは、なんだそれは、なんだそれは)

・ ・ ・ ・ ・ ★

(ゆーふおー)

.....u.....f.....o.....

文字たちは惑星の歴史を象徴する！！

—びるげいつ

☆

《星が言葉を、人にあたえる時》

—ほしめぐり

パパパパパパパパ—

パパパパ—

. ★

「さあおいで！」（出でよ魔法のランプ…）

¶ ゴールです

〒 ポストです

☆

ぼくがいる……ぼくがいる……

ぼく…がいる…ぼく…がいる…

……ふしぎ

枯れかけた木を活かせば

雨か風かになる

kamome studio 「再生」

小さな世界

缶ジュースをあけると

国王が出てくる

開けないでください

ミニチュア国

テカテカ光る

いや…光沢…

からんだ錨――

泥だらけの靴

…いや――

草にからまり

長靴のなかにはいていた

ということなんだけれど――

ほうぼううろつく 放射能みたいに

灰色の濃い色合いの

とさかのあるアヒルみたいな国王

大きなお尻をしている

いや あれはマジでいいケツしてる

これはこれは！

と ふざけてしゃべってたら

蟻サイズの

小人国民数百人がでてきて

量のある声 幅のある声

このけだものめ

このけだものめ

僕はげんな顔

僕はげんな顔

My sweet love

気怠い午後の講義――

いつまでも・・

続けていたかった

、、、、、、、、、、
切ない曲に身をまかせ

心の秘密を分かち合った

乱雑に混ぜ返された、

約束はまだ必要じゃない

――重なった未来

バラバラの形状から・・

・・何度も何度も

洗った身体

白濁した頭の中・・

いつのまにか何もかも・・

うまく話せなくなってしまうている

――洗った皿・・洗剤・・

こびりついた汚れが

落ちない——落ちない…

僕の胸深く突き刺さる——

別れの言葉…

百年もたてば もう誰もいない…

唇——

唇の形を覚えてる——

…君はいたよね？

——蝉はジージーと鳴き続け…る…

赤い染みを広げたように 夜

長い雨が降っている 夜

どこかの孤島で

日が暮れるまで…

日が暮れるまで…

、、、、、、、、
生命として生きる

こうして重ねられた記憶は——…

ずっと だれにも語れなかった

心のいたみを…切なさを——悲しさを…

雨のしずかな影…
いまは 見たくない——
だまって背をむけ、

時の流れに身をまかせていたい

抱き寄せられて――

かすかに動く・・

相手の胸の 鼓動を聞いて・・

執拗に唇を求めた

――錆びたナイフでは削れない・・

・・喉の渇き

閉じたまぶたが――

見る間に潤む・・

声を詰まらせて

聞く者の心を

とらえて 離さない・・・

細胞のひとつになって華やぎ、動き、興奮・・

あんまりはやく過ぎてゆく――から・・

君の声――

君の言葉――

唇――

唇の形を覚えてる――

…ただ一言だけが流れ…てゆく…

生命の始まりから終わりまでの短い間…

君がいた…

ねえ、ただ君がいた…

途中で何度も芯が折れる

長い舌の嘘みたい…

、、、、、、、、、、
心の苦しみを語り合った

眠れないほどの、口惜しさ…

白濁した頭の中…

規則正しく並べられた…

人生の宿命を思い知る

どこか少しおかしいと首をかしげながら…

暗い段差に躓く…夜…

鍵を開けられなかつた…

こわれてゆく世界で…

いま、命を輝かせて、

陽が爛れてゆく…

どんな瞬間も、こんなときめきも、

——ずっと遠くへ…ただ遠くへ…

遠くへ——

何処までも遠くへ…

悲しみが駆け抜けてゆく——

——時を刻んでいる、足音…

……………夜

[言葉] は 《鏡》

――さらさらと砂の時間は流れる・・

名前も意味もイメージも持たない

<ねじれ> や <さけび> が

・・・「肉の腐蝕」

ひたすらに干からびてゆく人が、

木乃伊・・の形相となる――

、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、
よく聞き取れない張りつめた言葉が――原形・・

・・{成熟}

二つの間に有刺鉄線のようにとどめえない生成感覚に

張り巡らされて・・残酷な・・視線・・・・・！

――死線・・デド・ライン……

僕は濃密な影を記録する――

共同椅子に、人が座っている・・

暗闇が来る・・人が消えている――

でも、声が・・物や風景に残っている……

僕は、あやうい宇宙の非連続な次元を収斂させながら、

ダイナミズムの洪水――拷問的変革の飛躍――

調和のとれた万象の無生物的真理の運動の渦中・・

“意味の途切れてゆく記号の裁断と植物的な生命の循環”

僕は動物の生理を眺めている・・・咽喉の奥で・・・

異様に開かれた覚醒の燃えてくる・・・

、、、、、、、、

体内の空気の中で・・・僕は欺瞞を感じている。

その不透明の極に、計り知れない腐敗や菌を感じている。

——充実してゆく影・・・おびただしい形態発生・・・

——いつまでも逃れられない象徴や隠喩・・・

(僕は——憑依され[ている]・・・破廉恥、

あるいは——変身し[ている]・・・汚辱、卑小、)

「欺瞞とは——渦巻く自然と人間の交渉だ。」

他者の物質の信号とは様々な恍惚や熱狂の残滓であり、反転と離脱、

その存在の病とは感情が必ずしも躁ではなく鬱でもあるということ、

誇大な観念の幻想——記憶すべき、あるいは否定すべき固有名の空虚な世界、

ここに秘儀化した芸術の構築がある。渦や振動における祝祭や儀式の、

複雑な器官や臓器の襲と、繊細な変形に堆積した圧力の痕跡・・・

《エロチシズム・・・》

まぶしい光のシュールレアリスム・・・風景画・・・人物画・・・静物画・・・

過剰さと脆弱さに絡みつく不安定に差し向けられた詩作という図式が、

メスとむすびついた契機の瞬間——切開が肉と血と完全を散乱させる。

知識と教養とを持ち合わせながら、政治や革命や知識に、

・・・(嘘だ。——かぼそ・・・い・・・)

エリートでも脱落者でもなく… 衰えて——ゆく…

だが、みだりに曖昧でいることもできず…胎児…原子——

[ダ・ヴィンチが生を解体する]

…僕は突き詰めずにはいられないが——太陽や月ではない…

どうしようもない、雲や煙だ…霧だ——

——戸棚や、扉、洗面器、台所、通路…

「僕は、詩が生活のためにあるなんて…

これっぽっちも思っていない…」

(眼)に…どんな[在る世界]があろう…

——移動・伸長・褶曲。

輪郭はもとより実体すらなく、内部どころか外部もなく、

ただメタファというほかない、めまぐるしいモザイク…

——言語活動それ自体が、生命の増殖…

サドやバタイユやジュネも信じられない…隠蔽と倒錯、

合理における認識の不一致…マルクスやサルトルも、

ニーチェも——沈澱と浮遊…豊かさと貧しさ…

(解釈が違えば、溶け込むことはできない…

なら、それは人間の欲望ではないのか——)

眼球はさながら…印象という至福をうしないながら、

めいめいの最も深い思念の水の上をめまぐるしく漂い…

ヨット

レンズは毛羽立った黴のように、快走艇として、

(偉いなる神の…おそらく——ひとつまみもなく…)

重たすぎることも、軽すぎることもなく…)

神経の疼きのように——ささくればほどけてゆく、

猛烈なカオス。…まだ陰茎と女陰。

計算通り生き延びるために

走り続ける 車

如何にもあやしい夜らしかった

瓦斯の匂いに――爬虫類の卵・・

そしてカーテンがある窓・・

――外側から鍵を掛けられ

うまく中へと入ることができない 人

モータ&クラッチユニット――エンジン・・
移動軌跡距離・・そして車内で――
僕は大きい消しゴムでも噛んでいるような気がする・・

いいから、こっちに来いよ・・

(どこかできこえる まだ眠っている街には

遺骸が溜まり・・それはいずれ心の真実と共に・・

森に吞まれ――たくさんの塵となった・・)

季節を破壊する異国の言葉・・

公園の人懐っこい猫の耳のあたたかさ――

(自分たちの内にとどまるカレンダー)

—おやゆびが、

ひとさしゆびのとなりにある..

それは多分..憂鬱の目覚めなんだ..
赤い血管が死の装いをし..蒼くなる—
そして赤血球が青鷲にでもなって、ずぼんと水にもぐり—
顔をあさってる..そして僕を手招いている..

自分のはるか後方のことを想像する

そこでは雨が降ってる—はずだと..

びしょ濡れの風が吹いてる 夜

無邪気な罪..真実のよろこびを求める人の苦悩..

頓着しなければいい—されど、盲目..

ひとつひとつの嘘が僕等の愛に裁かれて—ゆく..

誘惑を感じた..悪のささやきを聞いた

植物と鳥と—そして獣たちから..

すべての人達の空虚な塊—を..

(自分たちの内にとどまるカレンダー)

—なかゆびが、

くすりゆびのとなりにある..

それは多分..頭のおかしな気分なんだ..
ものに憑かれた..火の烙印なんだ—
そして僕は、色を奪われた狭い部屋のベッドで、悪夢を見る..
夏の発作のように..ゆううつな鐘らしき生き物が—
そのコップ一杯にも満たない、生命を終える..

雲が

導いて――くれた..

大空へと遁れゆく

鳥...

いつはてるともなく続いた喘ぎは

どれだけ多くあった？

と――滑空飛行を繰り返す鳥が

陽射しの中で堅い羽をとがらせている鳥が

...教えてくれ――た

――音が止まる..

進行中の作業――

プレゼンス/雰囲気

建物全体が揺れているように騒々しい――

認めない 言葉 さえぎって..

そそがれて来る うすやみ

「長い髪は 僕にとっての 噴水…」

声が…どこからともなく聞こえてくる…

「君の声が…」

遠くなった——ここから…」

、、、、、、、、、、、、、、、、、、

誰もが背を向けたことに、

、、、、、、、、、、、、、、、、、、

僕が付き合う義務なんて本当はない——

ねえ、ひとりになって、孤独になって…

泣いて、怒って、

…得たものって何だい？

取るに足らない詩人たちの笑い声かい

結局何もしない大衆の無知でゲスな、

褒め言葉かい？…

——たくさん…僕は失くした…

それなのに 目をあけない

消えてなんかいない 足 手

…そそがれて来る うすやみ

(この街に この道に)

窓が焰の色で燃え・・

倦怠を感じる

冷たくなって動かない耳は

閉ざされて開かない瞼のようだったけど・・

それでも、いま、神の鼓動を感じる・・

愛することに疲れた時・・

誰かを信じることに疲れてしまった時――

――古ぼけた・・家を思い出すよ・・

いらない――よ・・

君も、君も、そこにいる君も、そうして、

自分から何も始めようとしない君も――

、、、、
ああ、けれど

、、、、、、、、、、、、、、、、、、
太陽の純真さに呆れて――る・・

もう永いこと 祈っている

白く染める あなたの罪――

灰の上を匍い廻っている

死の気配だ…

ひっそりと戸を閉めつづけている無気味さ…

スタンダードジャズに

イージーリスニング…

…僕が聞きたかった音楽は

腹の底にあたった ごつごつ岩

背びれにあたる――銀色の光…

蝶の飛びたわむれている

午後の日ざしの終わり

――小さな子供のための場所…

そして また ぼくを かくした

そそがれて来る うすやみ

虫の音が昂まる――

驟雨が襲って来る
破れた日本の滴りのようなもの…

浮雲たちは知らない

ゆうやけがはじまっているから

(はじまって いる から…)

森の中から

穏やかでない、重苦しい足音――

(はじまって いる から…)

他人の心の奥底をこっそり覗きたいと思う

覗き窓みたいに…夜の街は明るく――

テールランプが幻影のようにたゆたう

心情を…想像する――

(失った時間は戻らない――のに…)

そこで味わったこと…は、

波のように戻ってくる――)

なぜ自分はここにいる？

よろめいては立ち止まる

――頬にあたる風が…

僕の涙を……教えるんだ――

、、、、、、、、
ここからそう遠くない
、、、、、、、、

けれど、もう戻れない

――でも、振り返ったりはしない…

火から散らばる灰

空虚なまっ暗闇

――埃を抜けて歩くメインストリート

うまく みつけられなかった ものは

うまく こたえられなかった もの…

凍り付いてる…大きなキャビネット、テレビ、

テーブル、照明――

あれから どれくらいの時間が 流れただろう…

間抜けで みじめな 気持ちだ――

触れると高い澄んだ音色がする 水音は…

あの一匹の魚は

砂絵のような深海に？…

いや…違う…

言葉はもう海を離れてしまった――

そしてそのことが…

多分詩における真実なんだ…

生きていくことは容易いことじゃない

——一人に抗議するともなれば殊更だ

まして全体の流れを変えようとすれば

おそろしいほどの結果が待ち受けてる

…僕は、人の弱さを知り尽くしてるんだよ

そうでなければ、人に強く言うことなんて出来るだろうか

特に——本来は、保守的な僕…

(でも栄光は、信念で作りに上げるもの

——嘘から始めるべきじゃない

…真実が人を強くする——んだ、一歩ずつ、

僕はかがやかしい道へと歩き続けている——)

…僕はそれほどに戦った

それほどに、僕は——前へと進んだ…

息切れしても休めず

人の顔は、どんどん無表情に近づく

日まで、暮れて来て、

何だか迷路を歩いているような気がする

…そうこうしている内に、気遅れする、

歩くから、一一長引くんだ…

わかっていることは一一人の墮落だけだ…

「多くの人の真実らしいその嘘を、

真実と思わねばならぬ、嘘…」

…優秀な僕等に

グレー/ダーク

捻じまがっているかのように…
めくるたびに右に左に揺れ動く一一

、 、 、 、 、 、 、 、 、
雲ひとつない大空へ

…大空では

一一白い雪と

…白い花

常にそこに、

いつも優しい誰かを持っている――…

砂時計の…砂が落ちる……

蝉の抜け殻が…蟻に運ばれてゆく……

歩けなくなった瞬間――

猜疑心でいっばいだ…

人って、救いを求めるよりも

諦める方が簡単だって言う――

そんな時に人は、風の中に氷があると気付く…

この雑沓は、

――せつな…くて…

遅れ――る…

何かに逆らってまでするようなことかい？…と、

幸せ、悲しみ…を、ふるい落としながら――

（ねえ、長く険しい人生が、

狡い大人たちを増やしていき――

君の笑顔や、君の夢や、

君の人生まで汚して――しまう…)

ねえ、鳥…

もう一度、

もう一度――だけ…

この僕を導いて――くれ…

、、、、、、、、
世間話を耳にして
、、、、、、、、
いろんなことがわかる

どこの誰が駄目で、どこのどういう人が腐っていて、

どこのどういう考え方が――という風が続くけど…

…今日はそれでもいい

逃げない心が

笑顔や涙をかがやかせていく

――真っ直ぐな言葉も…

雪の破片に混じって

嘘が咲き乱れながら散ることの潔さに輝く

こんな真っ黒な世界の…太陽は、

未知の記憶とともに

ひどく乱れた

時の渦巻・・

無口になりながら、いつか――と思った・・

陽が当たる時が来るかも知れない

ちょっと面倒なことをしすぎてるんだ

、、、、、、
誰が一体一番傷付いていると思うんだい？・・

ねえ、ネットの詩人かい？

誰だい――ねえ、誰なんだい・・

傷付かないふりをするのが

――巧くなったことを・・知る・・僕のように、

君が傷付かないようなことで、

どうして僕が傷付かなきゃいけないんだ・・い？・・

（愛や夢や希望が

励まして――くれた、と思いながら、

自分が選んでいた時代を

忘れ——て…

君たちは生きてしまう…から——

僕は君たちに人の強さを教える)

人はよわいものだよ、

何が正しいかわかっていたって、

それを選べずに黙っている愚か者だよ——

分かり合える…かい…

ねえそれでも感じ合えると言えるかい、

ことばの嘘や、

誰かの奇跡を繰返す臆病な君よ…

話せないんじゃないくて

心に鍵をかけられてるんだよ、

君が気づかない限り、抜けだせ——ない…

この、悪夢を終わらせてよ、

明日を始めてよ、平和と争いのない国へ——と…

いま、君が君なしに続く世界の始まりを

終わらせるんだ、

君は認めるんだよ——始めるんだよ…

本当の勇気で、この世界を変えるんだ…

何処にも行くことはできないよ、

それでも歩き続けなければならないよ

——愛する人を見つけて…おくれ…

本当に優しくなるために、

この過ちを、二度と繰り返さないために、

…きっと、いつか、

僕の言っていることがわかる——

——可能性はそんな小さなものじゃない…

風よ、だからいまは、

魂が軋むほど霊的な流れをこすりあわせてくれ——

…この魂、もっと強くさせてくれ——

——ほら…夜が明ける

鳥よ…

——見知らぬ鳥よ…

人にもし翼があったら、もし、言葉が…

美しい羽根のようであった——なら…

…人は何を探して生きていただろう？

——人は…人は…

鳥は——何事もなかったかのように飛び去ってゆき…

僕は、ちゃぽん、と一匹の魚に戻る——…

まるでそこには何者もいなかったかのように——しずかな…

沈黙だけが、この世の空虚しさを語って——いる…

「ここは…何処？…」

かすかな…それも、かおりのようにほのかな——

はっきりしない——ほたるのようなこえが…

何千年も…きこえている——

名を持たないものが…みじかいひびきのなかに…

完全な夜を作った——愛のように…くちづけのように…

ほしの——またたきのように…

この赤ちゃんはかわいらしいね！

その電球は本当に明るいなあ…

——そんなことしないで、早く歩きなさい…

ねえ、一緒に映画に行こう

にぎやかな所とにぎやかな所の間の、ちょっとさびれている所。

いっしょに行こう、いいじゃないかい。

椅子を持っていくから二人の座席の隙間に入れて、

座れよ。…自分があなたに何かを与えるような意味らしい——

子はかすがい、——いやそれは違うよ、

いいや、違わない…違わない——さ…

ただの一度も、挨拶さえ交わしたこともない。

でも、仲良く座って話していたものさ、天使…

そこでは水を常態と考えて、

それから氷に変化して行く過程に名づけた家庭があったけど、

話がともすれば理屈に合わなくなるのは、男女。

するとそのつじつまを合わせるために、

いかにも、もっともらしい説明を加えたがる。

それがこの人達の特徴——…

愛し合っていたのさ、

愛し合っていた——見える山と見えない山との中間に・・

隣人・となり——・・

円盤・だから……

トビウオ達が喫煙する——スクランブルエッグが、

おぼろに、抽象的降灰・業に長けたものにする・

——バスルームは素敵で、魅力的な罰金・

香ぐわしい瀕死の唇が——『蜜』と『紅』を充電する・

エメラルド

シルエット

……鮮緑色の水底の恐怖の影

薄型テレビが・固体でも、流体でもな——い瞳に宿る、

(ひきあげねば・) と、聞こえる——

わからないのだ——

はだか

誰もが一度は《裸体》になっていると思いきみ——

高貴な——塩の柱・否、大理石のまま動けない……

軍隊帽に、ネクタイピンに、ミステリイ小説・

(おちているのだ・) と、聞こえる——

風になびく、白い頭——

後ろを向けば——美をなす塗料を絶望的に必要とする・

……無線LANという・斑状の————あかぎれ、

黄褐色の靴墨、奇妙な荒涼とした・莓ママレード——

雑踏で聞いた、冒険がひそんでいるに違いない——

————わかりにくい口跡

いまや無意識のうちに眠りながら解き放たれた…水—

因習という柵状態の牢屋で…欲の深い猿を見る…

「でも彼は、頭蓋に根付いたベースドラムを聞いている…

—だから、足下の水溜まりの水を飲んで…る…」

愚行という名の歓楽の誘惑…角を生やす、感情の余韻…

イメージ

誰もが一度は《映像》になっていると思いきみ—…

熱い衝動を—虚無の球体さながらの…幻影…

(うつろいよりも…)と、聞こえる—…

(うつろいよりも…ゆっくりと—…)

—深い闇が放つ、何かが動く気配…

……かるたあそびか？…一枚の<運命>のcard…

空気中のstrip-slip…すでに僕をくつろがせ、よろこばせる—

…あんなに遠くにいつてしまった、硝子の陳列箱—

「何が入っていたのだろう？」と—問えば…

神秘的な、危険な—変化…

機械を動かす時に聞こえた歯車の軋る音…美をなす太陽の音…

閉所恐怖が一日続くような衣装店のショーウィンドーは、

三十秒ごとに、耳障りな言葉を発する—…

謎を解く知恵も、熱意にも欠けながら…

—婦人装身具店…

バネやギアの音・スケートを履いた建築現場を經由して――

かがりび

誰もが一度は《篝火》になっていると思いきみ――

肖像画を燃やし――苦悶の恐怖の叫び・画廊・

・・・親不知を抜かれた記憶がよみがへる歯医者者の看板の電光文字・・・

完全に眠ってから目覚めた寒い冬の日の朝食・

し

音もなく、滲みでる――冷たい風・

火傷した放蕩息子・踏切前のきれいな足に見惚れる糸車――

劇場の隣では、相変わらずの壊れたフィッシング・

マップに載った簡単な朝のプログラム・燃やそ――う・

(ひきあげねば・・・) と、聞こえる――

わからないのだ――

停まる――『多様性』と・・・『有限』・・・

――セールスマンは、街角で、冷淡で、軽蔑な視線・・・

おもいで

誰もが一度は《宝石》になっていると思いきみ――

断末魔の呼気――とかく、吸気・・・とかく、夜狂ったアルコール・・・

古い男は思い出す――悪い自分の町・・・

古い男は思い出す――悪い自分の町・・・

夏もそろそろ終わりに近づいている。

ちかづ...いてい...るとい...うこと...はおわ...るのだ...

終わるのじゃあ～

終わるのじゃあ～

<そしてトイレで、水を流して、

ウォシュレットなのじゃあ！..>

でも..no!no!girl..

もっぱらわたしは家でごろごろしている。

—ごろごろ、と、ころころ。

—たまに、よみよみ。

じゃあ、私もそろそろ寝ようかな。

寝るぜ—BL読みながら！..

いけね、そうじゃなかった、十代のあたし！

あれ、でも..そろそろ夕食じゃないの？

日は暮れるのじゃあ～

日は暮れるのじゃあ～

ララララララ…ララララララ…

ララララララ…ララララララ…

少し前まで、わたしは疲れていたのだ。

骨折していた。…ウンウン、嘘です。

(でも、あなたの手のぬくもりを知らなかったし、…

なんというか、これで、ようやくあたしも、

ひとで、を握らなくて済んだ。ひとで、こわい。

なまこ、こわかわ)

少女だったし、なにしろ、少女だった…

お腹が減れば、真っ白なメスイヌになる。

わんわん…うわうおお～ん、
はっはっは！――

収集する音、洗濯機の音、」

包丁とまな板の音…」

ルルルルルル…ルルルルルル…

ルルルルルル…ルルルルルル…

お日さま、それで、これから彼氏とデートに行くわ。

電車に乗って、あたしもめかしこんで、…

「あれ、どこのきれいなお嬢さん…」

というのを期待している——グレイトサンキューなあたし…

でも彼が言うには、詐欺——…

オレオレですか？ オレオレですかあああ！

——ひとつだけ言えるのは、

フィッシングサイトに気をつける。

愛するって素敵ね…狂気と混乱、摩擦に重圧に責任、…

あまり頑固にいと、本当の幸せを逃してしまうわ——

世界は美しいし、快晴だし、夏だし、しかも海！…

コンドームも持ったし、バイブも持ったし、

勝負パンツもいれたし、そうそう、忘れてた…

まむしドリンク…

ララララララ…ララララララ…

ララララララ…ララララララ…

恋心燃やすような夕陽浴びながら、観覧車。

「すてき…デス」

デス、とか言っても、真夜中はデスメタル、によほほ…

おっと、混線しましたデス。ただいま、おかけになった電話は、

使われておりませんデス。…

でも、暑くて、だらだら汗をかいて、ちょっと恥ずかしい。

だって不自然な感覚で、今日の夜があるわけじゃない。

でも、愛が結ばれてゆく喜びはこういう時から始まるのね。

…ああん、いきなりはやめて。

と、考えていたら、彼、いきなり胸揉んできた。

おどりゃあ…ゴブツ、——といきそうだったけど、

はじらいながら、キス。

ルルルルルル…ルルルルルル…

ルルルルルル…ルルルルルル…

、、、、、、
欠いている外耳

拍車を掛けるように

悪態をつく ボディ…

気まぐれなモーターで

ときどき動くが

ときどき動かない

巻いている包帯
藍色という色

メロンをスクープで

くくり抜く…

—色美しくはなやかに咲く

誓う少年という心

さてどうだろう？

のどがからからだ

のどがからからだ

—目に見える色にもかかわらず

…かなり—寒かった

おととと！

おととと！

どうぞお先へ。

え、何がおかしい？

郵便受け函、冷えたビール…
おまわりさん！

メロンをスクープで

くくり抜く…

——前置き抜きで 左ききの

…君がいないと心細い

気まぐれなモーターで

ときどき動くが

ときどき動かない

でも——おいで…

孔のあいた石 悪意ある企て

魔法のつえ 震えた筆跡

羊を数える——

、 、 、 、 、

羊を数える――

ピーピーピー…

ガツン。上部のスイッチを抑え込み、

すかさず、右についていやがるアラームボタンを切る。うり。

「お、朝だな」

朝目覚めると、まず、牛乳を飲む。

年増いきかけのあえて言わせろ中年女しかし美化では、

花の三十代アラサーというとヨサコイ祭りと何故かいいたくなる。

そして好きなオスを見つけて狩りをする？…

どっこらせ、と起き、どんぶらこで布団を畳む。

近頃では、いちご割り、コーヒー割り、

バナナ割り、という手法で飲んだりする。

野菜ジュース、高ああ～いいっ！

「全自動彼氏ロボットとかSONY売り出さないかな…」

我々なんてそんなものだ。ゆとり教育、イジメ、…

そんなもの、全部SF作家に考えさせておけばいいのだ。

結婚も法律のことであるし、子供すら、やればできる。

人生論とか、世間における個人こそが私だとか、

あるいは宗教とか、生活における意識の革命だとか、

何とか言いつつ、ある種の皮肉や警句に、

せせら笑う。あるいはそういうものを、

暴力をふるう意志くらいにしか思っていない。

おいおい、いつまで運動会の騎馬戦？..

「元々、人生なんていうのはつまらないものなんだ。」

三十うんねん生きて、

結婚して家庭円満なフレンドもいるけど、子育てに追われて、

すぐオバサンだぞ。顔見て、やつれたなあ~と思う。

中には、バツイチ、バツ二もいる。

まあ、人生自由にチョイスってことか。

..まあ、ひどい話、借金して首がまわらない同級生もいる。

社長になった後輩もいる。でもそれは、その人の考えで、

私に必要なものではない。必要だと言うのは、もっと別のことで、

二十代はよく何かに乗かって考えているパターンが多かった。

余裕がでてくる。周囲が見えてくる。分相応分不相応、それだけだ。

人生にふくらみと変化は必要だけど、

一一素敵な後輩がいきなり口説いてくるなんていう、

美味しい話は一一絶対がない..

でも確実に、恋愛をすれば、ダメージが大きく、でも確実に、

十代や二十代より濃密であり、

あれやってあげようこれやってあげよう、が出てくる。

でも一一時には、それをしないというポーズもとったりする。

..口説けば、あるいは、そういう態度をとれば、

さりげなく、若い子たちに、年寄りの冷や水といわれる。

運命の出会いは無理なので、結婚相談所。..じゃなきゃ友達飲み会。

少し前まで、年収1000万とか、イケメンじゃなきゃとか、

馬鹿なことを言っていたけれど、それもやめた。

とー一いうより、言った方が少し可愛いかな~と思うのだな、ウン。

やっぱり我々はまず、神にならなくてはいけない。

焦点が散漫で、ぼやけてしまうと、隣の庭は美しく見える。

占いやって、よくわからね~とか言っても困るのだな、ウン。

ざけんな、人気占い師今度いかせてください。

「そんなわけで、ゼリー食うよ。」

ゼリー食いながら、この前、食べ忘れていたプリン食う。

これ、現実だ。年増のゼリー。年増のプリン。

..段々いじきたなくなる。でもこれでも、まだ大分マシな方だ。

昔なんか、色んなことに腹を立てて、

毎日朝からドンブリ飯でガツガツ食べてやったドスコイ。

..自虐的な女。

友達と休日の朝ッパから鍋。グツグツやりながら、

昔のドラマ観て、あー、とか、うー、とかやってた。

楽しいけど、どっかさみしい。

ー一でも、別に鬱にもならない。

花は好きだし、たまに買う。喫茶店も行く。好きな喫茶店なら、

二時間は入れる。買物だって、

高価なものばかり買ってもしようがない。

――かといって、貯金ばかりするのもあれだけど・・

でも人生なんてそんなものじゃないか、

どこからアラブの王様が降ってくるのだ。

いつ、バスをハイジャックしてわたしを、

ミステリーの世界に連れていってくれるのだ。

・・・でも、ずいぶんと長い間、自分と付き合ってきて、

ふっと思うことがある。

いや、ひるがえって考えてみる、ということがある。

お金を沢山持っている人はいるけれど、

それが絶対になくならないという保証を持つてる人はいない。

政治が悪いという人はいるけど、

別の政治で満足できるという保証もそこにはない。

だからただ、人から聞いた話を個人個人で解釈しているけど、

――存外、それ以上の何かを欲しがってるのは、

その人の愚痴や言い訳や、フラストレーションの類だったりする。

「人間って、つまらないものだなあ」

チン、と電子レンジでパンが焼ける。

朝からパンを焼いて、食べる。マーガリンに、ジャム。

これが素敵な朝だ。

よく働き、あんまり無理せず、欲張らず楽しみ、生きる。

それでもやっぱり、誰かが何かをバシッと、

変えてくれるんじゃないかってことに、期待してる――。

ライン川

川には、朝

山から吹いてくる風がある――

(耳に・・季節の風・・)

(さあ――春の産卵・・)

ふかい鬩りのなかに、膨大な湿り髪・・

水の渦が幾度となくうまれ――

(夥しく・・金色に光る言の葉・・)

(ふさふさと、蓬のように――)

ドイツ人は・・この川を「父なる川」と呼んでいる。・・
ひとり行き、またひとり過去のように去ってゆく――
すれ違いざま、淋しくて行く当てのない声が聞こえる・・

虚ろにはてしなく木魂した

ヴァイオリンに

身もとろけ

――川面に不安な影が投影り・・便りのなかった雪の手紙・・

・・・いよいよ僕を嫌うかのように、ああそしてまた――表情を隠すように・・

それは見えざる手

《ハイネの？..》それとも——名も知らぬ詩人の？..

まだ鍬を振るいそし..み——勤しみ..

「ロマンティック・ライン」と呼ばれる、
川辺。丘陵に溪谷。ぶどう畑。ネコ城、
ネズミ城。——中世の香り..ローレライ。

、、、
鉄と石に

煙ってくる

煙って 来る..

((汗にまみれた苦しい姿))

生のまだ覚めやらぬ..あおい朧ろ気な..

燃焼の反転..咽喉にぶつかる剃刀..

膚に燃える槌、

——「誰かが息を切らして駆けつける..」

.....口付けそれ自体が、絵のように..

土の色——。

ライノタイプ

——冷酷な鋳込植字機..通風孔..

...呼び鈴、あるいは瓶詰の苺——あるいはシャンパン色の優雅な会話..

黙せよ——

あらゆる大気をうけて…

(我々は、乾葡萄のようなもの…)

(率直に、青空の朽ちたようなもの——)

肉瘤ある…

脈々とした山から——

たくみ

(名匠の小声が…臆面もなく常套手段を…)

(あるいは、内側の空洞を——)

川下りの遊覧船では、
ワインの試飲会がおこなわれ、——ローレライは一瞬で過ぎる。
そして玩具のように水は、声の美し——い…白鳥…

丸太が積まれている

背後の記憶の

杭に

((フクロウの鳴き声))

ふかで

——これら数々の傷痕…うつくしい毛並みの下の深傷…

…中州には木々が生え、心労を忘れたよう…な——涼しさ…

「でも僕が気になるのは…どうして案内人は——

あんなに町並みを…可愛らしいと言いたがるのだろう…」

グレーの楽器がささやく、…日ごとに形を崩しながら——

トランペット・・風が弱まる [広範な喚起力によって・・]

低い灰色の群れに――チャコールの腕・・グリーン顔・・

オレンジがかぶさってゆく――（不透明水彩絵具・・）

この一人の哀愁・・内側に帆を張ろうとする、中指・・

人びとよ、この一人の石段を知っているか・・

郷愁に染まった、顔・・魚の眼と、ひきずるような足――

――流れてゆく・・得体の知れない感情・・

偉大なラインの

ドラムスは

人を遠ざけて

剃刀

――海の不安のために彼らが呼ぶ、忘却の胎児・・

・・揺れる質量は紙くずや枯れ葉となる・・

彼らの熱心な顔――いかんともしがたい、暗喩

うつむき、つぶやいた、

[それぞれが・・茹でている・・]

目覚まし時計

（時間・・・・・）

（時間ニツイテ考エテイルト・・）

朝の行き来が 係留され

――皮膚は優しい――

流れている

流れ――て……いる……

(リレー競走のバトン……)

(澆刺とした、魔術……)

橋をわたる 僕を跨ぎ

――顛れる――

ただよう 水鳥

[凍る……心象の病……]

結び目は門のように

季節がうつりかわり

赤く錆び

一つのなつかしい言葉をさく――…
のっぴきならぬ退屈さを感じながら、身も心も投げ出したい落胆…
軟体動物のような古代歴史と免疫性の建築家の良心…

「ボート、ボートだ」

バイオリンをケースから取り出して

ほろびは美しい――

と青いインクは

地獄の騒音に焼け尽きる快感と、
古沼のやうな沈澱の底を探りたい霊力を持つ…

ラムネのビンのように

とりいなしたるビー玉…

トルコ ルビイ エメラルド

土耳其石、紅玉、緑柱石…

(やがてそれらは、脱殻となった—)

舟で日照りを運び出し…

つぶつぶ

樹を伐採し—気泡が出てくる…

夜に降った雨で…指先はいやに冷たく…

生育する—弦楽の色は…

—酸っぱい匂いを振りまきながら…

チャコール色の積み荷を運んで行った

電柱の鴉の数を

薄明かりからこぼれてくる火の手を…

それでも魂は月の方へ…

、、、、、、

かぞえていた—真中が凹んだ

床板を映している…菓子の匂いをさせている—

そこに古いバス停の古釘が見え

驕慢なる絶対性への矛盾を明かす記憶作用—

自転車が走る

自、転車が走る…ペダルが

重くなっていた—

軽くなっていた…上着—

((でも栗鼠の縞が濃くなる))

拡がっているTime…遮へざるものもない…
永遠の昆虫感覚—モニタースピーカー…
倚りかかって眼を閉じれば—幼いころ…
二つの目をキラキラと光らせながら、カオティックに、
見た月—僕はここをあきらめて…
帰ろうとする右にゆれては左にもどされ…
あらゆる世代のただならぬ哀愁とやりきれなさ切なさ—
でも後をついてくるしわくちやの泣きがお…メロウに…
月の破片、まつくらな四生を能化する—
プラスチック…ソウル—

冬が来ていた—寒い—ズボンのポケットにあった—

音がない」つぶし合う」吸い合う」

心臓！心臓！心臓！」

まわりの空気という模様…全身のエネルギーを使いきった…

ツエーテケクスドーツエケ

可愛い蜂蜜菓子罐—飛んで行った—

出血は赤、の滴…印象派の描く風景画…
この花束とりボン、…スパッと切り取られるメランコリック…
悪魔を憐れむ鐘の音— ウォーターフロント …

あわてて—自分勝手にワガママなくせに…

皺をのばす…残響…夜の迎撃—

通りかかる人は重厚な枠縁に…腐る、波…

もぎ取られる羽根——君は風をもてあそぶ…

気がかりなメトオノオム…ドア・クロオオズ——

何日もかけて道は——岩の固さに逆らって…いた…

何もかもが静まり返って…ときどき崩れ落ちた——

人の声や車の音は——遠のいていった——暗闇に——
少しずつ…模型セットにとどまる…恋や妄想に演奏されながら…
ゆっくりと——裸電球の太陽——安易なバイオリンスカーヴ…

鶯が鳴いていた…山々が裸に削られ——

谷川の水は——排水溝の暗闇にしずんだ

((狭い畑で 独楽のように回る 僕のフォト))

工事が続いている——砂嚢を積み——

公園…[ロングから、クローズアップへ。]

そしてもう一本——突如いれかわる 蝋燭へ…

やわらかに増している——古い便所が匂う——釘を刺す——

鮎…暴風雨…排水管が漏る…だいぶ昔のトンネルのように…

薄暗い、」暗い、、」それは、黒い」

喰らい」昏い」冥い」

、、、
鉄と石に

煙ってくる

煙って 来る・・

((汗にまみれた苦しい姿))

壁に書かれた！ 《奴隷》という文字――

画用紙の上に・・波紋する・・絵筆落としてしまった・・

夏の視界――誰か死んだのかい？・・焦げた 草の匂い・・

が、いまも、するぜ――。

が、いまも、するぜ――。

((暗闇よりももっと深い闇が映っている 記憶))

蛍は――堰きとめられ――速度をおとし――

押し寄せていたのはひまわり・・鶴鴿のいる場所（に、）・・

鮎は――もう誰にも――悟られないまま――

時間の継ぎ目から・・花片が散った――

秋が来た――あたらしい花が・・

さざ波の立っている川の中、

自分自身をさわがしく言い募りながら――

咲いていた――蝶のとおっている――見えない毛細血管の

秋の空気を吸いながら・・あぜ道・・電柱・・鉄塔・・

を透かして――

を透かして――

泡がうまれ空気が砂底にうつり――

自分がいる淵は背びれのように乾いていく・・

...汚泥の中に食い、飲み、又溺れる...

...オボレル...

...オボレ...

近寄った薄、狐のように――夏の影が山の向うにかくれる――

紅葉、季節はずれの花火のにおい・・ドラム缶の、焚火・・

((墓地の、壁の、蕭然たるからっぽ、心性の聖衣))

どこまでも――濁ったような――影が続いている――

野生は・・飼われている・・それでも・・目を凝らしている・・

ふたつの景色の間に――そこから抜け出すように――

沈みかけた・・蟻地獄・・覆水盆・・睫毛の影・・

赤い肌が、いまはもう「嘘」の――脱皮・・

全身を――藍色に染める・・芸術・・

消えた光を探して――ふたたび、冬・・

飛行機は雲間に――雲は、霊・・・この凍て付き・・・

この凍てつく声のなかで幾何学は・・・いま残らず切り刻まれ・・・

星へと散らした――抒情詩・・・

((暗く力づける悩みよ！))

星は小さな窓・・・むろん、ずっと後のことだが

小さな窓をいくつも開けて――多くの影がくらい炎のうちに

影から暖炉・・・砂をすくいとれないまま放り出され ...

グラフィックするヴェランダ―ノスタルジィのフレイバアア・・・
風にからまるように毛糸の玉と猫・アンビヴァレントなエンディン――

「色」がある。独特の「匂い」がある。

「色」がある。独特の「匂い」がある。

…………はずである

…………はずである

大人は――その鳴き声の――鋭角の中に――

扉をあけている・・・こわれやすい時間に・・・旅人が冬から春を・・・

歩いてる――足取りを重くして――苗を植える――

踏みこむ」服を脱ぐ」額の汗をぬぐう」

応答しない…応答セヨ、応答セヨ…」

彼の唇が薄い…むらさきの——夜明けへと…

風が水面を揺るとき…世界は深い奥底で——

あたらしい…真綿の悲しみをくれる——

ライン川は流れる——フランツ…リスト…

クララ……シューマン…

流れる——甘やかな愁いを含みながら——

過去の夢、あるいは不安な夢の懷疑

フランクフルトの旧市街地。

69万人を超えるヘッセン州最大の都市。

心を落ち着けても、僕は道化だ。

あらはだ ちょうつがい

粗肌の蝶番。

ネクタイの結び目のように、

僕等は赤くなったり、青くなったりする。

「百まで数えよう…」

(ケネン・ズィー・ヴェクセルン)

、、、、、、、、

傾斜はなかなか急だ、――ゲーテハウスがある。

「僕は、若きウェルテルの悩みを十二歳、…いや十一歳の時に読んで以来、

それ以後、彼の詩やアフォリズム、彼の研究の類を読んできたけれど…

誰もが思うとおり、彼はただの好色で、――」

(幻影のように映ったゲーテは、

僧の行列そのものの幻影なのだろう。)

胸郭に充満するにぶい痛み――足に絡まるような、それで…跪くような祈り。

僕はドイツの魂を求めている――現実感のない、観光客という非日常の祝福、

鏡の中の現実を…夢のあとのように、宙に滑らかに浮く日の光を浴びながら、

虚構の時間を過ごした。

(観光客は、サーカスの一座なのだ。血筋、肉体の加速度…

教育的訓練…そして歴史的根拠は空論の痕跡。空回りする、美と真実…)

高校生だか大学生の外国人がいて、何かを読み上げるような声で喋る人がいて、それが湿った土の色のような雰囲気を作り出している。

おぞましい時間という数字。系図や暦。連鎖の環のひとつひとつに、壁画のような町がある。

ゲーテハウスには、ゲーテの自筆原稿や、裕福だった生活が見て取れる。

フーガ

(不思議な遁走曲だ。…)

まひる

日曜日の正午に、誰かが水彩画でソーセージを描いているような気分で、ばらの新鮮な活け造りを思う。

そして…展開は、くしゃくしゃの紙のようにある。

[おお、鈴の重たげな音響よ…]

ねえ…しなやかなドイツの言葉に耳を奪われながら、速やかな消え方をする…

モザイク状の輪郭が、異国情緒の街並みを、幾何学的な模様にしてゆく。

《抜けだせるか?》…と、問えば――

(ほらね…のりくらり…)

リンゴワイン。フランクフルタープレート。

僕はドイツ人がビールをたらふく飲んでいることを考え…

(あの馬はまだ乳を呑んでいたよ。)

「――時のたつのは早いもんだ！」

…スケートを履いて、勇猛な突進！

土地ごとに微妙に味の違うビールを飲み比べしているありさまを想像する。

、、、
馬鹿らしい。

世界ってそうじゃないだろう…でも頹廃は、バスのように動かない。

涙で、まるで気持ちよく溶け去ってしまう歓喜や、絶頂――

それでも火は半ば消えかけている。燃えているものは細々とし、魂は、

ねむくてたまらない。眼がくっつきそうだったし、

頭は下へ下へと引っぱられて、首根っこがとれそうだ…

容易ではない、空も町も人も、猫も犬も、川も溶けあって――…

双眼鏡は女性を見る為の道具に過ぎない。…それは嘘だ、でも、フロイトは、そう言う、

僕等っていまでも十六、七の心持ちでいる。余裕のある表情をしながら、

顎の髭に触れ、充実した単調な毎日に打ちのめされてゆく。それでも僕等は、

どこか遠い所にいた。つい昨日のような気がするのに、

もうお前は帰ってきた。

……拒絶的な…気配…

……拒絶的な…気配…

記憶はほとんど毎日消え失せてゆく…高い雲――

飛行機の視界は、僕にそう教えた。そこで、杭を打つことは出来ない。

――そしてそこで、人間は時間についてめまぐるしく考えることは出来ない。

「どこかに、真鍮の箱がある…ある――と想像してみたんだ…

微笑を浮かべて挨拶をするみたいに――香炉がある…

玻璃がある…そしてそこに僕の心臓がある…」

(そら、犬が吠えるたび…僕等の旅は難航する…)

何処かで行われているミサも、結婚式も、途切れ途切れの異国の言葉も、

舌で触れるたびあやういリズム。漠然とした横暴な海外の意識。

マインハッタンと称される…オフィスビル…

それと対比する、フランクフルト市庁舎…

賑やかで何処か胡散臭い人で溢れたレーマー広場…

まるで手すりがないヴェランダにいるみたいに、無学ではあるが利巧な、子供心、

夕方しめやかに遺骸となれ…

でも、自分を上の方から見下ろしているアイスクリームの世界で、

(レストラン KLAANE SACHSEHAEUSERにエアコンはない)

[宿泊したヴィースバーデン…]

—僕は、フランツ・カフカのことを一頻り考えている…

ああ、残酷い波のように、むご あわ 泡沫よ…

ところで、僕の手元に写真が5枚残っている。

… 1枚目は古い車のハンドル部の写真。

…… 2枚目は、黄色い車と、女性と男性と犬の写真。

……… 3枚目は、白い車。

… 4枚目は白いオートバイに座った男性と、給仕と、

—女性二人がテーブルに着いている写真。

……… 5枚目は、鉄アレイのように見える—動力の写真…。

みんな、ローテンブルグが好きなんだと思う、と言いながら、別のお土産持ってる人

ローテンブルグ旧市街をぐるりと取り囲む市壁――

中世の町並み、

おもちゃの町、看板の町、クリスマスグッズの町・・

一年中クリスマスギフトを提供しているというのは本当だが、

サンタクロースはいない――・・

いやだからいないんですよ、サンタクロースなんて、

わかるでしょ？・・

あなたのお父さんとか、おじさんとか、おじいさんとか、

さもなければ、アルバイトのお兄さんの胡散臭い付け髭とケーキなんだよ。

お金払えば、ウェディングベルだって鳴らしてくれる、

間違っ、ハッピーニューイヤアだって言ってくれる。

うなだれそうな人工天使の堂々めぐり！

死人のように蒼褪めそうな老いた戦士！

ねえ仮にサンタクロールがいても、そいつは偽物というのが相場なんザマス。

おわかりザマスか？・・

クロロール、不思議な響き・・

クロロール、自分を呑み込み、吐いて、棄てる旅の言葉。

12月に現れなければ、たんなる腹出たおっさんのために捧げる言葉。

美化しても、赤い服着てサーフィンしているお爺さん。

あーくだらねえ、このくだらなさを…

どうしてみんな説明しないんだろう？

利口なふりしたローレイの表情を見たかい？

あんなの嘘だよ、機械オルガンがのたうち回る、

泳いだり一息を切らしたり…

ローテンプルグ、俺たちは地図の上でもそれを見つけられない。

世界的に有名だというけど、さっき聞いて、

ぬすつとで、まんとひひで、まじでかいしか、

すぐにそれを忘れそうな不埒な遊動木馬。

ハイデルベルグ。…

ハイデルーべ…

皆、幸福だからだ。

自分の心臓を見たりしないからだ。

濡れた幸福な心臓が、蠅取紙にくっつく！

アメリカのことをとくにわけもなくかんがえる。

ロートレアモンが、軽快なダンスを踊る！

でもたぶんお尻が真っ赤なので、そいつは偽物だ！

(アメリカって、うろこ雲みたい…)

ディズニーランドってこんな感じなのかなあ、

と、どうでもいいことを考えてた。

、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、
レモンシャーベット食べたい。

——夕方、ホテルに到着後…レストランへ。

正直、僕は咽喉が渴いていた。見習い水夫みたいに？

いや、42, 195キロ走ったあとみたいに——は、誇張だな。

でも、にがい煙草みたいに。

自分に見惚れるナルシスみたいに。

あーあ、それだけだ。いや…すっげーすっげー、咽喉が渴いてた。

…スゲノドカワ。

——どこかの部族？

完全マルハダカのね…

ビール飲んだ？

がぶがぶ飲んだ。水と同じ。水のように飲まないけど、

ドミノをまぜっかえせ！とばかり、…ピアノの楽譜に、

音楽教師の人となりの説明するみたいに、

、、、、、、、、
いきってみた！

おどけていた、——背景の嘘…

大体ね、ドイツ観光なんて言ったって、一日で見回る限界ってあるんですよ、

人間は空飛べない。そういう話じゃない？ ノーノー、

あなた、空飛べないくせに、一日の限界見回りができると思っているのか！

頭の中で考えだしたエアロスミスは、オーマイゴッドしかいわない。

マッハで飛んで世界一周する！

でも、ライト兄弟は飛んだ。

でも、飛行機の方がこわいんだよ、ライト兄弟は、改名して、

レフト兄弟になった。

僕は、船で移動したかったもん。船で行こう、ドイツ！

――で、何だっけ？

そうそう、レストランで何か喰った後、..いや、覚えてないよ、

酔いが回ってたしね、

酔いが回るのを、斧でぶった切れたらいいよね、..すばらしいアイデアだ、

ほんの小さな地震も、斧でぶった斬る！

そのせいか、ローテンプルグがブリキの玩具で出来ているんだ、

と信じきっていたよ――居合抜きの人みたいに。

って――嘘だよ、信じちゃダメ。複雑すぎて、..なんだか、

言いたかった。色気づくな、パリジェンヌ！

僕はビール飲んだ。ふらふらになった。

ほわほわして、心にゆうっ、とした。

それから、町を散策して、うにゆうっ、とした。

やたらふわふわしてるしさあ、..噴水のとっぺんで、

空飛ぶカーペットにあたるかあたらないかで座禅してる感じ。

まあ、外敵から町を守る城壁まで行ってさ、

その中を歩いて…

ウッ、一度目の幽体離脱。すぐさまやってくる、ボーイングの離陸。…

ドリル工事、ドリル工事！――

貫通まであと一週間！…

「うん、こんなにつまらないものはどうでもいいから、

早くトイレに行きたい！」

…げんなりしたね。いま多分、読んでる人が当惑してる。

舟は、地球儀をやさしい心で回り続ける！

でも、大丈夫だよ、ヨットクラブは永遠です！

でも実際、トイレ行きたかったんだよ。

なたでここ。なたでここ。

ほらね！…わけもなく、こんぐらがった君の鬘はなたでここ、

レッツゴートイレの歌つくろうか、と思った。

頭の中でトイレの文字がぐるぐる回ったね。

みんな、思い思いに、トイレの儀式をする。

ある人は尾籠な話ですが、といいながら、鼻をつままずに話す、

――ある人は、オウンゴールしても大丈夫さと言う…

ウーン、ぶらんこに乗ってお月さままで飛んでゆきたい！

そしてもちろん、トイレと踊ったのさ、

便器と踊る奴なんていない？ いるさ、ギターと寝る奴いるんだから。

でも、トイレと踊るなんて非常にウンコみたいな話だね。

どうでもいいよ。

そうさ、話している内に社会の窓からこんにちは。

――正直、横になって、早く休息したかった。

でもそれよりも前に、小便したかった。それだけさ。

トイレは開いていた！

ありがとう、男性用トイレは閉まっていた。

すごいで、女性用トイレ……！

ローテンブルグはトイレの町…

女性用トイレの町…

あれ、違ったっけ？

朝にさ、ガイドさんの案内でようこそローテンブルグ。

何故いまごろローテンブルグ。

あれまだ、ローテンブルグなの、…ふりだしにもどる。

ころころ、さいころをふる。

三つ、すすむ――お金持ち！

ぶるる…ぶるる――でも、俺たちは走った！

風を切ってはしった！

はじめて、自由になれた気がした！

おい、ルール違反やめろよ、ふりだしだろ。

でも、ガイドさん、いつも教会とか、どここの博物館がというけど、

中まで見せてくれないのね。

もちろん、中見ていないのに、そのことについて言われても、

たこ焼き、と同じだよ。

喰ってみなきゃわからない。

まずいたこ焼きはマヨネーズからしてまずいよーな気がする。

それであの、なんとか公園に、

花嫁さんがいたな。ウェディング写真の撮影なのかな？

それともモデルさんで、イメージ写真を撮っていたのかな…

どうでもいいな、それ。

うん、どうでもいい。

半木造に、美しい石畳。せせっこましい印象の町で、

のどかで、悪意が少なく、何しろみんながにっこりしてる。

小人棲んでそうな感じ。

いや絶対あそこ、小人すんでるよ。

…あと、忘れるな、くるみ割り人形。

どこにでもいるけどね、

大切なのは、このくるみ割り人形。

そしてもっと大切なのは、

ホテルの向こう側にある、人家なのかな、

やたらと美しい庭。・・

空気きれいだしね、朝一そればかり見てた。

あんなに素敵な庭を見たのは初めてで、

ローテンプルグって素敵な庭がある、と言っても、

生々しいほど脂のった肉！

あと、タバコね。我々タバコ族にとっては、

顔をオーバーコートの襟で隠しきれなくても隠す犯罪者みたいなもの、

ビールやソーセージより必要なのだ魚肉ソーセージ！

そして夜・・

我々は北斗七星を見ていた。

そして、僕はそっと、コブラを想像していた。

アプリコット！

時々さけびたくなる、落書きしてはいけない町だから。

なんだろう、この投げやりさ。

どうだろう、このどうでもよさ。

そういえば夜中、

暴走する車のエンジン音が聞えた。

どこにでもいるんだなあ、・・

まあ、どうでもいい――

基本的に静かだったな、うん、

しず――か…

朝、ネコがいて、樹の下で、土にまみれていたな…

こいつなにやってんだろう、

わからないな――…

でも多分こいつなりに何かをしたかったんだろうな、

そしてそういうのが多分、死にゆく一日の正しい態度なんだろうな、

猫は立ち上がり横切って行った、

僕等はバスに乗る、そしてまた見知らぬ町へゆく…

そして、かりそめの死を満たしにゆく…

あたまが痛いsmile... (で、) すぐに対角...

焦った。(細胞) は——つまりあらかじめ定義された

おとなの...ただならない.....さわざ...

Set timeout...産みたての卵、

あなたと私たちの間——

ことなる...いろで.....ぬられる...

指示操舵...加...算.....

信号分離する集音機器 crazy...

まぶたが...あかく.....ふくらんでいた...

prejudiced thinking (で、) すぐにlonely

凍てつくような血の色を見ると...見ると——

Don't ask about it.

見せてよ！ 白熱シタ君ノセンサトランジスタ

見せてよ！ 白熱シタ君ノセンサトランジスタ

(ガラス板の中で)

…アイスクャンディー …

……とろける太陽 ……

(こちら向きの労働欲)

……長い長い、陽だまり ……

……風が遥か遠くから吹き抜けていく音楽 ……

(あわれむべき機械だって、誰かは言い、

でも僕は、どんな橋からも波音がきこえたらいいよね、

って、そっと囁いて——た…)

…ゴムとバネの関係

[愚劣な、醜悪な]key…sleep 隠れている…

気にならなければいい T. V.

ユレ…てる…Evening came

ホントノキモチバカリトオイ…断面パターン…

つづ…い…てる… (縞模様の免疫反応…)

つづ…い…てる… (増殖の速い…自閉…)

/k,g/、/t,d/、/n/、/h,b/、/p/、/m/

(ゆっくり墜ちてゆく水際は、

空気のなか、汚れた塵となった。)

…………… (二人は思はずハッとした。大きなものに) ……………

…………… (でも、わからずにいた) ……………

(優しさじゃ人は救えない、

愛では人は救えない、

そんなことは小学四年生の僕にだって、

いまの二十七歳の僕にだって、

変わらずに——わかるんだよ…)

……………

……………

ガラス板の中で

……………

……………

頂点の集合であるような、腐ったバター、しおれたレタス…

対処可能な小規模な回路構成を結ばれたくとも…

無条件にHaven't you listened to me?

心配しないで…表面を見ているだけの

ツールパラメーター—空間プロフィール..

名前が思い出せないflower...汚れた 液体

傷害性の蝶番、めぐる道路やパイプ..

停滞した水 継ぎ足した 身体..

すすけた建物は**reset...**

表情をゆがめていく、-----女が恍惚の表情をして、-----

セクスに耽ってる、そしてそれも欲望の正しい在り方なんだと思いつつながら、

でも、欲望に耽っている内に、..(ふと思ったんだ---)

動物に退化する淋しさが、長い間、僕には消えなくなっていた。

.....目を閉じる、アンサンブル.....

.....不幸な、君というアンダンテ.....

毎日誰かが嘘をついてる、そして毎日誰かが笑ってる、

毎日、美化修飾をしてる、毎日、そうならないように努力してる---

顔が嫌いだ。その声が汚い。削られてゆく僕の命は、愛を歌っている。

文明は眠らないし、都市は生きることをやめない。

そして君が暮らしてゆくことを否定できない僕がいる限り、

あらゆるものは混沌の中で、調和と一致と、

しかしやはり混沌の中で、不調和と不一致を生むだろう。

.....発熱する重力.....

.....目を閉じてゆく、雨の流れた燃える都.....

(—reversible)

点々の入ったアニマル柄Tシャツじゃなきゃーイヤ…

目の前で私はくもりー

さかしまなcheap…こわれそうな舌の夢

裁いて[種]と騒々しい花はfly…露光時間…

(終わらないほどの孤独の中で、

いつか柱は無音の小気味となったろう、)

…………春にまつわる不幸な感情 ……………

…………枝と枝の間から白い絹糸 ……………

(時間だけが流れてる、

遠い目をしてる僕は、

まだ何かの夢を見てる、

でも、色んな事が話せなくなった)

………… (繰返される、悲劇) ……………

………… (でも、きっと君は死ぬだけ) ……………

(話せないことは辛いかな？

違う、話せないより辛いことがあるかも知れないと、

そう思える自分が辛い――

人が思い込みで生きていることもわかるし、

人が嘘をつかねばならぬことも知ってる。

守らねばならぬものに矛盾することなんてしょつ中さ、

そして愛だって憎しみの中で、

いつか、本当の人生の意味に気付く――)

.....

.....

ガラス板の中で

.....

.....

星

我々は、星の光、星の光で作られているように…

華やかな服を着ていた、

でも上着を脱いで、バツと空に放り投げた…

素晴らしいチューン！…

最高の夜だった、——な…

永遠に、流れと一緒に行く

肉と骨…

向かい風に吹かれて、俺は吹き飛ばされそうなシャツを、

ぐるぐる、回してやった——んだ…タオルみたいに、

そしてタオルを鞭のようにしならせて、バツと、

雲にかえて、奴は逃れてった——魚…

、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、
むやみに教育を受けた自分を恥じる…

子供がそっちを見上げて叫んでる

色つやのいい顔色（で、）…

歯切れのいい発音——（僕は、）

上の空で、1990年の日本、

（を、）思いだしてたんだ…

「非常に窮屈になるぞ！」

っていう、夜の種子を呑み込んで、

女たちとなまめかしい変な味のキス（して、）

だらだらだった汗、馬鹿な僕等の身体も、

いつか、素直になっ—て…

月並みなすべて地図に変える…

イエイエー ビートルズが聴こえる…

（スタイルがいい、）

弾んでゆく音楽を聴きながら花開いた僕の世界は、

行けるところまで行くってことを考えて—た…

飛んでゆく風船は、身を委ねてるだけ…

身を任せて—世界の果てまで…行くのさ！…

大きく手を広げて、俺は世界を受け容れて—た…

風よりも速く、落ち葉がつくられるよりも早く…

不可能な夢も、孤独も絶望も…金のルールも、人びとの嘘も…

受け容れて、会ったことのない誰かを知っているように僕は、

両手を握りしめて、力瘤を作った—

そしてダンベルを持ち上げるような仕草…

でも、急に振り返ると、君が…ぎよっとする—そうさ…

たくさんの人達が、ヨットクラブと化した…

すべては、タッチされて行く！

あなたは溺れている、

あなたは溺れている……

くらげ達、と俺が言うと、クラゲー、と言った――

違う、目的を見失ってるだけだ、と俺はそいつの顔を指差す、

おどけてる場合じゃない、

いいかい、と人差し指を曲げて、二回、頭を叩く、考えろ、

タイプライター、ヒューマン・コンピューター！

僕は、都市を案内した高層ビルの屋上……

いや、都市の最高の芸術品！

さあ来てくれ、交通信号灯が今じゃホタルイカみたいに見えるぜ――

でも、長い迷い道だったね――

そしてこれからも続くって――いう……

（そいつはいい考えだね、）と励ます奴はいない……

……小さな蝶が、蛹から羽根を広げる瞬間（が、）

一番、無防備な瞬間であるみたいに、

僕もその時、よくわからない表情をしてたのかな……

「現状に満足する皮相さ、スポイル、

偽善的モラルをもった市民社会…

願いが叶いますようにという欺瞞、

その前に行動しろ！…てめえは一体何をやったんだ、

自分のつまんねえ人生に恥を知れ糞馬鹿野郎！」

（電光石火な物言いで、たくさんの人を傷つけてきたが、

いまじゃ、もうモノクロに見える。

ヘリコプターから、夜の街を見て、

超高層ビルの最上階で、この世界を手に入れてやる、

と思っていた僕は、信じるものすべての光だったんだ、)

……ポケットに入れていた、

蝶の写真、蟬の抜け殻を思い出さなかった、

そこに新しいナイフと、新しい拳銃を入れて、

「こんな汚れた世界で、

這いあがらなくちゃいけないんだ…」

（挑戦的に真実を暴露する言葉、

たくさんの夜を呑み込んで覚醒した感性…

が、心の中に響きだす、朝——)

人差し指で、ワン

中指で、トゥーさ…

こわかったことや、くじけそうなこと思い出しながら、

見下ろせよ…この砲弾を受けそこねたような繁華街。

キラキラしてる、可能性があるだけの手探りの海を…

ねえ、痛くないかい？…胸に手をあて、ここで――と言った…

俺は人差し指と中指を胸の谷間に落としてゆく…十字架みたいに、

ねえ、ここで、あなたはあなたの人生を過ごす！

カラフルな人生の夢を見てるかい！

カウボーイになるのもいいし、清掃作業員するのもいい！

パンツを洗っている時間なんてあるかい…

僕等が見つけなきゃいけないのは、記憶の大容量システムさ…

そしてやって来た――

2000年代…

見るものすべてが、心に触れる、

ありえない魔法を作りだそうとしていた…

そこでたくさんの神話が生まれた――し…

芯が折れるシャープペンシルみたいに、

たくさんの深い傷を自らも負い、

より一層切なく募っていく深みで、

僕の音楽は、沈黙状態になり、

不協和音都市を表現し始めて…いた…

「少しでも早い方がいい！」

(いろんなことは、変わるものだし、

それを、口先で言うなら馬鹿だ。でも、

いまこの瞬間から、変わってゆくのが、

情熱だと思う——)

じっとしていれば、死ぬような不安を感じながら、

心の中の痛みを誤魔化し続けた僕が、

たくさんの別れや、手を伸ばすことのできないものに、

極限にまで押し上げられ、背を押され——僕の感性を作り上げた、

それは夜と共にあり、

それは夜と共に僕の月を昇らせた…

「逆さまな世界で、生きていく術を考えていた」

(自由は何処にある？ 愛は…

不器用で欠点だらけだった自分が、

灰色の濃い色合いの、

はっきりしない言い回しを得意としたのは、

妙な符号だろうか？…)

クレイジーに話している間に街並みが移動する、アップダウン…

ほら、隆起するホバークラフト！

僕は指で作った銃を、眼をつむって――撃ってやった…

そこに天国まで続く階段があるから、全力疾走！さ…

透明な血が流れて出来た水溜まりを、

俺は踏みならしてリズムを作った…鳴らせよ――

チャートインした俺たちのフラッシュバック・エコー。

腰に手をあて、首をかしげてがら、ウンウン、さ…

そして手首に手錠でもあるみたいに、そいつの前に差し出す…

女の子、いいかい、浮気な男に傷付いたりしちゃ駄目だぜ！

オーマイゴッド！

いいかい、と言いながら、僕は手を天に向ける…ルーレットが回る、

ねえ、これは最高の夜だって…君が忘れてはいけないだろう…

そのヒップ、最高にイカしてる…

ブン、腕を振る、

今晚どうって、誘いたくなる…と言いながらね、

でも、――誘わない…ロマンスより、

素敵なハートが欲しいのさ…

後はみんな、忘れてしまったけど、

いまでも、

自分はどうしてもここにいるべきではない、

と夜の公園で、金や、人のどうしようもなさを、

思ってる時だけは、そうじゃない、とってたた..

(いいかげんな噂に、

唇を噛むようにして俯いていたこともある。)

ほとんど身一つで、牛のよだれのように、

思えば、だらだらと一番無駄な時間を過ごしてた、

美術館という廃墟..図書館という廃墟、

市役所という廃墟一一

「いいかげんな受け売り話、

かわいい子ぶる人..黒い色と白い色...」

(やる気がねえんだったら、さっさと死ねや)

僕は、いつも僕にってたた一一

どんな詩を書く時だって、人間の嫌な部分や汚い部分は、

常に自分に向けられる、そしてそれを吐き出す時は、

いい格好をして見せる必要はない、

相手だって、単調な毎日なんだ、

嘘ついて、誤魔化して、平気なふりして生きてんだ、

金があったって、自由があったって、

ままならないんだ――

(ぜいぜいいう呼吸音・頭の回転というより、

なんか、もう人間的におかしい生活を繰り返しながら、

僕はたくさんのものに引導を渡した――)

怪物を退治に来た決死隊？

それならまだドンキホーテになれる、

生涯微笑ましい記憶となる・・

「でも通行止めで、デッキチェアが、

ギブスのように揺れてたあの庭に、

誰かが空き缶を投げ入れている・・」

窓を開けると、チッ、と舌打ちする、

そしてゴルフクラブをぶんぶんやりだす、

こんな変な朝の光景――

消しゴムを借りてもいい？・・

たくさんのおかしい想いを味わったのもその時だ、

そしていま、僕は、

たくさんの人達の責任追及をしてる、

そして社会の中のルールを批判してる――

ねえ、トレモロ・・ああ、ヘッドフォン・ウェーブ！

身体を左右にゆすれよ、セクシーな腰の振り方を教えてやろうか、

毎日、練習してるんだ――

本当に大切なことは、モテることじゃないぜ、お金じゃないぜ、

友達に信用されることとか、恋人に愛されることさ、死ぬほどね…

一体自分はどんな奴なのかって考えてる間に、時は過ぎる、

それなら片っぱしから、本当の自分を装ってみた方がまだいい、

俺たちは若い――多少の馬鹿なことも、みんな笑うだけさ…

でも、頭の中で可能性のすべてを見るとき、燃焼する範囲はまだ残ってる、

だから、と俺はジャンプする…そして、軽快にポケットに手を入れて、歩く…

ジャンプしながら、歩くさ…

俺はもう、飛んでる、難解なクロスワードパズルみたいに。

それでもし笑われたら――そいつの人生の空っぽさを笑うだけ…

だって、明るく楽しく生きることと、真面目さと誠実さを、

これからは組み合わせていけるかもしれないだろ――う…

ビートじゃもう駄目なんだ、ただ、国や人種を歌うだけじゃ駄目なんだ、

もっとより大きなもの、そしてあらゆる人びとをつなげるもの、

そういうものを、俺は手に入れたがって――る…

「手を引いた方がいい」という人もいる、

稀に、違うことをいう人もいる、

でも、誰の言葉を聞いていても、

どんな流行や、どんな考えがあるにしても、

それはもう、屑だ、

どうだいもう僕の顔つきは変わってる――

ペンキを塗る匂いがする、

ばらのいい匂いがする、朝まで――

そう、今現在まで、

…僕に重くのしかかってきたものは何だろう、

僕は、いま、閉鎖性の最大の原因である著作権を想い、

そしてその著作権にひそむ肯定のない浮游、

コンプレックスを思う。でも、慣れた方がいい。

いいアイデアだけど、チャンネルを変えた方がいい…

あの庭の広い家は、いまもそこにあるし、

超高層ビルの屋上で見た夜もまだ瞳の中にある、

蝶もいる、キリストの教え、孔子の教え、

ビートルズもいる、

たくさんの影響を受けた作家や詩人たち、

アーティストたちもいる…

オリジナル・グッズとセレクト・グッズ

が、作られてゆく…

ほらまた僕は生徒になる、

授業が始まるぞ、目覚まし時計はセットしたのか？

ほら、眠れないぞ、コーヒーを飲もうか……

詩はこれからどうなってゆくんだろう、

あらゆる枠組みを超えて、

グローバルスタンダードになれるだろうか、

僕はそれを作り出すことができるだろうか？

独自に発展していく兆しが……まだあるだろうか、

人は変わるだろうか——

ま、好きにするといい、と僕は思う、

折り合いだ、いつかは僕だって死ぬ、

大切な友達とだって別れの時を迎える、

いったい、何が言いたい？

そしてこれからを、どうしたい？

——何もない、変調で歌う銃口の方向……

何もない僕は、預金やクレジットカードを思う、

保険の上限額を調べる、

……兄は結婚し、家を買い、ローンをしてる、

僕はこれから人生をどう選ぶだろう、

たぶんそれは、詩人としての暮らしではないな、

僕に愛想を尽かされるような詩壇や、出版社に、

どんな見込みがあるだろう？…

そして君——どうしようもない大衆に、

どんな愛があるだろう？…

(いいものも悪いものも、)

澱ませる、中和させる、イメージや個性を打ち出す、

僕の詩の世界はとんでもなく可能性を孕みすぎてる、

歴史は変わり、革命もおこなわれる、

僕は神そのものだし、天才の名をほしいままにする、

でもおそらく、それが出来るのは、

僕一人だけなのかも知れない——

時代が変わっても、人びとの何と言う弱さ…

何と言う、いい加減さ——

そして、俺がステージの上に立って、天に何度も拳を突き上げる！

愛をすべてに、すべてを愛に、…

と、宣言すれば大歓声が起こる…パニック・ウェーブさ！

そんなこと起こらないって？

わからないさ——人生まだ、27年しか生きてない…

pierced earringsした双子みたい——

モザイクなワイルドみたい…

音楽のリズムに、エアギターの炸裂！

わけのわからないテンションで絶叫！

ねえーラジオ体操している場合じゃないぜ…

顎に手をあて、僕は値踏みするような眼でお前を見てる…

都市のアキレス腱は見えるかい、

そしてお前、こいつの向う脛が見えるかい？…

そしてその虚無の正体を知って、僕は愛の歌をうたう、

組み換え DNA…ソーセージ盛り合わせー男心をそそる水着…

ねえ、君たちはとんでもなく、あんぽんたん、

何かカッコつけてんの、お前ただのバカでしょ、

知らないふりして、空のような心で広く、

この宇宙を意識するー

向こうが待てばいい、俺はそこに乗らない、

向こうが死ねばいい、俺は生きる…

いいかい、ぼうや、躰だ、

宝物なんてどうでもいい！

おい、君そんなことでいいのか、

それじゃ本物の魔法にはならない、

それじゃあ、黄金とは言えないな..

たとえば、貝殻を好きだった時代があって、

波音が好きだった時代があって、

海の大きさに圧倒された時代がある..

そしていまでも、

心臓の鼓動を聴いてる

2010年代 ——

遅い車の輪郭を描くという試み

先が裂けた葉のような

仕掛け花火

低きより高きに登る

切先が背まで突き抜けた

印象

熱くなれ、身体

結論はコーナーライトに消える

肩の上には――寒い夜の屋根・・

四つん這いになった 僕は――

この時代のこと、

たった一人で考えてみるしかないと

決めていた――んだ・・

レールの上を

夜の電車が音たてて過ぎ――る・・

北の方へ、

僕はより冷たい身体になっていった・・

そして僕は口にしたんだ・・

もう誰が悪いというわけにはいかないよ、

もう何が悪いというわけには、と――

僕は自分の運命を認め・・

一瞬だけ目を閉じて眠った――

ねえ、明日が・・

どうしようもなく下らないものだと思ってしまうたら、

いま、僕が生きるに値しないと口にしたら、

たくさんの涙を裏切るようなことをしたら・・

これから僕のことを信じられない人が出てくる、

僕はすべての人に誓ったんだよ——

僕は戦いたい、と…

僕だけは一步も後ろに下がらない、と——

たくさんの人が何かを信じてやっていく為に、

僕一人だけはそれを守ろうと誓ったんだ…

明日、この国が燃え尽きて——も…

ねえ、明日、世界が信用できないものになっても、

ねえ、あなたは大丈夫…

僕のつまらない命を引き換えにした、蠟燭を、

大きな火にして——前に進んでいくことができる…

強くならなきゃって僕が僕に言い聞かせたように、

今度は、君の勇気を見せてくれ、…いいかい？

いまは、酒も欲しくない——

疲れて、くたびれて、

もう、何も信用できないようなことばかりだけれど、

…魂の旅に終わりはない、

——からだごと、心ごと、

すべて投げ出しながら、僕は成長している…

繋ぎとめられた生の気配と、

ふらついた朝の記憶…

通り雨ですっかり濡れた舗道の敷石みたいに――

僕が瞳を濡らしながら、

それでも瞳を閉じた理由…

僕の心は乱れながら、いくつもの摩擦で、

すりきれながら、

丸くなりながら…

僕は声にピストルを持っている！

僕は声に魂を持っている！

いつ、長い夢が終わってもいいように、

帰り支度をするかい？…

やり直しのきかない人生を嘆くかい？――

さまざまなもので病んだこの国に、

僕が与えられる強烈な一撃！

人間だけが持っている情熱！

…ねえ、僕は聖人じゃない、

神様でもない――でも…

不意に身体が熱くなったんだ、

自信のない部屋に戻りたくない、

自分ひとりのことしか考えられなかった、

あの夜に戻りたくない…！

結論はコーナーライトに消える

肩の上には――寒い夜の屋根…

あの頃信じた真ん中に、

僕のハート脈打ってる…

むごい殺され方をしたと想像する、

僕の前世的観察みたいに…

いつの時代にも、どんな瞬間にも、

僕みたいな人が求められている――

愛を誓って…

魂を売り渡すようなことはしなく――て…

人生に覚悟を持って、

僕は…僕は――生きてゆく、

そして北へと僕は向かう、

懐かしい顔ぶれたちと会う、

永遠の旅をまた始められそうな予感と会う…

もしかしたら、

――僕の死期は近いのかも知れない…

混乱していてあいまいな

明解さを欠いている

短いが激しい戦い

――抑えた照明

穴があいた――鼓膜・・

穴のあいた――気球・・

彼は寂しいに違いない

彼は寝ているに違いない

いつも笑顔でいたい

お礼を言いたい

…………心からなのか？

かわいい顔だけど

背中が痒くなるような

甲高い声――

僕はいつだって・・誰にだって

多分どこにいたって 自分に

掛け金だけは掛けてある

、、、、、、、、、、、、、、、、、、
でも細かいことにこだわるな

、、、、、、、、、、、、、、、、、、
彼女の声はここちよい

ねえ——君は思い違いをして…る…

どうしようもなくすれ違って…る——

(私を置いていかないで——)

、、、、、、、、、、、、、、、、、、
やがて沈黙が消えた

、、、、、、、、、、、、、、、、、、
そして完全に燃える

……………おざなりなキス

かたち とかげ

はだか のからだ

病気にかかった葉

ほのか な明かり

脳——海…

海老を獲る

さえずる鳥の異常な考え

消えていく炎

深い 考え

エーテル 溶液

、、、、、、、、、、
暗い月の出ていない夜

、、、、、、、、、、、、、、、、、、
宇宙にうかぶ星をうらやましく思う

……………おざなりなキス

ここは蚊がいていけない

いまましい奴だ

いても立ってもいられないくらい

いまましい世の中だ

静かで穏やかなカキーよ…

カキーよ…

戦争の傷跡に、度重なる火事――

ほらご覧、・・

誰が一番城を愛した――かを・・

落雷のために一週間燃え続けたという歴史――・・

その上、廃墟でもある・・赤砂岩のハイデルベルク城・・

言葉に思い出させる力でもあるように――繰返す・・

ケーブル・カーで登る。

[古城・・] ――僕は・・興味深いことに気付い・・た・・

(目の前で展開するその中庭に立って、・・

ヨーロッパの歴史の一証人となりながら・・

栗鼠や鳥を見る――そしてまた、眼を細めて考える・・

幼い時に夢見た、お姫様のことなんかを・・)

荘厳さ、華麗さ――・・そういう形容は、

ノイシュバインシュタイン城の方が相応しい――・・

そしてあれほど、圧巻、絶景とまくし立てられた、

テラスからの景色よりも・・表面温度の問題なのかな、

ローテンブルク旧市街から眺めた景色の方が、

僕の胸には印象深く残って――いる・・

「そんなことってあるのね・・」と、誰かが喋る・・

時折、僕はそんな誰かと喋っている・・・

「そうだよ、そんなことがある・・・

馬鹿にしたり、嫌悪したりする西洋的コンプレックス丸出しの、

賤民根性も・・屈折した心理を無視した好意的な意見も、

まったく関係なく・・そんなことを思う――よ・・・」

でも・・ああ・・・ああ――誰かが言うのさ・・

カメラの準備は出来てるかい？・・って、――

――ハイデルベルク旧市街は、ヨーロッパらしい石畳で、

建物も、どこか愁いを含んで、可愛らしい。何百年も前からある教会や、

異国の顔・・顔――顔・・・凋落と低迷の現在・・

死に損ねた男のモノローグさ・・

バブル崩壊までのいつまでも続くと思っていた高揚感と、多幸感が、

ある瞬間に・・終わりを告げると、無意識に気付いていた人みたいに・・

(・・・きっと僕等は右肩上がりの――無難な・・

説明に慣れすぎているんだ・・でも、マッキントッシュ・

コンピューターを使いこなす、真逆のベクトルで・・

そうさ――深くコミットする・・アクティヴストとして、

自分だけの道や考えを――歩いてゆく・・)

、、、、、、、、、、、、、、、、

ハイデルベルグ大学の建物が・・

あちこちに散らばっていて、食堂を見たよ・・

不思議だったのは、ジュースの自動販売機が一つもなく、

煙草の自動販売機が、ポスターみたいに見えるってこと…

ねえ、それで——さ…町全体が大学のキャンパスみたいに、

賑やかなんだ——そして…僕等はきっと…

マルクト広場周辺で、お土産を買うんだ…

——情報通信機器の準備はできてるかい？…

(ドイツで有名な城趾のひとつであり、

ハイデルベルクの象徴的建築物だ——)

——偶発的に、不可避免的に、

ある種の感覚的なものが、自然のある鋭さを持って、

そう、鷹の爪痕のように残っている…

…終わったものへのノスタルジイが——…

——急な坂道を、ケーブル・カーが登る…

そして途中下車——さ…

階段を降りて、ゲートをくぐって…

少し歩いて、ハイデルベルク城…

…ねえ——ああ…ねえ——ああ…うなだれるよ…

誰かが——言って…る…

ゲーテとマリアンネのベンチ…エリザベス門——

フリードリッヒ館とオットー・ハインリッヒ館の彫刻…

22万リットルくらい入るっていうワインの大樽——

その近くのいたずらな仕掛け…どう見ても顔が山賊の、

ベルケオ…ワイン飲まなくなって次の日死んだ—

「ねえ…ごくたまに僕は、つまらない話を思い出す…

深くて遠くにあって普段はつかまえられるけど—

思い出せば…どこか優しい記憶のように、思い出す—

…魅惑的な発見…コクトーはでも言っていたね…

読者は再認識を愛し、新しい認識に読者は疲労するって…」

（物ごとのはかなさを振り払ってくれる…

アンソロジーみたいに、

様々な年代は一つの作品になる。　　）

そして騎士の足跡のあるテラスから見る…

煉瓦色のハイデルベルグの街なみ…

対岸のハイリゲンブルクの森…

カール・テオドール橋—ああまるで…

増改築を繰り返した末に、ロマネスク様式やバロック様式が、

混ざり合うみたいに、何か—似てる…

ねえ、何かに似てると思わない—かい？…

「何が一番良かったの？」—と、誰かが訪ねる…

非常に、フツウの若い女みたいに、先行先取り、—

でも、きっと、—僕等は性急過ぎる…

「その場に居合わせたという一体感…

それだけだよ…」

..痛快な高度資本主義と消費の関係さながら、

一一僕等..色んな嘘っぽいことを話していた..

城を振り返ると一一たくさんの魔法が砂になってる..

砂が落ちる響きを聴きながら..

僕はと言えば..ああ..ああ一一まだまだ..また、

あの少女のことばかり一一..

ダンスフロアジャックナイト

DA・DA・DA...

DA・DA・DA...

花は良い香りがしている。ピストルを持って――

甘い液――蒼い液・・

「*Let's get started right away.*」

今、ひきがねをひいてやるから――
いつまでもシャワーの音は消さないでくれ・・

(Don't let yourself get carried away.)

触れあった状態で [球面]

TIME ON TIME 捨てられた SEX

sha la la la.....

今日のざわめいた夜にしゃべり続けなきゃ・・HELLO DARLIN'

ビデオデッキと一体化するオレはガンタンク <精の輸送管>

細胞のひとつひとつの悲しみに打ちひしがれた霧のブロードウェイ！・・

燃え上って興業――疲れてさみしげな女・・いかれているオレの右手（は、）・・・

桑田圭祐になる。あるいはもう、ただの人体模型・・ミイラ！

それでも！・・くれ！・・ラテンのビートのアダルト・オンリー！

花よりもきれいです。それはもう・・

団子より好きです。それはもうーモウ！..ア・ク・メ！

モウレツなワカメ信者！！..

「コンビニ弁当食って、カップラーメン食って、最後はもちろん、..」

架空のエンパイアステートビルディング！..

関節が外れたんだ。脱臼してしまってる、もう壊れちまってるミサイル、

源氏物語どころか原始時代にまではずれちまったオレの自嘲..

(でも聞こえるかい、耳をすませてみなーそれはどこから聴こえる？..)

そうさ、ニューヨクスティー！..ダンスし続ける野生のアミーゴ！..

浮かれてーいるのさ..(scramble scramble...)

[BO BO BODY, BO BO BODY, Fu... Fu...BODY!]

公園であやとりしている場合じゃない、

駅前で架空の恋人探してる場合じゃない！..

ー夕暮れは空の傷..火葬される身体を覆う一部...それよりもー

そよ風のスケッチさ！（いつまでも続く Oh...幻想）

Ah Woo Fu... Fu... *Dead body*

夢見心地のリズムを刻む **Dead body**

DA・DA・DA...

DA・DA・DA...

飛びあがって発光体.....

Mm 絡み合う肌をさらす月は降りしきる雨のように、

オレの青く芽ぶいた草むらを昂ぶらせる！..

——磁性体——砂ぼこり..目が痛い...夢遊病の微笑み！

そんでもって..夜の奇跡！..でも待ってろマリア様！

いつでも来い！——いとしのアメイジンググレイス！..

Yeah! オレは砂漠を旅して..

Yeah! 砂漠を旅して

夜中、オレは信じられないような地に落ちている..曠野——

人生ってはらわたを抜くでぶでぶの身体！..

銀河を渡れ！..コスモスの中では——まだ終わらないエデン・フロイト！

...ここは...どこだ...オレは...ダレだ...

熱さにいらだつ HEY! HEY! HEY!

「探し求めてた何かを、今も、追い続ける..むなしさのVenus」

真夜中の止まらない天国に昇ろう..渦巻く——

ダンスフロア・ジャック・ナイト

ファイナルカウント？..

ダンスフロア・ジャック・ナイト

ダンスフロア・ ジャック・ナイト

孤独なゲーム

ポン・デュ・ガールで逆立ちして歩くことを夢見る大道芸人は、

話す。[光を少しずつ閉じ込める行為だ。さもなければ、その光景を見出した寒い国の白い息だ。]

ある程度は…アルカトラズ…いや、少しは…時間が花びらになって、

ファースト・ショット…ファースト・ストライク…

ゴールデンゲートブリッジの東側を歩く…秘められた視覚…

一枚岩にひびが入る…にぎやかであまいレモンさ…

生まれも育ちもサンフランシスコのゲイブス…

ひとの手をくぐりぬけてきた…照らしだされてくる…

急な坂…発進、ぶおおおお…ミニカー…

(孤独なゲームが好きな人、集まろうぜ!…)

僕は日本の放浪詩人カモメ、

世界でもっとも打ちづらいと評される投球術と、コントロール、

七色の変化球、でも奴の最大の武器は…

ビュンとうなりをあげてミットにおさまる超スピードポオル!

ブーブカブーブカバールカバールカ…

ちくしょう、こいつも飛ばないのかよ!

…飛んだのは、エクササイズ!

死にやがれ！…ウィリアム・バロウズ！

アレン・ギンズバーグ！

ボブ・ディラン！

願望や嘆き、お浄めの時間。

アァーメン！

「まあまあ、困った人ね…」と、奥さん。

(困った人なのだ、僕…。でも、ハメようぜ、とか言わない。

エロいこといわない。でも、困った人なのだ。ふむ。)

——省略法。というか、ワイドな画面…

クローズアップしたくないので、さっきから、

ロングショットで、家屋うつしながら喋ってる…

究極の放置プレイ…——

…僕が、高速道路を頭上から見ている、

音楽のPVの映像が好きなんです、と言うと——

限定的——けれど、いわんとしている光景はわかる——

フリーメイソンの陰謀か、ピラミッドの内部潜りか…

いや多分、車の流れている光景が好きなのか、——ヘリコプター、

セスナ、…だが、具体的には…と、ゲイブスの連想可能性、

しかし人は人を騙す悪い動物だ…動物園へ行こう、

それでは、じゃあ、ゴールデンゲートブリッジ、と…

意表を突くために――何故…意表を突いたのかわからないが…

――くじ引きと罰ゲームを用意した…

わかったよ…ジャスティス――これが君の女神なんだね…

…アイスクリーム食べすぎで下痢気味になる――

ところで、ビリヤード、俺は出来ないぞ…でなけりゃ、ダーツも…

いいか、ベリーバッドウェディングは最悪の映画だ、

秘密を入れておく引き出しとしてはあんなにお説教口調なものもないが、

…俺は真夜中に半分くらいまで観て続きが気になってしょうがなかった、

のちのち観た。回数券をなくした子供に、天国の盗み方を教えたくなるくらい、

文句なしの糞映画だった…でも、人生はちょうどあんな感じ…

したたる水滴はオリーブオイルを想起させるだろう！

――掬いあげている耳たぶが痒い…

…そして眼は、地中海を想像する――でも、それが偽写真でも、

音楽は残る、ワインは残る――ここだけ読めば、アフォリズムだ…

果てしなく擴がる空があれば、多少の狼藉も許される…

チャイナタウン、ロンバード・ストリート――

ポスト・ストリート沿いには、ジャパントウン…

ラテン系、ダンス系…ヒップホップ系、

モード系…って—いやまあね、うん…

「人によっては、朦朧とした意識のままに、橋の上を歩く…

これは硬い器が夜のやわらかいしずけさに溶けていくようなもので、

美しい^[生憎、俺はマンハッタンとダウンタウンも同じ、ゾンビもウィルスも以下同文。]

僕はこれを、—蠟燭責めと思うのですね…いや、…いやね、…

まあ…なんというかね…うん—…」

ねえ、自由の女神と交尾する巨神兵ってどう？…

そういうポルノってありだろ？…もちろん、ジブリじゃなくズブリ、

昔友達がそんな同人誌持ってたなあ—スタジオズコピでもいいね、

ニューヨークタイムズはこんな糞映画を扱わないだろう、

でも三文エッセイストは書く…ハメハメするため？ 飯食うためだろ、

わかってるだろ！…でも、誇張は必要だよ、って馬鹿、怒張ることだよ、

怒張は、草木がのびるさまだよ、ホースをのばすことだよ、消防車だよ、

ゼントウヨウガアブラハムした…ちょきがぐうしてはあして、蓮の花

コブラのイキチをススった…インキ壺—

どうして君はサンフランシスコへ？…

あるいはどうしてカリフォルニアへ？…

日サロ、ネイルサロン、ネットカフェ、携帯屋、..

サンフランシスコのケーブルカー、

パシフィックハイツのフィルモア・ストリート。

馬鹿だねえ、「猿の惑星」でわかってたろ、全員猿なんだよ、翼？

天使なんか心ねえんだよ、シレジウス知らないの？ 読めよ、現代詩よりマトモ。

いやだからオカルトなんですよ、わかるでしょ、

——クイックシルヴァー・メッセンジャー・サービス。

スティーヴ・ミラー・バンド。

ラッキーストライク喫いたい。俺にはまずいけど、マルボー口吸いたい。

俺にはまずいけど。セブンスター。吸わない。..

小麦粉に似たあれなんですよ、ふわわ..ふわわ..ばくしゅん！

——遺伝子レベルで、蚊に刺されるようなことをしようが、

呪いをかけようが、砂の女読もうが、金閣寺読もうが..

有限と無限は違うし、有形と無形は違う、神と主は違う、

それだけなんだよ、わかるだろ..いやまあ..たぶんね——

広告やテレビは愚劣、ビジネスホテルで出張するサラリーマン、

ゲイがいっぱいいるような気持ちにさせる地下鉄、アット、

..新聞。不倫。エイズ——正常じゃないよ、日本と一緒にだよ、

段差だらけの歩道、でも——ポップアアットは好きだな、

やっぱりぼこぼこの車道、..ラップは大嫌いだけど——

パソコンだってパスワードとアカウントが必要だ、

水道だって飲める、ただし腹壊す。硬水。とかいって、

ここだけ軟水なんです、驚いたでしょ、とかあるかも知れないな。

路上生活者——ゴミ・・でも、ゲイパレードは好きだぜ・・

——さっき聞いたね、どうして僕が・・

こんな糞つまらない街にやって来たのかって？・・

社会見学——それだけだよ・・それだけだよ・・

とか言ってる前に・・それだけなんだよ・・

・・・なんだか、少女の肉体に蛆がたかる絵って・・と、僕は言った・・

この前さ、ウィキペディアで、抽象彫刻家のHannah Holliday Stewartの、

・・なんだろうな、うすっぺらいカブトムシみたいな彫刻を拝見したけど・・

唐突だな、胸の谷間にソフトクリーム挟んでる写真より煽情的だ。

トレイシー・ローズの不幸すぎる十代。

蛇が女性の胸をはいめぐるシーンよりきわどくて好きですね・・

悪魔の失敗も、誘惑の成功も・・割れた眼鏡の上を歩く蟻のようなもの、

グロテスクで美しいですよ——病めるパセリというか——・・

『ファーブルと昆虫記』ってあるでしょう、読んでないんです・・

「どうして・・」とゲイブスは言いたかった。

彼は、大道芸人だったが、僕の水道水のファンだった。

ファンというのは、水を練乳にし、コーラにし、珈琲にする。

ジュース各種にする。カクテルにする。無論…まあね…

だが、…都会の街と、映画と、芸術と、吉岡実…

同一性と差異性の矛盾を問わぬ――

主観客観両面から形成する孤独の重層化…爛漫と咲く花…

――ごくっ、アサヒビール飲みたい…

(突然、彼の中のICチップが、洗脳を開始した。

「メザメロ、メザメルノジャー！」

がああああ、と彼は、その時、おい眠るんじゃねえよ、馬鹿野郎…)

――うっ、尿意が…

「…湾内にはカリフォルニア海流という寒流が流れ込み、

水温が低く、潮流が早い。」

(霧にかかることが多い。)

「湾内でサメやエイ、カニなどが採れる。」

(死体もよくとれる。カリフォルニア名産だ。

…積極的放棄における社会の影響が、

浮き沈みする影を曳いて

生への虚無感を増長させた素晴らしい名物。)

お伽噺とドロップ

Ah...あなたの過去に.....

(太陽) が――

海底にサーチライトが・・

、、、、、、
サーチライトが・・

Ah...あなたの過去に.....

・・・私はあなたに会う夢の中で。

・・・暖かい会話、心と心が触れ合う息。

、、、、、、
触れ合う息・・

――でも、私はあなたを聞くことができずにいて、心の中で泣いてる・・

――私は夢の中で、あなたの私への愛を疑うようになって――いた・・

、、、、、、
朝目覚めると、砂浜に打ち棄てられた人魚・・

あなたは、とても混乱している、

私はまだ・・泡となることも、

若いせいかも知れない

――不条理なこと、人の心が移り変わり易いこと・・
全部、波の音がさらっていった・・

、、、、、、、、、、、、、、、、
恋を实らせることもできない――

夢のように見えるカメラのフラッシュ、流星の気配・・・

——その狂気と悪意を装った非常に暖かい心

——このウィンドウは開いたら、小さな水の流れ・・・

……都市は——夜・・・海底の底に沈む・・・

……わたしの……ひとみから……

…あなたの…きおくがきえる…

——きえる

……わた……しは……

……わすれてと……

どうして・・・ ここから・・・

まだ ひとつぐらい——

(どうして・・・)

…それは非の打ちどころのない

やさしさ

弾丸が入って—— 苦い甘い胸は・・・

冷た・・・

迷いながら手をさし出す・・・

「綺麗だね・・・え、どこかで会った?・・・」

・・・ぽっかりと胸に空いた

小 さ な 穴

わずかに残った熾火のなかから・・・

bring...to remembrance ...

——*scrappy remembrances*

——瞬間を越えて・・・そのときめきを越えて・・・

Ah...あなたの過去に.....

(大嘘) が——

太陽の最後の輝きが——・・・

シャットアウトする——・・・

まだ私の手を握っているかのように、愛の花が咲く・・・

傷痕を知らない——みたいに、美しく、

大きな、花を・・

永久のステージングエラー！

箱の中にかけられた布・・！

ステージ照明で使われる薄い半透明の膜！

・・・永久のステージングエラー！

.....箱の中にかけられた布・・！

.....ステージ照明で使われる薄い半透明の膜！

.....もう.....わすれ て と.....

...わた...しは...

.....きず.....ついている.....

.....こわれかけている.....

——ねえ、青春・・

あなたは本当に、ステージを楽しんだ・・

あなたが私を見つけた時、

ハートビートの音が心の中で走り切る——・・

——突然の崩壊・・

You are my rolling stone

You are my rolling stone

退屈な15歳、退屈な22歳、

あなたの愛は退屈退屈なまま歳を取る――

"ダンスダンス"

to twist muscle of one's body!
of a body, slender build!
a naked body!

(I Don't Know Why I Wanna Cry...)

.....なみだ.....の むこうがわ.....

...うんめいせん...の こうさく...

――こうさく

.....わたしは.....ひるもよるも.....

.....あなた に.....

Ah...あなたの過去に.....

、、、、、、
サーチライトが..

...あなたの肩に――そっと私の頭。

[迷彩] (は) 人々の孤独な海...密室の謎.....

(あるいは、) Grayとblackの世界

...優しく絡んだ腕と、あたたかい胸の鼓動。

――何かを言うべきなのに、言えば、そこで私たちは終わってしまう..

—私は心を持っている限り、誰かに忘れられるのだと知っ—た…

、 、 、 、 、 、

朝目覚めると、カモフラージュされた私の心…

わたしは、とても混乱している、

痛みは…風のように消えていかない、

若いせいかも知れない

—それでもはや、あなたのいない空が待っている…

胸を刺す痛みと、軽いめまいを残して…

、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、

あなたを知って、あなたを知っている。—

夢のように見えるカメラのフラッシュ、流星の気配…

都市は—夜…海底の底に沈む…

八月 / *beach*

—ラジオから、ニュースが流れていた…

チェコの首都プラハで同国のデザイナーらが開発した「空飛ぶ自転車」

リモコンで操作してプロペラを回すと、

自転車は地上数メートルの高さにゆっくりと浮き上がる。

自転車の重量は約95キロで、

現在のバッテリーでは5分間しか飛行できない。

(「いまなら、本当の気持ちが言える。なのに…」)

第一の切断、第二の切断、…

「なんだか、修学旅行の新幹線の席—みたいよね…

途中の席がひとつ跳んで空いているみたいに…」

—受け入れたくない

理解したくない

「I don't recollect you.」

…悲しい顔をさせるの——

……あなた……だけに こがれた……

…でも…わすれ て…

……あな……たが……

……あなたであるかぎり……

…いま、大人になりたくて ——…

本当に自分を愛せるかとか、他人を心の底から愛せるかとか、

…（言い訳を作ったと言ったわ、）

——控えめな夢に、薄暗い過去…

成功して、歌を歌って、社会の色々な人の力になって、

でも自分自身を表現することを恐れている間、音楽は、

ラ・ラ・ラ

——あなたの優しい瞬間を見逃して…いた…

古い傷…バイバイバイバイ

誰も私を止めることはできないYOUは"MOVING"

BABY YOUはSHOW・・・あなたは、決して変わらないように

本当の私が歌う——歌う・・・

"ダンスダンス"

to twist muscle of one's body!
of a body, slender build!
a naked body!

来ていない、——来ていない・・・あなたは走って来ない・・・

傍に来ない、あなたがいない、・・・来ていない、来ていない、来ていない・・・

灰を・・・掻き回す・・・

・・・これは私の希望的観測の秘密・・・

どうして・・・好きなの・・・

こんな人のこと——

・・・どうして好きなのこんな人？

——10年後、20年後・・・生きている身体に・・・

背伸びするスカイハイがなくならなければいい——・・・

・・・あなたの良いニュースを待っているけれど、

わずかな慰めの言葉を待つこともできな——い・・・

——素直に・・・なれない・・・

Let'sは、"NO NO"・・・どんなに疲れても私はあきらめな——い・・・

拍手が大好き！

名前を大声で呼ばれるのも！

でも、しかめっ面や笑顔が知られないことを望んでいる・・・

愛は——簡単ではありません・・・

ステージで演じられない・・・悲しくて、やりきれなくて——・・・

でも、私がこのステージに立つなんて夢にも思わなかった・・・

そういう気持ちが、悪夢・・・

「愛を信じていると言うと、

——ゲームが始まる・・・」

.....わたしは.....くりかえすだろう.....

...わすれて...ほしい...

——ほしい

.....かわりの.....きく.....

.....もっとわかりやすいもの.....

私はもっと冷静になった・・・

愛と、幸福に必死になるのが遅かったのだ、と…

そして、街中でたまに自分を見つめる、

砂嵐の中——飛び散った硝子の残像——今も消えない——

(街はさみしい人であふれてる…！)

あふれてる…あふれてる…！

誰かの顔…

——どこか遠い無人島に、わたしの記憶が流れ着く…

…<失われた時間のきれいな炎>…

——当時のあなたと今のわたしなら…

…でも本音は、私だけの責任じゃありません——よ…

わずかに残った熾火のなかから…

bring...to remembrance ...

——*scrappy remembrances*

より多くの興味をそそるように、

そして、あなたがあきらめきれないように名残惜しく…

.....わすれて.....ください.....

...わらえばなし...にも しないで...

.....あなた.....が.....

.....おぼえてきたことすべてから.....

——航行可能な水域に異常に高い体温・・あなたといた場所、

あなたの目の前で——本当の自分を探していたこと・・

あなたがいつか年老いて、あなたのその心に、

最も美しい風景が鮮やかに蘇る時、そこにあたしがいるかどうか・・

ラ・ラ・ラ

——あなたに頑張ってるねと・・言われたこと・・・

(Ah Ah...ALL THE GIRLS, WISH TO BE SEXY.....) >

(I am there I need you here) 永遠に私の心に

Need you here

(On to me) [P.S.アイ・ラヴ・ユー]

作られた最も美しいメロディーのすべてであなたを悲しみましょう・・

私はあなたが欲しい——あなたが・・欲しい・・・

Oh...Oh...振り向くと先頭に...

ねえ、私を抱きしめたくない？<華やかなリップスティック>

(赤いヒールに、煽情的なポーズ・・)

うん・・あなたは私の心を理解していない・・・

きっと——こんな気持ちわかってくれな——い・・

いつものようにあなたは、休暇を取る・・

でも、知りたかったの――涙が、思い出になる前に・・

離れることはない！と・・従うことではないと優しく――

・・・stage (は、) STYLE

本当にあなたがいなくて寂しい――静止している流体みたいに、

“あなたはどこ”・・何処にいるの――と、呼んでる――・・

、、、、、、、、、、

私はあなたが欲しい――あなたが・・欲しい・・・

あなたは本当に、ステージを楽しんだ・・

あなたが私を見つけた時、

ハートビートの音が心の中で走り切る――・・

――突然の崩壊・・

You are my rolling stone

You are my rolling stone

退屈な15歳、退屈な22歳、

あなたの愛は退屈退屈なまま歳を取る――・・

"ダンスダンス"

to twist muscle of one's body!
of a body, slender build!
a naked body!

.....わ.....たしを.....

...け...して...

――けして

.....げんざい.....と いう.....

.....かこ か ら.....

八月/home

――ラジオから、ニュースが流れていた..

英国のロックバンド「ローリング・ストーンズ」のボーカル、
ミック・ジャガーさん（69）が1969年夏、
交際相手の歌手、マーシャ・ハントさん（66）に
書いたラブレター10枚が
ロンドンで競売にかけられ計18万7250ポンド（約2518万円）
で落札された。手紙は、カネに困ったハントさんが出品し、
競売大手サザビーズがオークションにかけた。

...お風呂上がりの髪をタオルで拭きながら、

わたしは、ぼんやりと思った..

「The fairest rose is at last withered.」

思い出には――そんなこと、一言も記されていない..

一瞬にして、空の笑い。痒み..そして、少女時代の感傷..

愛があるか..正確にはわからない――

開けた袋

楽しそうに笑う――

(ああ…)

そうでもないだろう。

(そうでもないだろう、だって…)

―― さあ、どう思う？

リンゴの芯抜き器

よそ行きの着物

故意に 避ける

(外へ吹き出す空気)

突然腹がきりきり痛む

(機械仕掛けじゃなけりゃね…)

―― さあ、どう思う？

ここは廃れた町――

住民もほとんどいなくなった…

過疎化は進む一方だ――

何もここで起こったことがない…

だが磁性をつけられた 夜は更け…る――

(ああ…)

記憶を引き出す——記憶の空白から…

(低くたなびく雲——…)

—— さあ、どう思う？

突き抜ける

くねくね動く虫

あの建物には幽霊が出るって…言ってた…

ちょうどここで——クラスメートが…

(ちょうど)この場で——

どう猛な殴打…吹けよ川風！…

おどおどして首をたれた——僕はピエロさ…

数人で検証する…って——夏休みの前…

怖いもの見たさと…肝試し——

サイクリングに行くふりをして…

ひどい雨だなあ！

靴がきゅうきゅう鳴る

額にきびができる

湿気計にせっけん水をかけたい気分だ

——賭けをしようか…

(文字化けしたようにすすけた建物…)

赤痢を引き起こす細菌みたいな

(確かな足がかり…)

—— さあ、どう思う？

そう——これだ…

ドアを開けると

がらがらがら…

どこかで土砂崩れの音。

「おい、おまえ、逃げるな。」

(逃げるな、)

トカゲノヨウナ友達…

ヘビノヨウナ友達…

「——パニックが一番危ない！」

(逃げるな！)

声がする…！

——視線を向けると

かわいいくまのぬいぐるみ

僕は毅然として…

いや——純粹な事実として…

(そうだ…)

ここは病院——

(苦で上をおおった舟…)

—— さあ、どう思う？

だが 何度見ても

気持ち悪いぬいぐるみだ

ここへ来るのはこれで二度目だが

(前は、こんな所に病院があるのか、と

思ったのだが——)

来るのはともかく

(入るのはともかく——)

あれは見たくない…

(あれはなんか嫌だ…)

—— さあ、どう思う？

でもなんだか——

不機嫌な顔つき…

どうして連れて来た——

(ああ…)

お前だけでいい

(お前だけでいい、だって…)

—— さあ、どう思う？

不幸続きハチに刺され

マンホールに落ちたー

(Misfortunes always come in threes.)

ウーン

え-げ-つ-な-い-う-ん-ザ-リ-コ-リ-ゴ-リ

(それでも聞こえてくる声..)

嬉しそうな他人の不幸は蜜の味！)

「アリガトーゴザイマシタ！」

・・・悪意がこぼれちゃう！

「よくぞ、キテクダサイマシター！」

ーアーメン！

糞まみれ、糞まみれ..

泳げタイヤキ君、あるいはキンニク..

ずぼずぼじゅぼっとなあ..ウーン、

禁じられた温泉、よろこばしい愛の泉！

ずっぱしゃあ、ずっぱしゃあー

泳げば視界良好、ナンマンダブ、どうせこの世は地獄！

口にも入る！・胃にも入る！

ああん・そんなトコに、ハイッチャ、嫌ッ！

「それがしが嫌！」

「めかけは嫌！」

垂れ流しの言い訳、自画自賛のナルシスト・

——アーメン！

糞まみれ、糞まみれ・

不幸続 **き** 蜂に刺 **され**

マンホールに落ちた

(Misfortunes always come in threes.)

どうせしがない世の中の

は-い-て-ゲ-ロ-し-て-大-腸-菌-発-生-

(そして呪う声・笑う声・

娑婆ともオサラバ)

——アーメン！

不幸続 **き** 下水ま **みれ**

泳ぎな **が**ら 糞ま **みれ**！

(Misfortunes always come in threes.)

クサイ、鼻が曲ってボルゾイ

え-げ-つ-な-イ-う-ん-ザ-リ-コ-リ-ゴ-リ

(ペリカンのくちばしのスプーン

シャベルがわりのカバの耳！)

...柳輪勝と合え、あーれまあ、どうして、
あんなに...あんなに...あんなに...あんなに...
はあ...ふむ...はあ...ふむ...

「アリガトーゴザイマシタ！」

(...でござる)

——イエローサブマリン！

..あれ、関係ない？

「よくぞ、キテクダサイマシター！」

(あながちょ！)

どうせ...蟻地獄...

どうせどうせ...

不幸の吹きだまり——

(未来へのチケットだ)

僕はこの川を渡る。

僕の心は変わらない。

僕は……思わず叫んだ！—————

とある女性だ…

業績悪化を理由にあっさり切られた派遣社員

秘書検定2級もとった

その後、高卒の給料18万の男性と結婚して

ハローワークに通って

今の仕事場で働いている——

時の流れとともに

こわれたファイル

こわれたメモリー…

とある女性の話だ——

「退職して育児休暇に専念します」

でもそれは嘘で、

社内のゴタゴタに巻き込まれるのが嫌だっただけだ、
そしてキャリア断絶、でも、子供をあずけられる、
認証保育園探し。でも求職中では難しい、
だから仕事探し。

光っていようが錆びていようが

あれもこれも、と思うものだ..

いやな事も忘れようと努力して

続いていくものだ..

——ある男性の話だ..

彼は躁と鬱を繰り返す双極性障害。

完治せず、薬の副作用も一生続く。

毎朝5時に起き、帰宅は午前2時。

夜明けを理解できる瞬間がやってきたら、

あなたは思い出に埋もれる..

いまそこに眠っているのは君だ..

——とある女性の話だ。

彼女は家事手伝い。でも現実は無職女性だ。

人間関係が苦手で、仕事が長続きしない。

「今、何の仕事をしているの？」と聞かれるのが恥ずかしくて、

友人とも会えない。

「私はどうなってしまうの？」

私はだめな人間なの？」と思い詰めていた。

いいことばかりじゃない、

いま彼女は、「ガールズ編しごと準備講座」に通って

呼吸法、心身を整えるエクササイズ、履歴書の書き方など、

自己肯定感の低い参加者に自信をつけてもらう講座・・・

でも、ホームレスになりたい、

親のすね齧りたい、という人ばかりじゃない・・・

人生を何とかしたい、と思ってる人もいる——

何もできなくても、そう想ってる——

行動しなきゃ、やらなきゃ、と言い聞かせて、

それが出来ない人もいる・・・

死刑を宣告された瞬間から、

殺人を悔いる人だって、

いたっていいよね、本気で苦しんで、

そして遺族に謝罪して、

死んでいく人もいたっていいよねって…

——とある女性の話だ…

彼女はいま、ハローワークで見つけた、

従業員約10人の会社で働いてる。

ぎりぎりの人員で、正社員が辞めた穴を、

契約社員の彼女が毎日夜8時すぎまで残業して埋める。

彼女、“役人根性”で働いているって。

会議やイベントに、契約は来るな。

でも、ミスをすると正社員並みに責任を追及される。

だったら、誰に何を言われようが

勤務時間だけここにいればいいんでしょ、…と——

日中は伝票作りや電話対応でトイレに立つ余裕もない。

ファイナンシャルプランナー1級の資格を目指して、

毎朝5時に起きて30分ずつ勉強している。

…天氣の良い日ばかり続かない——

ため息まじりに目覚めることだってある…

甘いことばかり言えないものだね、

素晴らしい季節や、あるいは幸せな出来事を求めて、

旅することばかりは出来ないものだね…

——とある女性の話だ…

彼女は、フリーランスのメーキャップアーティスト、

がむしゃらの20代。を経験して、

やっと「足るを知る」が見えてきた。

自分にも他人にも期待し過ぎない。

「30女が一人で働いてかわいそう」と冗談まじりに言われても、

近くに親友がいて、頼れる彼がいて、

屋根のある家で暮らせる日々に幸せを感じる。

——これらの記事は、毎日新聞社刊の、

リアル30'sから構成させてもらった…

でも、忘れた——終わる…では進んでいかないものだ。

でも、記事はそこで始まり…そこで終わっていくものだ。

僕等は、小学生の時の同級生と何人会うだろう？

それも毎月には？

それとも何か月ごとに？

あるいは一年ぶりとかに？

・・・時間が経てばわかる、

空を横切ってゆく流星を見る――

どこかで聞いた覚えがない、

コトンという、小さな音がして、

メカニズムが止まってしまう、

時計・・・

気分はすでに沈んで、

あの星が何処へいくのかと考えている。

人生は神様の瞬きほどのもの・・・

本当に愛とは――本当の意味とは何か、と・・・

よく似ているふたり

とにかくわれわれを訪れてください
アリアのよわよわしい表現みたいだ…
アリアのよわよわしい表現…
昔ぼんやりと考えたことがあるのだ…
柔和で淡い青だ、それはきっと、と――

わたしを笑わせてくれてありがとう。

聞こえなかった…？

何、耳に手をあててるの？

もしかして――と、ブルブル身震いする少女B。

わたしを笑わせてくれてありがとう。――って言ったの？

そういったのは、少女A。彼女だ。

…癩に触った？

何黙ってるの、とわたし、…

ここは――教室、…しかも、生徒が沢山いる帰宅前…

…もちろん、放課後のようにはいかない。

あらそう、だんまりを決め込んで、

それでまた後でトイレに閉じ込めるの？

ざわっ…

ざわっ…

教室がざわついた。

――上履きを隠すのよね。

シャープペンシルに接着剤つけるのよね。

椅子に画鋏置くのよね。

それで、ノートに落書きするのよね。

それで、わたしの肩にポンと手を置いて、

——友達でしょ、って言うのよね。

他愛ない悪戯でしょって、言うのよね。

毎回あなた電話が鳴るたびに、すぐ取らないと、

それを口実して、また何かするのよね。

ざわっ…

ざわっ…

「わ——、忘れました——、大尉殿、…」

とは、誰もおどけて言わなかった。

、、、

そのくせ、いつも生意気だと言ってたわよね。

最後の、クスクスした嫌な笑い、

あなたでしょ。トイレの個室の、密閉された空間で、

ずっと考えてたわ——…びちょびちょになりながらね…

あんな下品な笑いするの、あなたしかいないから。

もういいって？…

ゴメンナサイって、なにそれ？

ちょっと待ってあなた何処行くの？ 敵前逃亡？…

終わりまでちゃんと言わせてよ。

待ちなさいよ…！

――まるで変わってしまっているわ、…と少女A

彼女の取り巻きたちも、すっかり私のペースにガタガタ震えている。

そうね、変わったわ。

でも、先に変わったのはあなたよ。

…わたしは眼が悪かった。

だから眼鏡をかけてるわ。

これ、お母さんが買ってくれた眼鏡だったの。

後何年も使えるようになって、ちょっときついを選んで。

でも問題はきついことじゃなくて、

顔に合わないサイズの眼鏡のフレームよ。

でも本当は嫌だった。変えたかった。

でも、…あなたなんていったか覚えてる？

ひどい趣味って…

そうよ、わかっている。でも、その時から、

私あなたがどうしてそんな風に言わなくちゃいけないのかって、

考えていたの。――

あなたの中学生の時の写真見て、すごくビックリした。

ビクッ、と彼女が痙攣したのがわかった。

わたしは、ポケットから、ビニール袋を取り出して、ひっくり返して、

一枚残らず落とした。

バラバラと落ちる写真…そこにうつる、どこか、自分と似た写真…

教室にいたクラスメイトが拾う…

蒼白になる、彼女――

高校デビューってわけよね。

それで、昔の自分みたいなわたしを見つけた。

それで、ちょっかいを出したくなった。

無性に気に入らなかつた。そうよね。そうでしょ。

――超自我はわれわれの良心を示す。…

…肩をゆすぶる。

わたしに触らないで！

触らないでって言うくせに、いつも、馴れ馴れしく触ってたわね。

本当はあなた、昔の自分に優越的な態度をとることで、

今の自分を好きになっていたんでしょ。

でも――本当に、何を恐れてるの。

本当はビクビクしてるんでしょ。

自分が見透かされるのがこわい。昔の自分に戻るのがそんなに嫌。

頭の悪い人…

…もういいわ。行って――何処へでも…

わたしは意地悪ですって、

今度からみんなあなたのことを後ろから指さすの。

わかってる？ もう、誰もあなたの味方をしないのよ。

それが嫌なら、いますぐここでちゃんと謝って。

もうみんな、あなたの昔のことも、

どうしてあなたが私に辛く当たるのかも、

知ってるの。ねえいい、わたしは可愛くなる。

すごくすごく、綺麗になる。

眼鏡も外す——母親の形見だったけど、外す。

そうでなきゃ口惜しいから、

どうしてこんな人に自分なんかやりこめられたのかと思うと、

…ゾットするから。

のりがきいて、というか、ききすぎて——

ごわごわのシーツ…

タフなボクサーなら喜ぶべき状況かも知れない。

硬い岩みたいなベッドも。

我々は、とかしこまって言っているみたいに、——

クラスメイトたちは、少女Aたちに冷たい。

——彼女は何も言わず、…下唇を噛みながら、

眼をギラギラさせて、

教室の後ろから出て行った。

わざわざお見送りには及びません！

横殴りの雨に濡れてしまうーから…！

彼女の友達は、

ついていかなかった。賢明だ。

でも、うすっぺらな関係だ。

彼女の友達たちは、泣いて私に謝った。

…しかし、本当につまらない冗談みたいな場面だ。

ジャワ語で言ってくれたらまだ許せそうな気がする。

もちろん、ジャワ語なんてわからないけれど…

怖かったわねえ…とークラスメイト達が歩み寄ってきた…

本当に気付かなかったのだとおもう。

それぐらい、彼女は用意周到だったからー…

でも、力を奪われたら、こんなものだ、と初めからわかっていた。

ー操り人形みたいなものだ。

彼女にはそれだけのカリスマがあった。

クラスの中心人物だった。

そして今度のことにも、決定権があった。

舞台があれば、後は道具を使うだけだ。

ー不協和絃…

でもその一一道具も、舞台という構造も取り払われた今、
酔わせる物質も、糸を織り合わせる噂も何も働かない。

彼女はおそろしく孤立する。..計画通りだ。

でも無性に喉が渴いた。

一一自分でも馬鹿だとは思ったけど、

気がつくとき、わたしは彼女を追いかけていた..

何となく、彼女が昔、

イジメられていたような気がしたから..

そしてわたしなら、もしかしたら、

本当に一一あるいはわたしだけが..

本当に彼女のこと、

わかってあげられるかもしれないと思えたから...

わずかの差で勝っただけじゃない。

長距離で言えば、あと、もう一踏ん張りの差じゃない。

わがままなのは子供の専売特許で、問題が多いのは泡だて器みたいな、

人間の本質じゃない。

泡は触れるとこわれる。

だから彼女は決して本当に笑わないのだ。

手ざわりの荒い、

老女のしわが寄った皮に、

彼女は似てる。

羽の生えそろわない若鳩だけど、

彼女の中の何かが腐ってしまったのだ。

極めてわずかな動きだけで察知する悪意への加担、

あるいは、

また、その耳障りなしわがれ声…鳥の翼――

かわいそうな物笑いの種がここにいます。

ワニの皮で作られた革にもなれない、

さりとして人為が加わらない森林にもなれない…

老女というやつ。

この女は醜い――それがもし、彼女自身なら、

そこに染まりきっているなら――…

でも…本当の彼女は…

すごく傷付きやすくて、

プライドばかり気にしてるけど、本当は、

臆病で、誰も信用できなかつたんじゃないか。

下唇を噛みながら出ていった時、おそらく、転校のことを、

考えていただろう。あるいは、自殺するかも知れない。

きっと、自分の後を誰も追ってこないことを知って――

でも、だからこそ、思った――

そういう気持ち、わたしにはよくわかった。

人一倍駄目な自分に、

もしかしたら本当の友情になりそうなものを、

感じていたかも知れないということ…

わたしにだけは、本音を言えたのだということ…

鈍いわたしにもちゃんとよくわかった――

そして――何となくそう想っていた通り、

屋上に…彼女はいた。

――彼女は淋しそうに手すりに手を載せて、

夕暮れを見ていた。

私は一人であなたからのサインを待っている、

電話を持ちながら、屋上の扉の前で座っている…

不謹慎だけれど、

多分、そんな彼女だったら、

一生あなたのこと…、

大切な友達として思えたのに――って…

涙が出てき――た…

どうしてこんなことになってしまったんだろうって、

そう思うと、嫌な気持ちがした..

毛皮で覆われた動物のように、

あるいは、

煩わしいブヨの大群に襲われているように——..

無邪気なうたは左右の手のリズムにあわせて僕の耳に残った――

言わなくてもわかりますよ…ワクワクした、美しい声に…

会話に加われれば遊びにふけっているみたいにゆらゆらと氷砂糖の味…

靴先へと落ちていく汗…僕にはどうすることもできな――い…

大人になりたいね――さやさやとその音が流れる交差点…

ふざけて僕を突き飛ばしたら…思わずわらっちゃったの。

静かな夜の街…そんなのだれでもわかる――…

互いの靴音がつかれて来るとイニシアチブを投げて――装われた疑問…

こわいよ――さわらないで――僕の方がわらっちゃったよ。

でも馬鹿な僕はいつでもより深い意味がありはしないかと思ってる。

火遊び…たくさんさ――ただただおぼろげな心の隅に光る鍵…

おまえと言うとわたしと呼べ――わたし様、わたし様…

――わらべはあでやかに舞った…肉体にだけ意味があるみたいに…

飛び立つと素早く触れると果敢ない…いのちみたいに――

さっき、キリスト教の勧誘が来たんだ！

あなたの心を開いたら――
僕はあなたの眼を見る…

エスケープ・ウィンドウ・ファン

エスケープ・ウィンドウ・ファン

たとえば…怨念や呪力…率直に重力――

連続幼女殺人事件の犯人像は、孤独なビデオ愛好者…

(――いぶかしげな表情をしないで…)

……この息の通う間は御身を守護し奉らん…不思議な……

呪文に――屠殺の血、生贄、畏れを内包した

[化粧が、溶融する――]

(でも、あらたに生成するものの息吹が……)

東の間のユートピアを求めてきたのが映画、ファッション…
漫画でもいいさ…ねえ、通り魔事件って、無差別殺人って何だい、
…鬱屈した疎外感！…ねえ頭にくるぜ、おお、俺は頭にくるよ、
ピアノテレビベットの…なんでもかんでも、騒音さ――

そうかと思えば、社会的弱者をターゲットにした卑劣な犯罪！…
もちろん、M資金もある…家庭内暴力に、浮浪者狩り――
でも世界では、餓えてる子供がいて…明日、地雷で死ぬ子供もいる…

目は輝き――心は目覚めるだろう…

幸せが速すぎる…理解する――甘い淋しさ…

迷路のように入り組んだ仕切りから、

あなたは見ていない！

…(どんな絶叫だって、テレビ画面に染まる)

――たまに思う、演じる俳優なら難しいことじゃない…

ここで踊りたいアニマッフェロス

あなたの魂の音が――こもれる・・

――素敵なアニマウフェロス

たとえば暖かい南の風のような笑み・・

あなたの心を開いたら――
僕はあなたの眼を見る・・

「人はカミソリを

手に入れた時、

無精ひげを手に入れた」

夢の浮き沈み――季節の停止 ..

[混凝土の壁]カレンダー のモデル――

「いまこの瞬間も、地殻変動が起きてる」

就職を断られたから「ムシャクシャしたので、刺す相手は誰でもよかった」

(誰かの台詞さ・・) ―― (でも、トム・クルーズよりよくいるタイプさ)

答えを待つように眉を上げて、

会話の最後の部分をもう一度頭の中で変換させる、

よく晴れた日のエスプレッソコーヒー！

・・・誰かが今日も精神病院に通院している ――

――そしてそれが悪いことだなんて思う人の方が変さ・・

業が深いんだね、僕等・・哲学に、宗教に持論いれなくちゃ――
気が済まない。じゃなきゃ、解釈で膨張させなくちゃ駄目ってさ、
社会という不特定多数の抽象的な街がひずんでく・・

(――ウィンドウから逃れられない香水のような愛・・)

.....とてつもなく...強靱な.....

不動明王――でさえ、慈悲深い、衝撃吸収性能

[熱狂は、発酵する――]

誰もがきつと——最後には、長いため息をつくだろう..

(眼を伏せたまま立ち尽くす..君を知ったから.....)

ワイワイ言う君の中の悪いしわざ 不思議な血の匂いがする

事後のわずらわしい関わり合い 燃えるために烈しい

戒め——嘘——弱さ..

越えられる——かい?..

ねえ、超えてゆけると愛を信じれるかい?..

.....人の心に赤い火がある

——火がある..

<fire> 口紅をこすっていない

<water> 太陽のそばかすの下

...火

神との 結びつき ——のはずだよ..

結びつき ..同化する夜のビジョン——

たばねられた花の集合体としてのビジョン

...さよならを言うたびに、最後に何かあるような気がするのさ..

夜明けのように憧れがより多くのものの動きを見ているみたいに..

僕は知る僕は考える、天国って..

あなたの心を開いたら——
僕はあなたの眼を見る..

エスケープ・ウィンドウ・ファン

エスケープ・ウィンドウ・ファン

エスケープ・ウィンドウ・ファン

I can change..... <いいえ、わたし達は合わない>

We looked at each other.... <そして会話、交わすことさえなく..>

寝そべっていたものたちが..みんな、目覚めて明るい..

ただ風を聞かせてくれる..前髪だけを見てた——だって..

お互いに影響を与える夜明けのような目をする、すみれ色の人びと達だから..

でも手ざわりの悪い——意地悪い人のうわさ..

「雨が降るだろうか?..」

ちょっと待って (で) そう何..?

..ねえ、何も無いのさ、何も——..さよならを言うために..

またあやつの取り乱したフリ!..

内海につきでた細長い砂州の櫛——夢を考えるスタートにどうだい?..

向こう岸へ行くかい..行くだろう?..でも奴等は言う——

見..つ け...ら..れ な...い..っ て...

忠実なバセットハウンド犬..おしゃべりな鸚鵡——たまに..

考える——愛が涙に変わるまでは..傷付かない...

紛れもない痛みが蛇口から水が進るように心の花を..濡らす...

なんでも手あたりしだいにのみこんでしまう..

I'll take (a) shower.

I'll take (a) shower.

...アイル...テイク...ア...シャワー...

...アイル...テイク...ア...シャワー...

——混乱の波!..ねえ一体それがどんな目次の
重要なお題目って言うんだい...わからないよ、ね
えパーパス!..犬の嗅覚のガイドブック..dogと
呼ぶべきかな..呼ぶべきだろうな...

粟粥のような雨...べたべたな粥のような泥
しどろもどろする服!——なんだかまるで、愚かな感じで、
泥の海の中、クロール、しているみたいさ..

I'll take (a) shower.]

I'll take (a) shower.]

そわそわした気分で、こ…わばっ…た…笑い…

作…り…笑…い—

(—もう一つの愚かな愛の歌…)

ゲームです、って愛のプレジャーボート走らせた知識…

……それはすべて間違っている、…お伽噺……

肯定スル—「拘泥」(する)—否定スル「詭計」(する)

…でも心理をあざとく衝いてしまう、僕のヴォリュウウム!

[だから憐れに響く鐘の音は—]

[彼(彼女)とは一体いつどこで出会ったんだい?]…

—君はあわててページを捲ろうとした。ひたすら紙面をにらみ続けてる…

そうだ…これはもぞもぞと袖から手を引き抜くようなもの…思い出を残す僕等

は…幸福が灰いろかも知れないと—宗教だって、いや、生命それ自体にだっ

て…ただ、一つのインイクスペンシヴをかました—って思う…

(虫の音より悲しい…ignition さ……)

〈fire〉 ゴミ箱めがけて紙のカップを投げる

…それが、約束じゃなくて—

—薬学でも…

ブレイブで、エレガントで、何となくフュージョンじゃないか…

アミューズメントパーク…エクセレントなフレンドシップ?…違う、

それはセッティングされたメール。ローン。おお、テンプレティション。

〈water〉 アタッシュケースの下の妄言

…火

神との 結びつき ——のはずだよ…

結びつ き ..朧げながら夢と現を歩む身——

いつこより来ていつこをさして君は去る…

すぐに興奮するような僕のお気に入りの最も美しい夢——

僕は知る僕は考える、天国って..

あなたの心を開いたら——
僕はあなたの眼を見る..

かじかんだブランコよ――

――冬の風に斬られたる板暗く浮かびし…

〈沈黙のコルトレーンよ…〉

かたまりよ、羊の群れよ、白よ…

ゴンドラやドライアイス等による
技法を駆使する…

その沈黙はむつくりと起き上がる――

〈通過儀礼がごとく資本主義の商品化の対象となる！〉

箱庭みたいに――光る樹それぞれで…

…フランネルのコサージュ…

スコラ

――あるいは哲学、とでも…

旅へ出る――

（民衆運動へ――だがそれは国家体制の側のイデオロギーや、

知識人たちの影響を受けている。ただ、社会的・生活的欲求において、

自律的な――…）

旅へ出る――

願ひすら虚しきこの夜は…形状を保つ…倒様の桶…

民衆は自分たちの願望を仮託したヒーローを作る。…
それと同時に必ずアウトローのフォークロアも生み出す。

蝶とベリ——

うろくずのごとくに濡れて蝋燭の灯ゆらぐ…

ほとばしりいる閃光…

やがて朽ちはてて行く…

(たぐい稀な抵抗者のひそかな愛情も、抑圧から風刺をさせる権力者、敵役も、

滑稽な人情話も、批判的な集合心情に溶け、変革的集合心性へとゆく——

蝶は、溜めこまれた無意識の心情-真相を暴く…)

肉が腐敗したような臭気があたりにただよう——

鎮痛剤の壘が足下に転ぶ…

君はひからびたミイラと化す…

王様の耳はロバの耳と言いたくなる——

でも蝶はもうかがやけるものの一つ…

旅は空の星とともに——

おぼつかなく銕うごかして青を切りぬく…

蝶は——もういない…

エマーダーシー、

勇敢な紙切れを欲しがる僕等だ。

階段を下りたら帽子を忘れていた..

実際は臆病者だ。

ダークシルエットはシャープの

涙を流す ..Oh...oh...

固い氷のなかに、小さな蕾を隠したまま——

、、、、、、、、、、、、、、、、
誰かが眠れぬ夜を抱えたまま..

自分さえよけりゃいい..

そうじゃない、でも何もしない、..

バランスをとっている——

不安のため、怒りのため、

一番とってよほど勇敢で、

いやそれ以上に勇敢だった僕等に、

勲章がスポイルしていく..

[僕の死後、どれほど勲章だの、

お世辞だのが来るかと思うと、ゾッとする…]

深海魚のように口を開けて

涙を流す …Oh…oh…

[愛]を移動する――

長い時間を置いた後、

[アキレウスはどこ?]

(トロイアの悲劇は?…)

、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、
深くて寒い場所を泳ぎまわらねばならない。

スキャンダルを暴露しよう、そして――

老人たちに、あなたの息子に、と、あなたの娘に、…

――いつまで裏切り続けるのだ、と言わなくてはいけない。

あなたはだんだん細く、痩せ、餓えなくなり、枯れ、

その代わりに、だんだん静かになって――

風の強い雨の思考が前進する…しかし、繰り返し

繰り返し豊かな色をつけ、背中合わせに、

誰が彼 に食事を 与える の か？

家族や生活や国家がある… (魚たちの眼は、)

[太陽の無い天を仰ぎ…]

小さな天体が大きな天体のまわりを回っているように、

大きな眼差しが背を灼く

誰が彼に誇りを与えるのか？

〔古事記で人は救われるの？〕

(神話なんかで？..)

犯罪のようにあまりにも賢明なエスケープ..次第に重くなってくる、

重くなれば唾が吐きかけられ、先の見込みがないんです、という者。

突然偽善になり、愛の抱擁から、――

我々を墜落させてゆくものは、

何..<この愛は、前例のない>

何...? <だからこそ意味がある...>

愚かなほど過度な勇敢な行動。

エマーダーシー、

本当の負け犬の名前を知ってるかい？

戦う資格のない――愚か者の名を？..

ただの豚？..猿？..

ダークシルエットはシャープの

no...no...

Oh...oh...

固い氷のなかに、小さな蕾を隠したまま――

、、、、、、、、、、、、、、、、
誰かが眠れぬ夜を抱えたまま・・

一人でスプーン・フォークを

上手に使うようなわけにはいかない・・

いかな——い・・

夏の日の詩

――始まりを告げていくが その体温を知らない

動作が止まる

――動作が止まる

どんなに優しくしたって 君は気付かなくて――

どんなに哀しくったって 君は気付かなかった――

そうして僕はまた一人きりになる――

prologue 物語はいつもそこから 始まっているのに

prologue 現実はいつも何処から 始まっていくのか

100 パーセント満足できるような答えは

・・・でないかも知れないけど *My life!* ー

遙々と青空を駆け下りてきた小鳥は 一目散に僕の胸へ

逃がさないように胸に手をあてていたら 小鳥は
いつしか僕の胸に住み着いた それでも青空を目指し
あわよくば駆け昇ってゆこうとする そこに空があるから

Kiss and be friends

Kiss and be friends

(気持ちを落ち着けて・・・)

なれ親しんだものに深く心を引き寄せられてみるんだ・・・

チャンスはたったの一度だけ・・・

Kiss and be friends

歳を取る 年下ではなくなる 意義がない真価もない
明日も昨日もない あくまでも自分都合の暴論を振り翳す
豚になる 年上になっている 言葉もない理屈もない
夢も展望もない それでも僕は剣を勢いよく振り翳す

動作が止まる

——動作が止まる

I'd better keep trying.

I'm sorry to rush you.

もうそこには誰もいなくなってしまったよ…

もうそこにはどんな歌も聞こえたりはしないよ…

epilogue 物語はいつもそこで 終わっていくのに
epilogue 現実はずっと何処で 終わっていくのか

「頭が空っぽになるよ」

…な……る……よ……

夏の日の詩 出逢った季節の太陽を——

「(完成のために)」

思い出して また恋をするんだろう——

「・・・空っぽになるよー」

...な.....る.....よ.....

そうしてまた一人 恋を終わらせていくー

ああ狂っていく 世界ではなく この退屈すぎる街で

狂気だけが辺りに蔓延っている 鎮圧できない暴徒

鎮火できない火事 自身の過ちを認めないことに比ぶれば

それは出来事にすぎぬ 事象にすぎぬ それでもああ

僕は壊されていく 秋に咲いた可憐な花が好きだった 僕が

...鳴.....る.....よ.....

...アラーム.....が.....夏に.....

動作が止ま る

——動作が止まる

I'd better keep trying.

I'm sorry to rush you.

静止せる剃刀が潜在的に求めている、

スフィンクスの問いにも似た、

不安や沈黙の実…破綻、という…手続き——

(精神、感情、人格、行動…)

抽象度の高いものを所有する純粋な意識の中で

[心臓のようなもの——林檎のようなもの…]

さまざまな主観の曖昧な粘着に等しく、ただ、欠如や代替によって、

あらわれた観念や意識をつぶさに拾ってゆくことで誕生する、知覚形成を、

当然であり、必要と感じる《分裂症》とする…

暗闇に溺れるように沈んで——ゆく…

その一瞬、冷たい海藻が…前髪が、我に返らせる。

脳の検出可能な器官の異常？…

違う、一つの目が開いた——のだ…

いくつもの次元におけるひとつの過程として限定されたのだ。

思考の道筋におおよそ論理的に構造されている、世界に、

突如、隆起した背後にひそむ死んだ空間と接触する、

「魚の骨を抜き出す時、かすかな魚の身が許せないように…」

あるいは、それまで捉え難く、

対象化されることのなかったものが、差異化する――

そうして、一つの新しい秘密が生まれる。

まるで樹に吊るされて、それ自体が、壁紙の絵のように見えてくる、

なまめかしく揺れる首つり死体・・

それ自体は、非現実的であると認識される心像・・

砂の上の鯨、緑の中にふっと毛根のような組織が脈打つのを認めた時、

監禁と保護という行為遂行的な発言・・

色のついた光の幻覚的な陶酔という認識――

しかしそれでも僕は想像する・・

昆虫や蛇が、皮膚の上を這っている、

生きた頃の記憶を――・・

、、、、、、、、、、、、、、、、、、

そして僕はほどいてゆく、その少女の服を・・

大きいものから小さいものへ・・

小さいものから大きいものへ――

色調の断片と――逆さまの音楽・・

めまぐるしく炸裂する、火花。

とうもろこしのような、毛。

泥の中でくちづけしそうに見える、眉・・

「彼女は、ビスケットを齧っていた。」

――スーパーマーケットで好きなビスケットがある。

(柔かいものと、固いものがあった。)

彼女は、草の上でトルコやスイスあたりの、

民族衣装のようなものに身をつつんでいる。

その下には、肌着がある。

彼女は、牛乳が好きだった。

それでもいまの彼女は、とめどなく漏れる水…あるいは、

めくるめく官能において、鳴り続ける楽器の音楽――

確かに、死んでいる…

迷って、苦しんで、狂って、踊っている…

むなしい孤独の中に拘束されている――

だが、やわらかい入口は、まだ――閉ざされてはいない…

、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、
甘い蜜が貯蔵されている…

マーガリンの味が舌ざわりをなめらかにする――

あらわになった瑠璃色の鱗が、ざらざらの世界における釘のようなものが

嘘の世界、ぜんまいの世界に石鹼のような効果をもたらしている…

現実の認識や他者との交流の能力が失われる、

そして、かすかな一つのつぶやきが消えて――いった…

その内にもものが限りなく遠ざかってゆくような気配がし――

水と塩を吸う、蟹や海老が…水車の車輪のように軋り…

肉体という散乱したテキストを膨張させる――…

神経中枢に対する物理的刺激——狂気が、

しかるべき時、剥離する…そして一個の球体として、復元する…

そう、あくまでも生きた現在の何らかの逃避や防衛にすぎないのだ——

見ることも触れることもかなわぬ、

ただ、考えることしかできぬ、宇宙の全貌に

それは、退行でも、突拍子のない——狂気の瞬間でもない…

常に自己の永遠という時の中において、

尻を鞭打たれたように、

あるいは服を引きちぎられたように——…

つめたい夢に人知れず濡れている、少女が繊細なだけだ。

汚れた鴉が喰らう、これから——縄が腐って落ちる…

大分その時間はかかるだろうが、めざましい創造だ…

誰かが殺した、あるいは事故だった、もしくは自殺だった、

という真実が暴かれる——

だが、法や正義は絶えず隠蔽されてゆく…

だが、見えているもの——あるいは、聞こえているものは、

世界における凧のように——力と駆け引きのたえまない揺らぎ…

それは頭上を滑っていくカヌーのシルエットである…

——と、そこへ…

真っ白いボールが、不意に、はげしい勢いで象の足のよう——

..ぼむぼむ、と弾みながら――繊維をあきらかにしてゆく..

ゼロリを、ポプラの葉を、樅の木を..タンバリンでも撃つみたいに、

犬と猫、歩行者、壘、吸殻――草..

まるで、もっと大きな玩具を求める子供のように..

そこに、遠い時空があり、幻の国境がある..

もう一つの海――もう一つの空がある..

とてつもないスケールに広がってゆく人の可能性――

だが、まな板の上でソーセージは包丁でぶつ切りにされる場面が、

突如、流れる。

無形・多形の意識を伴う吸盤。蜘蛛の巣とカタツムリの殻。

落ちたツバメの巣を中心として蝮局を巻く蛇。..

ある男は肥えている。ベルトが締まらずにいる。

煙や煤を出しながら歩く、――蛙のような顔をしている。

ハートに痺気を出しながら――歩く..

そこにモスグリーン影があらわれ、いつまでも、

彼を追いかけてゆく――たえまない配慮が、断絶の歴史が、

あるいはプロセスが、テクノロジーが、

ただのひとつも負うこともできなかった恐怖を付与する..

その男は死ぬのだ――

欲望はこのようにして、死ぬのだ..

浸透されている無意識の影響力の中で、

死ぬのだ――

ホネのような話

ぽたぽた からだがさけて

ひたひたとちがあふれるんだ

みえ を はらない

ていさい を つくろわない

たゆむような たいおん をしっているとりのたまごは

むね の こどう を かみしめている

おやちゆみ まあま

ばいばい みんなおげんきで

いつか しぜん にとけてゆく ちえのわ

じつ は あたらしいめびうすのわ

こまくをやぶるはちのすに

まむしがどくのみずをすすめてくれた

うそ を つかない

いえす！ うなずこう

そんなしゅうへんゆうじ てのかわが はがれるだけ

おしゃべりのきゅうかんちょう を ふやすだけ

おやちゆみ ぱあば

ばいばい さよならあうひまで

ねがい と いのり が なまあたたかいまひる

ふんすい の みずしぶき と しのつばさ

素晴らしい世界

あなたは煙草を止める

あなたは愛する *Coffee* も止める…

無意識の領域の社会では、

いつだって、嘘っぽさを奨励してる。

言いたいことがあるね。溜まっているね。

たじろぐねーぶざまな空腹…

でも、それはそれで満足してるらしい…

酒も飲まないってね。すごいね。

タクシーも乗らず、

病院にもついでに行かなきゃいい。のうてんきで無防備な人は、

テレビのことをそっくりそのまま喋ってくれる。

疑いのまなざしまでそっくりだ。

ありがとう。カンジんなことすべて省略してくれて。

無意識のうちに、ニーチェとフロイトの悪口が出そうになる。

あやつらが出てくると、春本よりたちが悪いぜ、いや、マジで。

でも、間違ってるのは多分、いい生き方とか、たしなみ、とかなんだな。

激しく燃え上がることはないけど、そんなの、いらない。

小うるさく説教せず、これこれ助さん。

アホかよ、おまえ。ゴミ袋だせよ、ゴミ屋敷なっちまうよ。

いやいや、坂本だぜ！ だぜと言ったけど、時代劇だから？

その時代はみんな、ゴミだって食べちゃってんだよ。

骨一つ残さなかった。

すげえだろ、昔はよかった。

明らかに現代人をなめている批評家の、

それは昔からわかっていた、という趣旨の文句。

じゃあ、言え。言っていた言っていた。ぜよ、と言え。

そうでしたか。そうですか。

なんだスマートなふりしたデブ。

黙れ。うるさいうるさい。

黙らない。黙らない――

さように、子供のケンカみたいなやりとり。

途中からもう、誰が何喋ってたのかわかんないのね。

でも、悪口いわれたってのはわかる。

馬鹿だからね。

悪い言葉に、センサーが働く。

この前、チラリと詩人と擦れ違ったがね、

醜くて、やり場のない、パンツかと思った。

それ以上でもそれ以下でもない。

僕はフンドシになれたらどうか。なれたならいい。

フンドシならまだ赤いし、猛牛で、

いずれ、枯淡できる。でも、パンツいけない。

パンツは、やっぱり通俗的だ。

まあ、見るより、詩集をひもとくのをすすめる。

すげえぜ、つまらないこんなものに誰かが批評を書いて、

売り出してくれてる。

もし僕がそれを、マジックで上から詩集<馬鹿>とかいても、

そういう詩集なのかって思うよ。

いや、思わねえだろ。

でも、そういうの、詩人氣取りのひと達に多いわけだから。

帽子をかむって服を脱ぐ。

靴下かむって帽子をはく。破る、突き抜ける、

そして、ゴミになる。

芸術とはエキセントリック！

残酷なのは、正確な情報もエレガントでシックな魔術で、

これでございました。さようでしたか、という小芝居。

自作自演は、2ちゃんねるの素晴らしい得意技だが、

近頃では文学極道も筆頭候補だ。

僕は永遠のふくらはぎ、と呼んでやることにする。

意味分かんない？

頭わるいね、お前如きじゃわからないってことよ。

馬鹿だなあ、わかったふりするお前や、わからないことを、

延々とわかったように書くお前がバカってことだよ。

もちろん、永久に詩と思想は不潔です。

はやく潰れりゃいいのに。花屋と八百屋と床屋は合体しないよ、

永久に結びつかないよ、とっていたら、

この前、スーパーに床屋があってビックリ。

そこまでするかって世の中なのだなあ。

胡散臭い上に病んでいてグレートだぜ！

美人がちんぼ生えてりゃいいのに。

もういっそ、亀の頭に皿がありゃいいのに。

なんでもかんでも、女性的なのは考えもの。

というか、男性的ってコードの話でしょ。

男性的=SIMONETAは、評論家の忍術の一つである。

というか、女性だってちんぼくらい言うぜ。

フルーツポンチなんていわないけど、

それぐらい、言うぜ。コロリ出てきた、ゴキブリホイホイ。

女でも、ゴキブリくらい言うぜ。

ハゲとか、デブとか、もう眼ン玉とびだすようなこと言うぜ。

アクメは言わないけど、イク、は言うぜ。

賢くて下品で、でもポーズでお洒落でまんとはひひで、

社会的に満足しきってるおっさんを、たぶらかす。

——いまじゃ、僕の方が不在の人物みたい。

…というか、途中から、

何か悪いこと、書き続けてたような気がする、

アディオス！

怖いものもいっぱい、

切なくて狂おしいものもいっぱい！

…でも、美よ！ 心よ！

我が日本よ！

——とかね、軽く言っちゃまえ、

はるかに合理的ではないだろうか。

そうだろ、

どうせ、美でも心でも日本でもないなら、

手をさしのべたふりくらい上手くなれ。

電信柱に、

サンダルが丑三つ時されてる。

立原道造の<或る風に寄せて>をremix

おまへのことでいつばいだつた 西風よ

たるんだ唄のうたひやまない Oh...Oh... 雨の昼に

とざした窓のうすあかりに<yeah yeah...>

さびしい思ひを噛みながら **over over...**

おぼえてみた おののきも 顫へも

<Maybe I'll cut my hair...>

あれは見知らないものたちだ.....

ものたち！

夕ぐれごとに かがやいた方から吹いて来て

「去つては歸る、導かれては眠る..

Lots of different countries」 ..

あれはもう たたまれて 心にかかつてゐる

おまへのうたつた とほい調べだ——

Went through a maze...uum..

誰がそれを引き出すのだらう 誰が

(おまへおまへ)

それを忘れるのだらう.....さうして

I bet it'll be fun.....

Let's go home together...

夕ぐれが夜に変わるたび 雲は死に

the black [white] notes .. 思うまま——

そそがれて来るうすやみのなかに

Oh...Oh... Oh...Oh...

おまへは 西風よ みんななくしてしまつた と

しまつたと——<yeah yeah...>

しまつた！ **over over...**

Pure white

午後も終わろうとするころに、

鐘楼、黒糸...白糸

のろまな高熱は政治的仕掛け、

「腕時計ではもうそろそろ12時」

シャンロン..あなたにいろいろ心配をかけたから..

聞いて..いろいろな曲一一回路図

じゃれて、悪戯ばかりする猫が、爪で引っ掻いたのは、

さみし一一いからだよ..

さみしい..

「いろいろ入り組んだ事情がある」

(a) deep colour

天気であろうとなかろうと一一

海にはいろいろな魚がいる..

一一いろいろなことがつづいて起こった

いろいろなことがそんな風に、

終わって行った..

(a) deep colour

(a) deep colour

春はもう過ぎて、溜息が

蒸発する ..揮発する

シャンロン・・・

粘土を押していろいろな形にする、僕は・・

いろいろな果物の夢を見る・・・

小さな種が、降ってくる・・

南の風に一一乗って・・

夜の星座を連れて・・・

一一シャンロン、降ろうが照ろうが、

槍が降ろうが、蛙がばたばた降ってこようが、

竜巻が来ようが、

そろそろ終わりの時間ですよ、

星の光一一大気のゆらめき・・

じゃれて、悪戯ばかりする猫が、爪で引っ掻いたのは、

さみし一一いからだよ・・

さみしい・・・夢の後一一

長い夢の続き・・

僕は見ると見る、余韻・・

生きるということ

見ろ！

逃げるレノンの夢・・・

消えろ！

チャック・ベリー！

緋色——鶯色・・・

悪い薬は生死を問わず——1,2,3で、

ストッキングやドレスをビリビリに破った・・・

時に、それはあなたが持っていることすべて・・・

選択の余地がない無・・・力・・・

苦・・・い・・・経験——

エレクトリックギター、サククス、ベース、ドラムセット、

シンセサイザー、キーボード・・・

<ロッカールームで僕等は、ろうばいしている蠟燭みたいだった・・・

ビールを飲みながら、・・・>

(ほろ酔い機嫌で、年頃の娘を口説いてた。)

あ、そろそろ帰らないと——

18歳の写真・・・その二年後、無気力の内に解散――

ぼろぼろの古いフォードは氷河みたいにのろのろと動く、
午前一時、セロリみたいなぼろぼろの裸足の少年と会う。

「いろいろな事だろう。」

薪をくべろ――薪をくべろ・・・

彼は白髪になっている・・・

ドアーズ、初期のピンク・フロイド、

ジェファーソン・エアプレイン、グレイトフル・デッド・・・

「順調かい――徒労かい？」

(もうそろそろわかる年頃だ)

colors named black and white ...

とぐる縄の黴。・・・とぐる縄の黴。

<誰だって、本当の自分を知らないんだ・・・>

僕は、雑踏の中のひとりにしか過ぎないわけだし、

こみいったいろいろな事情を考えめぐらしながら、気分で！もう一回・・・

色白で劣等な犬になり果てる。ドアを閉じろ・・・黙れ、やめろ・・・

夜に泣く――世論。コウモリがサーカスするブラックユーモア。

ホロホロ鳥は言う。

私が行うようになった、私が得た…

「エレクトリックギターのエフェクター類の発展——」

おろかな猿が続ける。次は誰、次は誰ですか？…

「大音量の出せるPA…」 <絶望的な舗装の空腹…>

Let's be going now!

Let's be going now!

見ろ！

逃げるレノンの夢…

消えろ！

チャック・ベリー！

緋色——鶯色…

いい夢見ろよ！

そう言いながら、ころがり落ちる…

転がって、転がって、ごろごろと音をたてる。

肯いたら、唾になる。黒い石炭になる。

のろのろどろどろと流れる、1000の署名。

「そしてもう…戦えない——…何て愚かだったろう、でも、

灰になるんだ…でも、Highだったんだ…」

薪をくべろ——薪をくべろ…

どろ深い沼の蛙みたいだ…

あるいは、鎧兜みたいだ…

でも、ちょっと待って、ちょっと待って——…

とぐる縄の黴。…とぐる縄の黴。

ワイルドだろ！…少年はもう消えている、

そして俺の頭の後ろに、値札をつけられながら、

商業的な肥大化は進み——

異文化同士の交流は進む。

心のよりどころ——は…いや、ooooohhh、…

アナログ回路！…ほろびた国——

白黒映画！——太陽が明日輝くと信じている、

少年の夢は、ほろ苦い、溜息や愚痴の詰まった、

ブルース…撫でてみるよ。ほころび、に…

——ブルー…ス……本当の愛が自殺する、神に祈る、

あなたのための空気になる、汚染する…

Let's be going now!

Let's be going now!

歩道橋のそれも真ん中に、

ポトン、と、提灯みたいに生首が落ちていた。

一瞬、通りかかったその男は、

猟奇殺人を想起したが…

ぐるりと動いたのを見て、

なあんだートリックか、と安心して歩いた。

手品でよく見かけるやつだ。

きっと、悪戯でこんなことをしているのだろう。

…ちょっと、からかってやるか、と思った。

ぎゃあああああ！

ナマ首はニタニタと笑い、

ふゆーっ、と浮かんだ。

などというと思ったか、おらあ、キイック！

すかっ！ すかっ！

ナマ首にあたらぬ…

まさか、と男は思った――

フォトグラフィー！

素晴らしい、いつこんな技術が開発されたのだろう、

しかしこれを放っておく手はない、

男は、とりあえず、観察した・・

でもあんまりにも、ジロジロ見つめるので、

薄気味悪くなったナマ首は、

ぴょん、と歩道橋から飛び降りて、

消えた――

それを見て、男――

すごい、チャップリンも真っ青！

私は認めることができる

僕は君の手を握っている――

あなたは、広い空・・

ひそひそと花が降ります――

夜の空気を通して星はかがやきながら、

あなたは僕と一緒に飛ぶための翼を探している・・

のどかな水音をはじき返しながら、

木深いところから小禽の音が

きこえてくる・・・

満開の香りの後――

(花びらと、冷めたい虚空が張りつめている・・)

僕は蛇・・陶器――

小川の水車・・

花の梢の車道――

静かな山川の景色・・

孤独で泣きたいことがある人の気持ちが・・

近頃、僕にもわかる――・・

「幸い、傷みは軽かった・・」

満開の香りの後――

(花びらと、冷めたい虚空が張りつめている…)

ますます無関心になってゆく僕等に、

疎外されてゆく僕等に、

忙しい、という言葉や、

することがある、という言葉は、

唯一の打開策になる…

でも、思い出すのは、

ひねもす遊びくらし時代ののどかさ…

花がおびただしく散りいそぐ――

梢のさみしさ…上品な江戸絵を見る如きなつかしさ、

美しさ古めかしさ、はらはらと散りながら、

小つむじが来る…ひえひえとある腕の感覚から、

曲線のしなやかな花衣――

白々とうき上ったシルエットがゆらいでいる…

残念ながら、

私はとても幸せになりたいと思っていません

…個人的意見ですが――

——朝、目覚めるとご飯を食べるのが嫌で、

でもお腹が減るから、<純粋に偶然に誘惑…>

目覚まし時計を齧ってみたりしたのよ…

涙や悲しい話ばかりが素晴らしいとみなされるけど、

——センチや、奥ゆかしさのことばかり言うけど、

心の清い人は、ブサイクでいいみたいに言う…奴——

さもなければ、金もなくて貧しくてもよいと言う奴…

(目覚まし時計を齧ってみたりしたのよ…)

(メザマシドケイ…)

…1時54分 今夜は、私はあなたのものではない

——痛みのない孤独な 午前7時10分

私は鏡の前で自分を認めることができる 8時54分…

私はあなたを忘れる理由を考えている 午前9時19分

でも僕は君の手を握っている——

あなたは、広い空…

あなたは、空…

「花にかくれて奥が見えない…んだ——

秘密の扉の奥に、君の不安や、悲しみがあるのは、

わかって——る…

魔力だ…君が生きてゆくための、魔力…

それで、攻撃をかわす—それで、

君は本当の自分を隠した…でも知りたい、

その命に潜む魔力…本当の君の素顔—…」

満開の香りの後—

(花びらと、冷めたい虚空が張りつめている…)

僕は蛇…陶器—

小川の水車…

花の梢の車道—

静かな山川の景色…

太陽が赤いシャツを褪せさせた――

シャツは風に揺れ、土ぼこりにまみれ、

・・奴は、目元を飾る仕掛け爆弾――・・

「諸君に向って感謝の意を表する・・」

いびつな長方形が――呑まれてった・・

――思いあがった大火輪と共に・・

そして、海洋という千古の大神秘に呑まれ去った

――太陽が水平線に傾くにつれて、

球体の海が見えてくる・・

――慣性航法装置・・

藍摺り絵にも似た、気温二七度、水温十七度・・

渺茫たる水平線の彼方に、万有進化の流れの極地、

きたるべき、夜空――に・・ムーン・・・

右の狭苦しい入口からすぐに、<心臓>

、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、
未成年者に課せられた制限・・

それでも核ミサイル兵器にも似た、

発酵させて膨らませたパン――過激な爆発・・

——石器時代的な、戦争…

「それでも、この船に乗りな…相棒——

都市より、海より、もっと大きな海に出るんだ…ボヤボヤすんなよ、

いいかい、この旅は二度と戻れない旅だぜ——…」

そうでなくては——と言った…

こう揺れるはずがな——い…

<茫洋たる音楽の風気楼>

あの長いコンクリートの——通路……

いや、それとて嘘…、頭と尻尾の部分を除いた中間部…

様々な古代文明が…その道を選んだと言う——

ほんものに見せかけた、まがい物の戦闘機…戦艦——

それでも長い間の経験がそうさせる——自然とそこに定められるのだ、

しかし愚なるものも、自他の共鳴を完全にして導いた、宇宙の道に…

もう僕等の、羅針盤はいらな——い…

素晴らしい道具は、これからきっと手に入る…

——証人は宣誓せずに立つ…

・・・漂泳生物は[この時]（拡声器・・・アナウンスー）

ほのぼのとした清らかな色や、

そのすがすがしい匂いや肌ざわり――

――紫陽花は きっと 濡れている・・・

暗雲の低迷した――驟雨・・・か所に寄せ合わせる痕跡、魔のトライアングル・・・

・・・・・・そこに地上における最も美しい姿態・・・あるいは、死体・・・

それが...いきもの...であった...ころ.....

ざんねん...ながら...そのような...きじゅつ...はない...

それでも、規格の統一とはおよそ縁のない、悪食の脂肪――

あるいは、先天性代謝異常――いや、羽根の抜けた鳥・・・

それでも奴は腐らず、俺たちを待ってた――

海底に何千年も眠りこけていた・・・酸素ボンベがなくても歩ける、

気圧の変化はない、その体内の神秘・・・コックピットがある、そして、

秘密のボタンを押せば、自由な空飛ぶ船が・・・浮かび始める――海から、

汝の生ると符節を合する如く、・・・空へ、零が鳴る――

セコイア――ホエール・・・

夏のシルエット

自分のデスクに 腕いっぱいの花を飾った

それは一つ残された口紅を。

「ゆらめか せていたのさ..」

22歳の彼女、バターとブルーベリーのジャム..

22歳の彼女、LOVE要素の混入したピンクの携帯

.....Hana o ageru

...Hana o

太陽光線は大きな鏡 であつろに偏向し、

コーヒーの煙はお伽噺 になつた、エキストラ

(砂時計—— リビングルームの床..)

「太陽エネルギーは生活に大きな役割を果たすかなあ..」

(風が吹く——その力も..)

——そつと..

——夕方に理科の実験を始める誰も気づかない泡..

たあいな会話の危険信号..

Flower 無駄遣いな ため息踊る ハスキーなシルエット

僕は空中の 椰子の実に 触れるダンサー。

「ゆらめか せていたのさ..」

...君は可憐な夏

.....僕は不揃いな切り花

.....Hana o ageru

...Hana o

長い前髪に花びらみたいなくちびるに柔らかい室内を知る耳..

街の中では、誰もページを捲らない—— トビラ..

so you may give me a kiss.

(め...が...きれい...な...鹿...)

必死で走る——傷はひどく痛んだ

齒

天は焼かなければならない——悪魔の魂が目を醒ます前に...

コンドルは飛んで行く

コンドルは飛んで行く

——一体何が起きているって言うんだ？...と誰かが言った——

すごいスピードで運転しながら——

Sky...一年中雨が降る.....ここで、僕の魂がトレインになる...

信じようと信じまいと...

追われる人の群れ！

お前を殺す日！...

ほら穴、地の穴をさまよいつけた...僕等の祖先は、

そこで珍しい鳥を見たんだ...、

灯りをつけないまま暖炉の前に座ったように男は...

ぼんやりと宇宙を――妖艶にした・・

――蜂の巣に 　――蜂の巣に 　――蜂の巣に

一匹のアシナガバチ

「超セクシーだった。・・」

(辺りはみわたすかぎりまっ平らで、・・何かが、)

.....くりぬ...かれて...いる...みたい...だった...

それが道路に落ちていた・・

――僕は想像した・・

腐食する紙の陰鬱な証言・・・偽ることに慣れて――あなたのもの・・

――想像したんだ・・

一本の樹。隣にもう一本の樹。

「彼らはわかってやっているんだ」・・

――ここは池・・影絵となって生きながらえている蝶・・・

.....灰色の塔の絵の趣きにみちた感傷的な鐘の音

(樹は互いが重なる場所で、静かな愛撫を始めている。

――動くんだ・・こいつらは、動くんだ・・・)

・・・刺した。慎重に、用心深く、<アハ><あは><アハ>

――ちくり！と・・

そして――・・

<アハ><あは> <アハ>

<アハ><あは> <アハ>

あなたはあなたの目を閉じて・・・対潜水艦――

『あなたは美しいアゲハ蝶だよ・・・』

感覚、判断力、自覚、良識、意識、感触・・・

.....*You make me feel better.*

.....「**You Make Me Feel Brand New**」

水中眼鏡とシュノーケルと足ひれをつけて、

・・・僕等は蒼い幻へと沈んでいった

・・・貝)

おそらくわたしが求めているものは死体です

想いすぎて

ネジがグルグルまわる

まわりすぎてねじの頭が

見えなくなるほど に ………

いみ

微妙じくもかすかにゆめむ氷が溶けくるところなれば

鈍くものうき呻きをみよ

どうせおなじ節

どうせおなじなよびに

蒸れたような麦藁のにおい

それは奇妙な丸さだ

ロータス

時代の拷問装置 ! 故郷を忘れ夢見心地

たとえばやわらかい顎の下

むし

じっと止まる蟲

しょうこうねつ

ねっば くちずさ

猩紅熱のくるしさが それとも熱波の口荒み

た

ぬるき吐息のいとしさに 懈ゆく まぶしく くるおしく

そう喚きたくなる

わめき た く な る !

わざ しづえ
ごくごくと故意と音をたてて飲む女の下枝のゆらぎ

みなも ぼぶら とおな
白鳥のバタ足 水面のなげきにわが白楊のかたわらの遠嘶き馬車

しゃがみ込んで

うっ
泣いてしまいたくなる鬱

みなも
それは夜の水面に

ながれ揺れしてる輪郭だろう そそくさと立ちては半魚人

啼きさやぐ女の鳥に腰まわす

夢はたゆたひ ひたわかく

足裏が湿っていくだろ う

ゆっくりと靴が濡れて い く ！

被り物の内側から頭全体を覆う白いヴェールから

この女性が修道女 あるいは尼といった

聖職についていることを示す

みな底に鏡がある の だ

理不尽にねじれた自画像 ！ それを

黙って見ているということは

涙ひとつ流さないということは

なめいし ロ コ コ ト ー ン

てりはえる大理石の貝殻風の曲線や縁飾りのおでこへと

かめ

空甕のふたならびする耳へと ……

おしろい

きな白粉の首筋へとひやみ

キス

しみいれども接吻をして 小さな渦がうまれている

ローキー

控え目の ? その悪意を さアどうしよう

歯も磨けず 顔も洗えず

トイレにも入れない水の恐怖

ワ ー ム ・ ワ ー ム ・ ワ ー ム

ミミ ズうじ 虫寄生 虫 ……

悪戯っぽい目つきをたまにしながら草は濡れつつ

とむらい

プラットフォームのうちしめる花は葬送のしらせよ

ワ ー プ ・ ワ ー プ ・ ワ ー プ

それ るはずれ るゆが む ……

ほろ

幌なしのリヤカーの帽子かぶりし氷売りをおもえり

ロ マ ン ス

ふれてはこわれてしまうような 叙情的な少楽曲

かげろう

もろい蜉蝣の翼のような

少女性のガラス製品を売っている

ほこり あげ

虚栄のために朱にくづるる

うわごと

玻璃のおびゆる みだらなる囁語

ぱっしょん・ふらわあ

七月はキリストの受難 ！

人生ゲームをする少女

奇妙な戦争 ！

味もな い 香りもな い 目覚めすらもな い

少女の手に もた れ た 人形が

つばき

百合の翹をしるほか は

カラバン

隊商の裳裾をしるほ か は

女性捜査官が敬礼をして い る ！

護衛役 ボディーガード

たまよ

また大きな流れのなかでは捨て駒として 弾除けとして

風が止まった よ う な錯覚 を 味わわせてくれる人に

まったく出会って いな い

透明な瞳 澄んでいるみづうみ ……

あんな 高度 な 世界 に 対する チャネリング能力 が

ぎん

ああ 僕 の からだ を 黄金いろ に かえ て

ア ター ジ ョ

てりはえかがやく翼 で ゆる や か に

きっと もう 二度 と な い

抑圧 といった もの を 解放して うまれてく る

ア タ ー ジ ョ

自然 の あるがまま の ゆる や か に

それ は おりいぶ の 色

シール

蛙の卵 の 紋章

白玉みたいに あま く しゃぼん玉のよう に きれ い

ライトやカメラの位置の調整を

技師たちは入念に準備 す る

複数のカメラをつかってことなる角度から

ひとつのシーンを撮影し 俳優の動きなどを

もっともよくとらえたフィルム を あとでつなぎあわせる

絶世の美女クレオパトラが愛したエメラルドの指輪

緑の色は

成分としてふくまれているクロムによるもの

だとすれば植物も

君の爪もクロムなのかい ？

なよ

しんぷおにい

軟ら風のすずしさも ややありて交響曲も 星の華

まあち

うつらうつら と 行進曲のほつほつともれゆく さ ま

つきしろ

しゃぼん

月魄のしめやげる石鹼のふきいづる硝子の工程

愛についてではなく 愛を優しくつつむもの と し て

潮の満ち引き や 日の出 や 日没 や

大気の循環 や 鐘の音 や

緑が落ちては生える再生と死 を おも う

孔雀の求愛・エリマキトカゲの威嚇

チンパンジーの挨拶行動

絡み合う足 花と蛇

完全なる飼育 ………

路上でシャボン玉が無限にうみだされつづけている

まるで水道管やガス管のように 電線のように

しむら ひやわら びやく
肉は冷笑いをす る ふるえくづる雲の媚薬

うみ たんでき
帆のはためきは海邑の耽溺

女はゆらゆる胸を 鼻を 膝をわれのため ね に 音をしばり

おお そしてこの噴水の動きに よれ
ア ダ ー ジ ョ
よじれ る 針の舌 の ゆる や か に

その未知 な る 月日の長さ が

くちつけあまきペリカンのシャボン玉発生装置

ア ダ ー ジ ョ

ああ 手許 の 花 に ゆる や か に

自由律俳句

セミ——咳・・

失せろ！ えせ科学・・

せがむ ねあせ

セミ——咳・・

セロリ——パセリ・・

セロリ——パセリ・・

セロリ——パセリ・・

（小川がせせらぐ——小川が……せせらぐ）

遺言、ダニエル、チャドへ行け

日本滅びるね、ダニエル…

ダニエル…

さらわれた、仲間の名前は、USA…

何故ってもちろん、ホットドックに、

マスタードかけすぎた罪で…

—いや、冗談だぜ。

でも、少し背が伸びたかな…

コーラ飲んでる？

いや、瞳がシュワシュワしてる。

おっと—生意気言うなあ、こいつ、しばらく見ない間に、

でも、眼がきらきらしてる、前を見てる証拠だ。

いい子だ。よろしく頼む—ダニエル…

くらい道でも歩ける、

どんな坂道でも突っ走れる…！

目の前に敷かれたレールに疑問を持ったことはない、

…牧場でウシの乳をしぼるようなものさ！

怖かったけれど、勇気を持ってやることやっていれば、

あっという間に、歳を喰っちまう、

真夜中月面着陸してウサギたちと工事をする…

泉の島という意味さ、ジャマイカ…

ソクラテス、プラトン、ニーチェ…

もちろん、全部ハツタリさ、ジャマイカ…

それにしても、ダニエル、

ジャマイカを連呼していると、

じゃがいものことを考えてしまうのは何故なんだろう、

人生は、どうでもいい蘊蓄を楽しむかどうかさ。

-光と刻-

うたわれるもの…

うたわれるもの…

カシワモチのカシワの葉は九割以上が中国…

ああ、涙は鼻にも流れ込むってね、たとえば花火の玉は、

仮面ライダーじゃないけど、一号から四〇号まであって、

三〇号で爆発する高さは七〇〇メートル、

飛び散る直径は六〇〇メートルで、燃焼時間は二秒から四秒、

…ダニエル、一秒の長さは、

平均的な一日の八万六四〇〇分の一を一秒とする、から、

一九〇〇年一月〇日正午に対応する、

太陽年の三一五五万六九二五・九七四七分の一とする、さ…

さて自治体で処分される捨て犬は、年間で四〇万頭以上、

猫は、三〇万頭・・・

あーあ、シベリアン・ハスキーとか、ゴールデン・レトリバーとか、

そういう奴達のことを考えてたら、

ーダニエル、俺も昔はおしゃべりな男だった、

ムードメーカーで、人気者だった。でも、

他人の中に自分を見つけられなくなった時、

表情を沈ませた自閉的な男になり、周囲にいつも気を配るのが嫌になり、

目をそらして座りながら、自分自身のことをよく考えるようになった。

自分がわかってみて、はじめて、本当に、世界がわかる。

世界は、公平さを欠いている。平等じゃない。

でもその責任は、お前たち、ひとりひとりだ。

人間なんて、どうでもいいよな、ダニエル、

早くこの世界を終わらせて・・・

悩みも大したことないように思えてくるよ、

根拠もなく、自分の隠れた才能と出会えそうな気がするよ、

マツタケ、わずか一〇〇グラムで、一～二万円・・・ああそうそう、

アマエビの話知ってるかい、

彼等は生まれた時、男ばかりなんだけど、

四年目の春を境に、一匹残らず女に性転換するんだ。

なんだか、黒いこんにゃくに、

海藻の粉末が混ぜられているっていうようなものさ、

ダニエル、..

立ってるだけならサルでもできる、

ヤルだけなら犬猫にもできる、

得意料理が、焼き肉って答えた時の気まずさ、

大好物カレーって何じゃそりゃ、

——友達にすすめられて、食べたくもない、

激辛カレーを食べる。ああ、ダニエル..

そぼくなヨーグルトを下さい！

ああ、ダニエル、ベーブルースのバットを下さい！

...悪の十字架あああああっ！

ピガッ！

..ぼごっ。おいおい、やめろよ、眼ン玉とびだして、

世界一周してしまうところだった。

でも、そうだな、BLネタはよそうぜ、けど..

自分を抱いている幻を見た。音が意志を垣間見せて..

石となる、その幻の中、たくさんの音が感情を記憶した。

すべてのメロディーを集めよう、

そして唇であたらしい摩擦運動を求めてる！

…BLネタじゃなく？

もちろん、ネタじゃないさ、ダニエル——…

約束をしよう、お前に花をくれてやる、

机に花瓶を置いて！

…イジメ？…違う、生まれ変わっていく、あたらしい花束！

——ダニエル、

ところで、前から聞いたかった、

どうしてお前、ダニエルって言うの？…

——俺が呼んだ？…本当かい、ダニエル、…

ダニエル…

ごめん、何も思い浮かばない——

さらさらこれっぽっちも思い浮かばない…

ダニエル、チャドへ行け！

あの内戦の多い、こんな心の内戦の時代、

——チャドへ行け！

さっき、世界地図にダーツさしたから！

ああ、ダニエル…チャドへ行け、

遺言だぞ、遺言…はは——

のど

それは咽喉からではなく

耳からくるものだと 抓つねってみて 紅あかくなる

――ほかにもなんだか懐かしいものが

取り揃えられているらしい！ 気さくにまじりにいかなければ

裏のほそい髪みせの毛のような竹林のむこう かかとの店

出処進退いろいろのメモが手じなのように赤・青に貼られ

とりたてて埃かぶりのすさまじいものは 黄いろの蓄音器よろしく

店の奥にしまわれて よどみなくしゃべる幸福のひと時を

通りすがりの人にはもう届かないのに いまもまだ

壁によりかかりながら倒れずに 所有者の手を待っている

それは咽喉からではなく

耳からくるものだと 抓つねってみて 紅あかくなる

――でもそれに中身があるという保証はない

世間知らずは連帯保証人で困るが！ ぺらぺら軽薄に饒舌ル勿レ

包装紙に リボンに やすっぽい袋のまつわりのなかで

いったいどれだけの人がそこに消費という言葉をあてがったろう

その俵おもかげはいまでもうつくしいのに 紙幣や硬貨にはなぜか紅くれなのいろ

シャッターを開けて 埃叩きをもち 扇風機がぶうんと回りはじめる

やがてテレビのおとが 食事をもそもそとやるおとが

やがてわたしたちの手にふれる運命のいち典型となぜいえぬだろう

それは咽喉からではなく

耳からくるものだと 抓ってみて 紅くなる

――はるばるとやってきたはずのものでさえ

値札や名札のうちにあり おおみえ そして店頭で大虚飾きっているそいつも

ひとつのあぶなっかしい芸くらいにしかおもえない

芋の皮をつるつると剥いてひと連なりの職人芸をみせるようにしか

それはさっぱりわけのわからぬシールだ 太鼓判だ

それがわたしたちの看板になり 広告塔になり 案内人になる ガイド

とおりすがりの自動車もためらいがちに 自転車もよわよわしげに

アンティーク きせつきせつ
おいてけぼりのような好古趣味の季節々々をうかびあがらせる

それは咽喉からではなく

耳からくるものだと 抓ってみて 紅くなる

――わたしはときどきそういう棚にならべられた

骨とう品のような気分でおちつかなくなる！ 指さきをみると

出血大サービスだの こびりついた汚れのようなシール痕があり こん

はなはだ爪ばかり噛みたいような心持ちがする！ おお あわれで

しかし沙漠のディーアモンドのうつくしさを 掘出し物とよばれ

一期一会を演出できたのなら この曇りもいつかとれるかもしれない

はつ恋の少女はいまも外国人のような手足をして ガラス細工の

こわれやすいうつくしさを わたしの瞳をじい^めっとみている

汽船の船腹の過ぎてゆくごとし

月に近きは銀の如く光り、遠く——遠く・・・

五月の夜空を、首の痛くなるほど眺めている

有視界飛行

野性の放課後——

(流れる血...)

(流れる言葉.....)

思いがけない石油を流したような光彩が、浮かぶ

、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、

ベニスのゴンドラのように——

、、、、、、

酔うように——溺れるように・・・

哲人の喉頭にも逆らない深思の水、・・・

——風は止まず！

——葉落ちてやまず！

接眼部から光が入らないように、

プラスチックのカバーをしているカメラを余所に、

水の面を蔽っている蓮の葉の間から、

水すましが水の面をすべる・・・

柔らかに影——子どもたちは歌いながら・・・

<真っ直ぐ伸びた>――

<塔に行きて、相構えて戸を開きて入りぬ>

「千年も万年も、依然として肩から上を雲に、…」

(でも雲は知らない――水の行き先…世界を洗う布…)

…角膜に光を投射し、

その反射光によって眼球の動きをとらえる装置。――

「ご覧、その中にはいつている、

アイオロスを――」

流れる、木の枝を幹は振り向いたりはしない…

――流れる、砂を時間は観たりしない…

肌の温みに氷河の衣がいつか溶け――る…

造船所で、船体を載せる台のように、

緊密にしてしかも回転自在な構成――

ああ、空気のなかにどんな波動でお前は飛んでいるのだろう、

小さな青い綿毛のように、静けさを貴きながら――

しづけさ あたい

静寂の値価を量る…花卉の表裏が色を異にする…

(流れる血…)

(流れる言葉……)

――僕に向って進んでいる地方からやってくるこの風は、

幾世の人の夢を描いては消し、消しては描いたもの・・

汽船の船腹の過ぎてゆくごとし、――

汽船の船腹の過ぎてゆくごとし、・・

女性の水泳水着を…

見ながら研ぎ澄まされた僕のオスが、応仁の乱したのだった…！

彼を見ては駄目！…見ちゃダメって、試験ベイビー、お受験ベイビーたちに言う、

むらむらくるなあ、母親…

——羞恥プレイ？

…僕はもちろん、水着を手に取り、頬ずりした。

これが女性のしなやかな身体に食い込むのだな…

そして危険な夏の日差しが、その肌に、そっと名残をのこしていくのだ、

…店員さああああん、危ない人じゃないです！

むしろ、名誉毀損です、…ええ、はい、だから一杯お茶でも…

バチン——ふ、モテる男は辛い。

そして俺は階段を駆け下りる——もう、振り返らないと決めたんだ、

野性の本能が目覚めた俺は獲物を狩りに行く…

ビー・バップしようぜ！

ビー・バップしようぜ！

めくらめっぽう、ただわけもなく情熱的にあこがれてきた芸術の神秘に、

一步踏み出せる…それが、由実かおるでもいい！

ギリギリ、由実かおるとなら！

そこに、ヌクミズが歩いていてもいい！

いや、HGが「フー！」と言ってもいい、

だって、鮮やかな羽根すべてでもって飾りたてた孔雀はもう死んだから。

…弱々しくも甘美な情熱には、チーズの匂いがしていたはずだから。

そして、ケンコバが、

ママレード・ボーイを熱唱してくれたから！…

だから俺は窓をたたき割っても、骨折しないだろう…！

激しい雨に三時間打たれ続けても、風邪なんか引いたりしない…！

ありがとう、オードリーヘップバーン！

ただただ逃げ出すことを欲しながらの数年間、通りを探し当て、

僕はついにその建物を確認し、

未確認の水着を身につけた女たちのリングを売るさまに見とれた！…

ダーウィン、いま僕の股間にある、それは、新しい麒麟となる。

フロイト、それはもしかしたら近親相姦なのかも知れない。

ゲーテ、あなたの伝説的な老いらくの恋を認めよう…

卑劣で不細工で醜悪なまでの生への執着が、保守だと言ったあの日、

三島由紀生は、――

…いま、心の底から彼に対する哀れみの念を禁じえなかった僕は、

情熱的にすすり泣きながら、警察官の前で、「バブー、ぼく、三歳だよ…」

と言っていた――ああ、偏見が心をかき乱さないところで、

僕は昆虫学…

そうさ、僕のソーセジマフィン…

ドラマチックな感動をヘンタイしていこう…

猛烈な気力の間をいきつ戻りつ――

由実かおる！

ビー・バップしようぜ！

ママレードボーイ！

星をいくつも数えながら

涙が 僕の心を さらってゆく

キレイで やさしそうな かわいらしい心

海の 心臓の音 聴きながら

そして 君は 絵画の音を聴きながら――

街の方へ向かって投げすてた あの 星屑は

大人たちが 壊してしまった・・

涙が いくつも こぼれていったら

まるで 子供ではなくなるみたいに・・・

あの日の子供は 闇のよしなしごと

川瀬の音に 鮎の気配・・

黄色い花 黄色い花を 摘んだね

小さな 小さな花だったね

涙が 僕の心を さらってゆく

キレイで やさしそうな かわいらしい心

…大好きって 言われたかった あの人は

多分 人の眼ばかり気にして

大嫌いって 言われても

思い出のアルバムに 人の心は残る――

記憶の中の彼女は 少女マンガのヒロインだ

彼女の夢は 孤独な時代の移り香だ

…心にたくさん問題をかかえた人達が

そしておそらく 鍵を見つけられない人達が

これからたくさん問題を起こしてゆく 時代だ

これから社会が変わってゆく 時代だ

それでも 優しく少し淋しそうに

微笑んでいられたら いい…

何か 大切なことが 君の胸の中に

見つかりさえすれば それでいい――

悪の組織を 壊滅させるのは 君だけ

愛の弓で みんなを恋に落とすのは 君だけ

…ねえ 無性に悲しい気持ちがした

うすっぺらなくせに 心の中 知ってる僕が嫌だった

全部わかりきったことが 時代なんだと

認めねばならない さみしさが 胸を吹き抜ける…

涙が 僕の心を さらってゆく

キレイで やさしそうな かわいらしい心

そして僕は 夜なのに 気付いていた

その夜が 夜であることに 気付いていた

夜なのに 夜なのに

、、、、、、、、
そしてそれはもう ただの夜なのに…

君は犬の言葉を 探してる

僕は猫の言葉を 探してる

君は星の言葉を 探してる

僕は海の言葉を 探してる

——秘められた 夜に あれこれ考えるのは

ろくでもない子供だけだよ…

でも ろくでもない子供は

すばらしい大人になりたい子供だよ…

悩ましくくびれたウェストライン

大きくて形のよいバスト

きれいでととのった顔

やさしくて そつがない 器量よし—

そうじゃない そうじゃないって

僕は 君に向かってなら 正直に言える

みんな 少し狂ってたんだね

文明の魔法に 生活の呪縛に

—少し 狂ってたんだね

段々 間違えていったんだね

だから嘘が 美しくなったんだね

自分が 美しくなれなくなったんだね

自分から 進んで 始められなくなったんだね

ただ 始められなくなったんだね

涙が 僕の心を さらってゆく

キレイで やさしそうな かわいらしい心

音がしなくなったら 歌はおしまい

恋をしなくなったら 生きることはおしまい

願うことをやめたら ねえ祈ることをやめたら

そして どんどんみんなが 自分勝手になっていったら

それでも 星を 旅し続けていたら

この旅が 永遠に 続けられるとしたら…

涙が 笑顔に変わったら

空の雨が 晴れ間に変わっていったら

束縛が 自由になっていったら

神様がいなくても 神様になっていたら

——都市を終わらせよう

ねえ もう文明を終わらせよう

少女がいない 少女を

大人にする 馬鹿になる

少年がいない 少年を

大人にする 馬鹿になる

――涙が もし 止まっても

悲しいことが もし なくなっても…

生きることをやめたとしても

ねえ そこですべてを終わらせられたとしても

どきどきしない 夢 に

何を見るの 大人たち？――

大人たちは 子供たちに

何を教えるの その穢れきった 心で

よみちをてくてくあるいていると

へびがいすわっていた

なあんだ！

と つぎのしゅんかん

そこに ひもがおちていることにきづく

しょうがっこうじだいのきおくが

ふいに ぱあっとよみがえり

てんしのらっぱたいをつれて

ほうかごのきょうしつで

なわとびをへびにみまちがえたことを

うすのろにおもいだす

けれど ひもは へびのすがたである

だから こまは へびのひとみだ

ぐるぐるとまわりながら

“せい”と“どう”のさかいめをじょうずに

ぐるぐるとおりぬけていく

ぼくはひもをむんぎゅとつかまえて

むちのようにしならせる

ここんとうざいのしはいしゃたちが

このんで じゃあくさをはつきしたように

うまにそれをくれてやるように……

ぼくはいっぴきのへびである

よみちをてくてくあるいているのは

なんのけいかいしんもないおんなたちだ

ぼくはむちをもっている

そしてぼくはへび

もうじゅうつかいのようにとびだしたぼくは

かんだかいさけびをあげながら

ほんとうのひもはでんせんなのだとおもった

いや よぞらがひもなのだとおもった

ぼくは ながいひものことばかりかんがえつづけて

いつか じぶんのあたまのひもにきづく

いつか どうかせんのひもに……

はなびのようなじんせいをのぞむひとは

はじめからそうさだめられたように

じぶんのいきかたにさからえないものをかんじている

しかし いったい だれだっただろう

その ひもがあるこーる・らんぷのように

めらめらともえているといったひとは

かれは はなびをうちあげつづける と かれはいう

どらむかんにつっこんだ“が”が

きみには はたのようにみえないだろうか

せんじょうをつっぱしっていく

あたらしい えいゆうのうれいがおを

あなたが――心と・・見せてくれた

情熱が――ありありと思い出せる・・

空 それは塗り替えていく前触れ

朝 息をする時の呼吸の浅い緊張

人 胸がみしりと痛む人の流れ

透過しにくい精神の物質

――このまま・・

時が過ぎるのを待ってみようか……

サラリと――発せられた言葉は・・

・・とてつもなく――重いハンマーで・・

心によぎって それでも吹きぬけていく

胸には・・隙間風――

今この文面の中にある この余白・・

空の中心には何があるのだろうか？・・

それが知りたい、と思っていた――

その到達できない高みへと・・その空の中心には、

まだ見ぬ世界があるのだろうか？・・誰も行ったことのない場所が。

僕がまだ見ぬ世界は、何処かにあるはずなのだ。

なのに、たかが知れている――果てがちゃんとある・・

「だから呟いた…返事なんかいらぬ！――」

(だから呟いた、――時間なんかいらぬ！…)

ねえ今でも覚えているんだ…

琥珀色の瞳に心が動いた…あの日々を――

一つの季節 思い描く時――
ひょいと跨ぐように
乗り越えていく季節であればいい…

空よ 僕の声きこえるか否か

――聞こえてくる 太陽の律動のような

森よ 誰かいる誰かきこえるか誰か

――僕ではない僕もその誰か 頭から否定する

光よ 惹かれた報い感じて夢見る枕

毛布の温もりに 真夜中が逃げ込む…

君が段々変わっていくのを知りながら、
――ずっと言い出せなくなっていた…
青い色の孤独、黄昏色の孤独…

僕はまだ君に 伝えていない言葉を

――伝えたくてつたえたくて

他に何にも考えられなくて

…どうにかなってしまいそうで嫌だった――

――うまれよう 誰もが一人の子供だった

静謐かすめんとする 雲であらんことを

たなびく雲を流す風になろう そしてまた

その雲を染めていく 太陽であらんことを

ごちゃごちゃに絡んだ――毛糸の玉ばかりだったなあ…
夜空に紛れ込んだ塵やガス――みたいだったなあ…
行き先も知らず流されている僕は…ひよっとすると、もう魂で、
それは見知らぬ惑星へと続いているのかなあ…

ねえ、この優しくて儂い音を 僕はただずっとその音を

聴いていたいと願っただけ――

この不思議を まだ知らないくせに……

あんなに素敵にとろけそうな音することも

知らないくせに…

見果てぬ青の彼方――このおおらかな空に、

…その手がないなら、僕がその手になるよ

僕が死んだら必ず、その空の雲や風に――

なってみせるよ…

――この 季節 を 歩き出したものの 為に…

――そだてよう 清冽たる想いに口を塞ぎ

その雨を呼び込む 森という名をしたポンプ

そだてよう 石炭をシャベルで入れるように

川の流れも そして野花も 野鳥の声も

…その命の炎を委ね そして燃やして

光が――またどンドン、遠ざかる・・

二つの色がある、白と青、――

それが寄り添ってはなれなかった 季節に・・

あなたが目印をした――喜び・・

(――この やわらかい 水色の風・・)

緊張感

オオカミがヒツジに近づく。

くわっ…くわっ、バクシュン！

な、なにその笑い。と、ヒツジ。

くしゃみだよ、笑いじゃない。

(笑) じゃないの？

(噓) だよ。

ねえ、どうして僕等は閉じたがるんだろう？

簡単だよ、喰われるのがこわいからさ。

オオカミさん、ボク食べたい？

…食べたい—けど、食べられない。

どうして？

だって、話してしまった—

話したら食べられなくなるの？

誰かと話していて、殺そうと考えるかい？…

それは本物の殺人狂だよ。

じゃあ、オオカミさんは違うんだ。

違うね、ただ、ヒツジが大好きなだけ。

でもやっぱり、こわいね。

怖いというな、怖いといわれると、噛みたくなる。

可愛い、..オオカミさん、可愛い！

そうだ、やられる前に考えろ——

生き抜くために考えろ？

そう、弱くても強くても賢い奴は必ず生き残る。

でも、そうならないこともあるよね？

その場合は、神が裏切った、と言えればいい..

でも神が、俺たちに干渉する方が珍しい。

すべては構成要素にすぎない、直接のものは殆どない、

言い表すものすべてと同じく、間接的なものばかり！..

——ねえオオカミさん、

これ、何かわかりますか？

ピストル、あるいはピストーレ？

..そう、これで、オオカミさんを撃ちます。

撃てよ！…狙いを外すな！

——躊躇したら、俺はお前に喰らいついて離れない！

…撃たないとは言わないの？

——言わないよ、羊なら殊更、撃ちたいものさ。

…でもボクが撃たない可能性もある。

——そうだね、撃たないかも知れない。

油断させているという可能性もある。

そうだね、なぶり殺し。

でもね、ヒツジ君、撃つ撃たないはともかく、

本当のところ、

鹿がライオンに勝ってしまうケース、

あるいは熊が崖から落ちてしまうケースもある。

——確かに僕等に緊張感はない。

でも、緊張が必ずしも尖っているとは限らない。

潜伏している緊張を読み取っているヒツジが、

銃を持つことを、…もし、オオカミが知っていたら？

もし、オオカミが防弾ジョッキを着て、

わざと泳がせていたら？..

くま君、物に当たる

おおきなめがねをつけた、パンダがいます。

こうみえて大きな家に住んでいます。

みみが、チャームポイントです。

名前を、リンリン、と言います。

…アイタッ！

アイタタッ！

くま、おこる。

くま、った。

くまる。くまった。

…ご主人さまです。

おもちゃのかたづけが苦手で、

でも、ママのいいつけで、

せいりせいとん、します。

でも、ぼんぼん、箱の中に投げるので、

自分に当たったのです。

「—ごめんデス、くま君、許してデス

許してデス…」

イッパイ、ポロポロ、ナミダ、

コボレル、…

かわいい、かわいい、

ご主人の女の子…

チャイニーズな顔立ちだけれど、

生粋の日本人。

でも、いまだに、ボクのことを、

くま、だと思っている。

ドウシヨウ、パンダ、デス…

—くま、ジャナイ…くま、ジャナイ…

「あとで、お菓子あげるデス…

笹食べる、くま君と食べるデス…」

—笹食べるの知ってて、

何故、くまと言うの？…

ア…

オカシ、トリニイッタ…

マ、イッカ…

へビの話

蛇が、言った…

俺の方が強い。

もう一匹の、蛇が、言った…

俺の方がもっと——

片方は蟻局を巻き、

片方はそそり勃った！

と、そこへ、キツネがやってきて、

これこれ、

助さん、角さん、と言いました…

そんなに力競べしたいなら、

まず、道路へ出てごらん、

チキンじゃないんだろう？

いわれるがまま、出ます。

出てなお、威嚇しあう二匹。

キツネはさらに指示を出します。

頭と頭を結んでごらん…

いわれるがまま、ぎゅっと絡まる。

力競べするだけのことはあって、

二匹とも、ツチノコみたいに太い。

東い、アナコンダの助。

西イィ、つちのこ兵衛。

…と、キツネ。

なにか、相撲をさせたいよう——

しかし、ちょっと気分が出てきた二匹は、

頭と頭をぶつけあう。

張り手のつもりらしい。

つっぱりのつもりらしい。

——そう、それで、引っ張り合って御覧…

と、いわれるがまま、

ぐっ、と力を入れ合うと、

真中に結び目ができた

キツネは、敏捷な動きで、去った。

ヘビは、むぐぐ、むぐぐ、身動きがとれない…

遠くから大きなトラックの音が聞こえ、

あ、と言っている間に、

二匹の蛇は轢かれた一一…

ツキノワグマ

ツキノワグマが歩いてたぜえ、カッコよかったなあ、

あんまり俺がジロジロ見るもんだから、ギロって、八つ裂きにすんぞ、

だよなあ——そうだよなあ..

「どうしてあたしを見るの？」

照れているのね——あなた、照れていたのだなあ、ハハ、

俺、嬉しくなっちゃってさ、そこ座れよって言って、

指差した先、公園で、

シュールなギャグのハリボテ。人を笑わせる絵だ。

「ちょっと待ってろ」って、彼女をこんもりとした木かげに隠して、

コンビニでシャンプー買って、

すぐに彼女の頭にしてやった、..

蛇口を攻撃的にしながら、ぶっしゃああ、かけてやった！

「..夏ね。」と、彼女は言った。

「ビール飲むか。」と、僕は言った。

「飲む。」

「よし。」

それから、コンビニで、花火を買って、ビールを買い、

友達にメールを入れて、みんなで、夏を満喫した。

くまだあ。くまだあ。と、みんな、さわっていた。

でも、僕は思う。本当のところ、さわれるくまがすごいんじゃないくて、

はなせるくまがかわいいんだってこと――

パトカーがやってきて、途中、彼女が連れてかれるんじゃないかとビビったけど、

まあいいかという風に、町の平和を守っていた。

それでも、彼女は、沈黙していた。

「大丈夫か？」と、やせて細い腕をしている、僕は、彼女に抱きつく。

でも次の瞬間、ぱりん、って音がして、飛び散った。

グレープフルーツみたいな香りがしていた――はかない命だ

イメージが壊れたんじゃないそいつが生きてたっていう均衡が壊れたんだ

よもやと思っていたような異様な経験をしたんじゃない、

病的な嗜好が炸裂したんだ！風船は、絶対に割れたりしない、

どんなにふくらませたって、眼工閉じない限り、割れたりしない。

ピースサインは戦争の勝利の意味だったvictoryからきてるって知ってるか？

俺は知らない、知らない、知らない――し、まずすぎて俺は、知らない。

待ち合わせる場所

視野のなかへと力任せな進入――

ボクノ気分ハ最高点ト最低点ノ競り合イ。

せきとつば。へどとげろ。

固い音が時どきするサイコロ、人生の気持ちが動く聖なる無気力、

積極性のない、

笛の音。――ヤツノ声・・

見せかけの謙虚さ・・と、

偽ものの勇敢さ。消散したり凝聚したりしながら、

――粗野な花売り娘が過ぎる・・

弱々しく羽をふるわせる、昆虫。

頭のうえで声がした、うんめいてきな出会い、

トウトツニシテ変、気持ち悪イイイ、

デモチャントシテイタンダナ、成長シタ女性ノアマイ薫リ・・

、、、、、、

満足させるって、子供のほしい女・・

二つの曲線が――過ぎ去った青春・・

、、、、、、

満足させるって、舌にピアスいれてる女・・

てっぺんまで行って、またカクン、って折れ曲がって坂道を駆け下りる、

<mind>どっかにあるっていう、

——こんところおるたわあ、で…

帰らないものを悲しみ惜しんでトンチンカンな真似ばかりするう！

ないものねだり、そんですぐに、体色が黄赤色・金色・紅色・白色——

「指きりだね」って、めちゃくちゃに誤魔化しながら、小さな幸せが消えていったなあ、

「大好きデス」って、それ自体がメンヘラ、やられ損で、

鱗。でも、なんか、十年ぐらいしたら、こいつ本当に馬鹿だなんて思い出すのかも——

どうすりゃいいのかわからないけど窓ガラスに腕つつこんで血だらだら流してみる、

なんて出来るわけではないけど、愛してる！——

終わりません——ゲロ…

飲み過ぎて呂律がまわらなくなって吐きまくって、壊れまくって、

もう後、そのまま街角にすててくれ！

「お前の代わりに、恋心のせつなさでアイツをしばいとくから」

「ねえ常識なんかで、人の気持ちはかれないってアイツぶっとばしとくから！」

…先週の面接の結果が来た——不採用。

友達からメールが来た。死ぬ。ふざけんな。チェーンメール。

「ハハ…いや、不真面目なんじゃなくて、人生における不採用じゃない。」

「——カッコツケ。」

嗅覚器だけがいいことを考えてたんだ…

犬だった、俺犬だった…犬でいい、生きてるだけでもいい、

もっと別のことを考えようぜ、明るくて目茶苦茶な鬱でいようぜ！

(フライトレコーダー,フライト・レコーダー)

静けさは暈 となって…炎となって、憎しみとなって、声裏返って、

微かな植物の朽ちてゆく匂いとなった――

なんかもう別にそれほど苦痛じゃないけど疲れたなあ…

なんかもう別にそれほど苦痛じゃないけど疲れたなあ…

なんかもう別にそれほど苦痛じゃないけど疲れたなあ…

見セカケノ同情ノ縫イ目――

ダッテモウ意味ワカンナイシ…

石器文化の段階にある愛憎。アルコール度数ばかりが上がってゆく――

女性は石像に見えてくる…ふあふあして、もあもあ…でも、――気付かなかった、

泣き声えええ！

燃えはじめさせる、すでに、推進用プロペラ！

プッ。モウイロンナコトニ意味ナイシ――…

夜、アメエエバアアナ夜…

笛の音。――ヤツノオナラ…

エスカルゴみたいなボタンを一つ一つ外すのが嫌で、全部取っ払った、

脱がすのも面倒くさくて、引きちぎった――愛って何？…

余計なお世話だよ馬鹿、あせっていらだって、早く逃げねえよ馬鹿、

ひどい目にあわせーるつもりで逆にしばかれて、

現代ニ夜露死苦トカソレ自体ガ馬鹿・・

馬鹿！・・

板にのせた野菜は氷っている。

麻痺している。憂鬱が黒く渡り、

絹布に花鳥を青くすり出す・・朝！――

ダーリン、地下茎から群がり生える若芽を見せて！

ダーリン、出席と欠席なんかに興味ない俺の教科書を見て！

・・・なんか

――なんか、・・？

<愛欲の迷いがそのまま悟りにつながる道もあるんだぜ！>

静脈血が動脈側に流れ込む――パニック・・

左心室と右心室を隔てる壁に欠損孔・・

なんか・・・

なんか穏やかでやわらいでいる――

わけねえだろ馬鹿！・・

以前見た夢の一部が本当になった――

美しくて愉快なのは、これまでの嘘！ 病める部分を取り出して眺めた！

..欲しくないもんばかり手に入ったなあ！

、 、 、 、 、 、 、

満足させるって、でまかせの言葉..

惑星も衛星もわからないし——言語やグラフで標準の世界にすんなよ..

、 、 、 、 、 、 、

満足させるって、見せかけの元気..

はげしくせめる、調子を合わせる、そんでまた、絶望の行進曲！..

<mind>一匹の悲しんでいる生き物の病んでいる表情、

さらして、シェールガス、シェーは古いギャグ、

さらして、——燃えるよ..燃える——灰になる、

もっとぶざまに、おぞましく、さらすことがステキ

——こんとろおるたわあ、で..

「——たった一枚の死神..」

時は——過ぎた..

he-goat...he-goat...

効き目の顕著な薬。

一言も発せず。隠せば罪深し、

溜めれば藍で青く顔を隈取る藍隈。

<クスリ>

sos...緊張せる神経が（ぬれぎぬを<きせる>）

汚名を晴らす手立ては？..<きせる>

かくて花を召しませ滅亡せる靈魂..

「ぐっと飲め。飲めば、咽喉が焼けるように熱い。..

人間の能力を格段に高める薬。

蝮の生き血。鼈。井守に蜥蜴..にんにくに、キムチに——

マンドラゴラ。四葉のクローバー。..その他にも——」

（生成..スルー薬）演算速度、グラフィックス処理——

[補説]この作業は昼夜兼行で行われる。鍋にぶち込み、
三十日かけて煮続け、ワインやウォッカを足しながら、
ある呪文を唱え続ける——根気のいる作業だ..

——満月の夜、見せてあげよう..

材料が揃ったら。ああ、仰せごもつとも、煙に巻く。

...だが、私にあるのは、名誉・存続などのために行動しようとする心。

錬金術の時代に消えた<魔導書>

..昭和の時代、戦死者の遺族や傷痍軍人の救護を主な目的として、

あるいは、ポーランドのユダヤ人居留地に生きる人びとのために、

はたまた、万有引力の法則、微積分法、光のスペクトル分析として、

、、、、、、、、

そのクスリは売られた。パトリオティズムとしてではなく――

図形・記号――アイコノクラズム

[押し問答するのは、その悟りの深淺を試すが故]

ゆえに――葉の話をするのは、本当に必要な人を探す為]

幼児のかわいらしい盛りの少年が、これを買いたい、と言った。

彼は、ロボットが好きだった。宇宙進出を果たした人類の未来史に、

ロボットと、戦争と、未来の道具を想像し続ける作家となった。

――彼は、その代わりに、五百円玉をくれた。

<クスリ>

「私は、可能性の値段が好きです――

悲しい出来事をつづった物語。悲しい歴史に、光を灯す、

……純粋な子供たちの夢――」

私は、――どうしてこのようなものを作り始めたのか、<きせる>

<きせる>――どうして世界中を渡り歩いたのか、長い話になります。

ですが、《integrated circuit》「集積回路」

なかに、人生の暇つぶしですよ。

才能や努力も所詮はキッカケなしには成立しないと教えてやったまでのこと。

人体・生物などに対する影響とその防護――

暇つぶしですよ、高尚なね。

——たとえば、憔悴せる顔で才能を欲しがってる無能な人びと。

彼等に、嘘の薬を飲ませてやるのも私の趣味です。

それを飲むと、身体はどこかしらに不調和が出てくるはずです。

いえいえ、——これまったく同じ薬。

イメージングサイトメトリー... 《imaging cytometry》

退歩せる国民にとってみれば似而非薬剤師。望むところ！

飲む方の心次第で、毒にも薬にも——なる…

感染制御認定臨床微生物検査技師さながらのね。

もちろん、垂涎せしむ犬にはドッグフードを。かさかさ。

ネコには、キャットフードを…パカッと！ね…

ハムスターには、ひ、ひ、ひまわりの種を——

人間の大人には、氷を思わせるような、淡い水色——…

本当は深いんです、でもその違いの区別がつかない、

気がつくと、身体が沈んでしまう、二度と浮かびあがれない、

健康志向。人口の九十パーセント以上が薬漬け。

効能は知ってる。おそらく（おそらく、）

…本当に深い海で、——

本当に本当に、暗い夜で——…

短詩

くもひつじ

ひつじは ちいさな ひつじでした

でも なつに になると

もこもこして ぷくうと ふくらんで

ふうせんになって とんでゆきます

はなうさぎ

はなのなかに しろい たまご が あります

これは はなうさぎ です

あるひ この たまご から

うさぎ が うまれ みみをだします

休日

ふか

蒸したての肉饅が、冬の間だけ天使になる、

ほわほわ、という悲しい音を想像させながら、

愛や、ぬくもりに

手で触れる時――・・・

きらきらのモールの飾り付けがあるわけでもないし、

спанコールの男もいない、

オーケストラ

管弦楽の伴奏も、ロマンティックなカクテルもない、

フェードインとフェードアウトを繰り返すのみ・・・

そっと静かに半分に割るのもいいし、

歯で饅頭の部分だけ先に齧るのもいい、前菜として――

あるいは、大きく口を開けて、三分の一くらい、

食べるつもりでいるのもいい、舌が火傷しなければいいね・・・

僕は手に包帯が巻かれている人、あるいは、イヌみたいに、

はふはふ、しながら食べるのがBest だ――って・・・思う・・・

電話の請求書、電気の請求書、ガスの請求書・・・

それと同じくらい、うすっぺらい紙がついて――る・・・

呑みたくて、呑みこみたくって仕方なかった、アナコンダの性質も、

申し訳なさそうに、膝に載せる性質の前では意味を持たない、

缶コーヒーを、ポケットに入れる性質・・

カンガルーがどうしてお腹のなかに子供を入れるのかの似而非蘊蓄・・

僕等って、僕等って・・泣かないんだね――

郵便受けのポストに、理由を聞かせてと誰かからの手紙・・

重要書類と、同封の返信封筒――

はたまた町内のおしらせ・・

豚肉、タマネギ、タケノコ、干しシイタケ・・、

そして、そこに君の好きだった練り辛子も用意する――

僕等って、僕等って・・ふしぎ――だね・・

過ぎていく街並みをリア・ウィンドウから見ながら思っていた・・・

重いコートを引きずって歩いていた僕・・

寒さが口からこぼれて、ただ家へ帰りたかった僕・・・

(を、) 狂わせる、怒らせる――

僕等って、僕等って・・

ゆっくりとざらついて漂う、力なく突っ伏して責める・・

本当のこと、嘘のこと、

変えられそうなこと、変えられないこと――

僕等って、僕等って…

、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、
心細いんだね、ねえ淋しいんだね…

…（ゼロ）は、続いでる…フランプンを千切るみたいに、
あるいは、鳩にパンを千切ってやるみたいな感情が続いでる——
それだけ？」——それだけ…」

、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、
春が口からあふれている、
もっとも！…プライベートな感情を忘れながら、
愛の灯台、——<やわらかい電飾のVeilとなって…>
若草の丘辺…<hellとheavenを感じる、直立するアンテナ>

…てらてらと輝いて…る、口内に、とろっ——と…
唾液があふれてきて、ねっとり、ぐじゅぐじゅとして、
——何処にあると思う、
誘惑的な宝石、ケーキを飾るクリームの花…

僕等って、僕等って…
夢の中…一粒の真珠を探してるのかな——
あたたかさに触れながら、心のように震えているのかな…

僕等って、僕等って…
視神経のうらがわの傷付きやすい果肉の可憐な尖り…
拗ねた恥じらい——無防備な後退…

僕等って、僕等って..

他愛ないんだね、そうして過ごすんだね、休日..

僕は楽しく芸術をし、恋人を探し、そして死体を見つける

夕ぐれが夜に変わる。

死体を湖で見つけたので、

親切な態度で、おら、と蹴って、水の中に落としておいてあげた。

困ったもんだよ、人殺しとか、自殺もいいけどね、

後片付けはちゃんとしろ、ってね。

…よいことをした後は、読みたい本を見つけるなどのラッキーがあり、

後ろで、水に濡れた女が、恨めしそうに僕を見ていた。

あんまりにも変な眼で見るので、二三回、目薬しすぎだろ、いけないぞ、

と言うと、照れて、隣の男の部屋へ行った。

隣の男は、発狂しているので、大丈夫です。

「みなさんが本当にやりたいことを見つけて、

それをやり通すことを願っています！」

…こんな奴、狂ってるに決まってる。

アジアの熱帯沿岸水域で――

『すてきなネクタイ』…

――プレゼントの箱を見つけると、手で叩いて、ドラムや太鼓のように、
ぼこすかたたいて、ぺっしょんこにしました。

中身がケーキだったので、ぐっちゃぐっちゃになっていました。

…犬の餌。

《諸君、これは僕の数日の記録です――

カブトムシの幼虫が、僕の部屋に寝かせてくれ、とあんまりにも言うので、
しょうがないなあ、来いよ、と言うと、三日間寝て、突然、成虫になって、
「この恩は絶対に忘れぬ。…忘れたらごめん。」と言って去って行った…》

小便くさい話ばかりだった。

ところで、駅でつい洩らしてしまった女性が、

…恥ずかしそうだったので、

僕も一緒に洩らしてあげた。

そうすると、色んな人が、僕等を変な眼で見たので、

「実は、これ、違うんです。」と言ってみた。

通り行く人の中には、フフ、と笑う人もいたが、

そういう奴に限って、ブリーフにうんこつけてるんだ、と僕は思った。

うんこのくせに笑うなんてひどい話だ！…

患者が特定の病気に対しての遺伝的な傾向を持っているかどうかを見つける試みのために、

質問をたずねられる患者の病歴。

「…エイズですか？」

「あなたは？」

僕等はお互いに、好きでも嫌いでもないけれど、

こういう時は、お互い裸になるのが一番だと知っていた。

とりあえず、女性とラブホテルに入って四、五発やって、

うん、何事もまったく解決していないけれど、気持ちよかった、と言ってから、

一緒にタオル巻いて、ズボンとスカートとパンツとパンティーを買いに行き、

「――いろいろ、大変でしたね。」と言って、別れた。

女性は最後まで、素敵だったわ、と言ったけれど、

素敵だったわ、が、本当だなんて、僕はこれっぽっちも信じてない。

奥床しい女性がどれくらい激しくベッドで乱れたからって、

それと同じくらい、ヘビメタバンドのライブは異様な光景である。

そうそう、目的を忘れていた、

とあわてて、タクシーに乗って、目的地へ――

博覧会の会場で、

退屈だった僕だが、もう既に、仕事を終えていたので、ベンチに坐ると、

ひと組の手袋を見つけた。

(わたしのです…)

ダイヤモンドの違法取引の証拠を？…

人の動機[忠誠, 性格]を？――

「それ、わたしのです。」

緑色の眼をした、美人の女性だが、ヘビや一部のトカゲのように脚が退化している。

具体的に言えば、すごく、脚が短いのだ。モデルになれない。

だが、そんなのはまだマシで、カメ類のように鱗と骨格が一体化したあれと同じで、

あんまり俯向くものだから、ある日、甲羅を背負っていたサラリーマンもいる。

ともあれ、彼女はSFチックな脚をしていて、美しかった。

僕が画家だったら、とりあえず、舐めていただろう。

おっと、なめられない。背中に〈売約済み〉という札を吊るしていた。

だが、間違って〈売薬〉になっていた。

…あぶない薬飲んでなかったらいいんだけど、と思いながら、

いいですよ、もちろん、と僕は言った。

われわれが他人を疑えば疑うほど、他人もわれわれを疑うであろう。

そう言うと、地球が丸い、なんて嘘だったア、と急に怒り出したのだ。

「なんですか、あなた、口説いてるんですか、ゼウスですか、
やめて、どこ触ってるの。」

どこも触っていないけれど、彼女は突然、感じ始めたのだ。

しょうがないので、僕は看板を持ってきて、

[ただいま女性発情中フェアー] とマジックペンで書いてあげた。

女性は安心して、ねえ、とか、ああん、とか言っていた。

もちろん、僕は超能力者ではないけれど、股間の中をたいへんに怒張させていた。

「おおぐま座とこぐま座の話知ってるんですか、ぷるる…おっと、失礼」

手袋は、少年が持って行ってしまった。

女性は、携帯をあそこにしまって、ぷるんぷるんとしていた。

モノクローナル抗体は製造ラボで合成され、

がん細胞などの体内に存在する対象物を見つけ出して、

それに結合する性質がある。

、、、、、、、、、、
タイヤの跡を見つけた。

雑沓のなかで腰を据え

ただただ月の光の秒刻は一一…

噴水で、熱帯魚がびよんびよん楽しそうに泳いでいた。

「可愛いな…」と、素直に言うと、

チュッ、とキスしてくれる。

ちっとも魚らしくなくて、そこがよかった。

もし、魚らしかったら、ぽりぽりと、頬を搔いたかも知れない。

ずいぶんなテクニシャンだな、と僕は思った。

「――あなた、変な人ね。でもあたし、変な人好きよ。」

「変じゃないです。でも、熱帯魚に変と言われるのは構わないよ。」

「それ、変な人よ。」

熱帯魚は、もう一度、チュッとキスすると、

――僕は突然、長く残るものを、

太陽が照らしているどこかに見つけることは出来るでしょうか？・・と思った――

宗教の教義を否定することはできなくても、

疑わしいという推測を表明することはできるし、

威信の失墜は、ほっとけば数年で何かしらの真似をするのですぐ不審になる新興宗教。

――心に私なき時は疑うことなし、と熱帯魚は言った。

「一夜をすごせそうな場所を見つけたら絶対に教えてね。」

あたし、水槽持って出掛けるから。ぴょん、と飛び移るのよ。

それから人を操って、あなたの家までお届けにあがるわ。大丈夫、

あなたがそうだっていう時は、必ず見つけるのよ。

だって、誰が信じる？ 誰ともつながっていないなんて？・・

そして、水槽の中の熱帯魚が浮気相手だって…

あたしは信じるわよ！…でも、あなただって信じない。

世界中そうやって、楽しくやってるのよ。」

「ふむ…」

僕のねまきは、鮫やクジラにしよう。

「またね…ところで、チャック開いてるわよ。」

「おっと、また閉め忘れてたか。もういいや、開けとこう。」

別に、ツバメもここには巣をつくらない。」

噴水から、ビル街へ行くと、

エイズに対する治療法を見つけるために競争している、オランウータンがいて、

懸垂しながら、わけのわからないことを言っていた。

でも、彼らはバグなのだ。あるいは、人間だけれど、オランウータンというバグなのだ。

それゆえ、純血種や混血種の個体を見つけて集め、

その亜種を復活させるための繁殖プログラムを開始したいと考えている。

経験を積んだ研究者は、彼らが見つけることが、ディオニュソス的であると信じているが、

僕はアポロ的だと思う。苦痛は矛盾において根源的に一体であるとするならば、

純粹で理解の直観を離れたそれは、プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神、

とも言えるかも知れない。

リチャード・オーウェンのウィキペディアに載っていた写真から、

僕がキリシタンを想像しなかったと言えば嘘になる。

そういうことだ。

できる限りの多くの高対称軸から“全体図形”を見るのは、芸術的模倣と、

自己繁栄からだ。その後で、可能な空間群を分離することを、宗教社会的と言う。

「謹厳実直糞真面目頑固オヤジ雷生殖行為むんむんむーん！」

「…精が出ますね」

「話しかけないでくれ、気違い鼻血ぼたぼたいやらしいいやらしいいやらしい！」

大学生活で将来自分のしたいことを見つけたいと思う。…

そう想っていた時分がある。…

「いや、大学行ってないんだけどね…」

「知ってるわ。」

目の前に、包丁を持った女性がいて、それで刺します、とかじゃなくて、

もう既に、何処かで刺してきたらしい、血ぼたぼたの凶器を握り締めたまま、

僕にそう言った。

構成要素の説明書が、行方不明の息子を見つけたいと言っていた。

何処にあるのだ？…わからないー

「ちょうどよかった、誰か全然わからないけど、

レストランで昨夜、偶然長い間所在不明だったところを見つけた…

前に、野球のプロテクターをつけてバスケしていたから、

あいつ、ヘンタイだって言いたかったんだ。」

「そうね。」

「その、包丁きれいだね。」

「ありがとう。みんな、芸術だって褒めてくれるの。」

…芸術って狂気と紙一重のものだ。

生涯にわたるパートナーを見つけることがどれくらい大切なことに気付く。

チロシナーゼペプチドワクチンは生体の免疫系を刺激し、

黒色腫細胞を見つけ出して死滅させる。

——チューリップが咲き始める最初の数週間が、

絶対に答えではない大半のものを排除する。

中身がまーたくないので、ゆるしてくださいな歌

まぶたを撫でる哀しみに気付けない

知ってる——」

（知って る

あなたが 好き

愛して——る…

フェイクレザーみたいな表情…

6600円で可愛い靴が買えるわ」)

（「ねえ、どうしたの?…

ねえ、気持ち悪いよ——

頭大丈夫?

——中身ないの?

We call that color "midnight blue"

We call that color "midnight blue"

…欲しい物があるかって聞くから、

エジプトでは…から始めてしまうー

すっからかんの人生観、ー

わざとらしいカッコツケのポーズ、…

何も見ていない…何も聞いていない態度！

We call that color "midnight blue"

We call that color "midnight blue"

知ってる——」夕飯…)

(知ってる 「トレンド

…インテリア揃えて自分を空想する

恋人まで架空の合体ロボだ

(イカしすぎてあたまのネジがぶっ飛んじゃった！)

——ようこそ、Paradiseへ…

俵万智に一笑、サラダの味が気に入らない、

あの髪形が嫌い

…谷川俊太郎に爆笑、

母親を偽善者呼ばわりしながら、七光り

しかもハゲ！…

神風孵化すつもり

…おっと字まちがえた、わざとだけどな

…いいだろ、IQ低そうなんだから

そういう時代のコミュニケーションの取り方だろ、

ファックしてんだろ、誰も傷つかないんだろ？…

We call that color "midnight blue"

We call that color "midnight blue"

政治が下らないから、近頃、

民主党好きだったなあ、と言う。

—いや、レベニラ炒め的にね…

サンショウウオがウオリだす！

ウオオ！…ウオオ！

ウオオオオ！…ウオオ！…

(レバニラ?..)

オーレバーノニラアア!

ニャア、ソレハネコ

——かぶりもの、くわせもの..

We call that color "midnight blue"

We call that color "midnight blue"

本当にふかく——て..底が見えない、

何かが俺にはあるって、信じるのは素敵だ..

ねえ、まだそんなガキっぽいことやってんの?

——牛丼くいすぎて、ハンバーガーみたいな顔..

We call that color "midnight blue"

We call that color "midnight blue"

どういつながりがあるのかはわからないけど、

俺は、窓をたたき壊したああ!

...そして拳銃を構えて、

お空の星をバビュン、と撃ったのだ

サンショウウオがウオリだす！

ウオオ！…ウオオ！

ウオオオオ！…ウオオ！…

「泣いちゃうぞ。星だって泣いちゃうぞ…」

——たん・と・うお…と、幼児的文字遣い

三歳の時に見た、すでにつくりはじめてる嘘の記憶が、

あばれだす、モンキースパナー一百万個！

——おっと、股間が肛門になりかけていた…

We call that color "midnight blue"

We call that color "midnight blue"

水浸し

駅前のバスターミナルに

タクシーが停車している

車内は、水浸し…

いや、…と――

乗り込もうとした客が、パカッと開いた席に、

手をついて、ヒヤッ！

驚いて、びちゃっ…

あわてて出ようとした瞬間、運転手が制止して、

喋る…

洗車したんですよ…

職業を洗い流したかった

壁を壊したかった

だから窓を開けて洗車したんです――と…

個人タクシー。

年齢は、六十代――

ぼけているのだろう…

あるいは、やけになったのだろ——う…

乗ろうとした客は、

一万円をスッと財布から取り出し、

フロントガラスのワイパーで固定する…

もう一度…

えっ何ですか、と聞き返す。

耳が遠いのだが、声が小さいのだ。

もう一度、洗車してこい、

今度は、運転席の窓も開けて、——

I can't believe my eyes

僕は彼女が真実を知っていると思う。

…いいえ、私たちはみな真実を知りたがってる――

あなたにとっての…

(本当の自分自身をもっと知りたいのに…)

……解けない パズルだ……

ねえ、それでも僕は、愛が何であるかわかっていたいのです。

、、、

だから、いたって暢気に鼻歌混じりに言わせて。

――を踏み越えたゴールの先には…

――を踏み越えたゴールの先には…

輪の中に入れば、

《平和の大切さ》

特別な恋は、千の鳥を飛び立たせたようなものだったってね。

――いつも頭上の霧、取り違えたような返事ばかりしてた…

ねえだからシートベルトはずれても、ブラインドにも触れない。

ただ、空の地肌をさがして煙草の煙は空にゆっくりとたわむれる。

「*I wanna fuck someone...I wanna go...*」

——ここから始まって行って

——きつといつか君に辿りつく・・

.....あるがまま

それを知りたい。

それを知りたい。

...それを——

BはAと同じ、運命と名前は同じ、

方法と理由は現在の答えと同じ・・

心から知りたいと思う——正確な時間を・・

いいえ、ここに来るのかを・・・

このカッターは切れなくなり、時折冷え冷えと時の神秘を思い知る。

丘が続き、崖には落石が吸い込まれ、僕の眼は壺や井戸のようになる。

「都市とか、宇宙とか、空気とか、誇大妄想とか——」

(飽きもせず、眼を凝らしながら、覗きこんだりしてる…)

傷だらけになっちゃったマイクに唾とばしまくりながら…

目の前にかかえきれないほどの、ビラと花を捧げた…

「一瞬のうちに不幸は、爆発して…」

(臨時ニュースとなって、世界の終わりを知らせた)

——ごろりと仰向けになった僕は言う…

「魔法をかけて——」

(ねえ、とても疲れてしまったと思える時があるの…)

いそがしそうな人波で、平凡な羞らいを味わいながら…)

「僕の肉体が滅んでく…淋しくない——苦しくない…」

でも懸命に生き——て…種々の雑多な言葉に意識もっていかれて、——」

僕は美しい野蛮人…

そなわったクセという文明の背広きて——

(Xの大切さを知れば、もっとたくさんのがわかる、)

胸の上に耳をあて、本当にこの言葉が胸に響くまで——

……誰よりも一番知りたい。一番足りないもの、

胸に手をおいて何分間もじっとそうしている…

——いつかわかるだろう

——吐きだされた僕のため息の中に…

……永遠があったこと

もうこの感覚と戦うことはできないし、

多分この感じはもう戻ることがない。

一本の毛だって、絨毯の中で、不思議な列車を錯覚しただろう。

きりがいいよ…愛すること——

「I wanna fuck someone...I wanna go...」

——これ以上は無理です

僕が僕であるための、ここにこうして存在している理由…

僕が僕であるための、ここにこうして存在している理由…

——美しく燃えるほかにない魂……

でも、何処へいこう。いままさに、核シェルターへ突入する。

ロケットが底意地の悪い咽喉を鳴らして、……新しい暗雲をしらせる。

人気のないゲートになって、そこに立ってる女になって

——ねえ羞らひは、傘の隣にある紫陽花のようになって……

スナップ写真がめくれてゆく、僕が蹴躓いたアジアの島国、

純真さを忘れた、太陽のない国に……

「*I wanna f uck someone...I wanna go...*」

——こんな孤独も

——ブルースのトンネルに消えてしまう……

……シャウトしながら！

……退屈な世界へ

……君を連れて

……ねえ、何処までも転がって

——まるで影絵のように静かに留まりながら……

—水蒸気となって、煙となって…

I can't believe my eyes.....

I can't believe my eyes...